

秋香亭句集

坤合本



種香亭諧歌集序



吾邦元諧歌者比之詩辭異
旨同仲尼稱詩云多識鳥獸
草木之名其於諧歌亦復爾
爾不獨識鳥獸草木之名凡
上自王侯貴人下至士庶人

其情之所寓可以觀也吾
公治政之暇頗好斯技其意
之所刻卓爾超人一日從已
至申之際百篇立就敏捷寡
儔聞者莫不驚嘆所謂人情
之所寓者可以多識者亦皆

在斯中今使臣惟孝也屬之
剗剗所謹題其始云

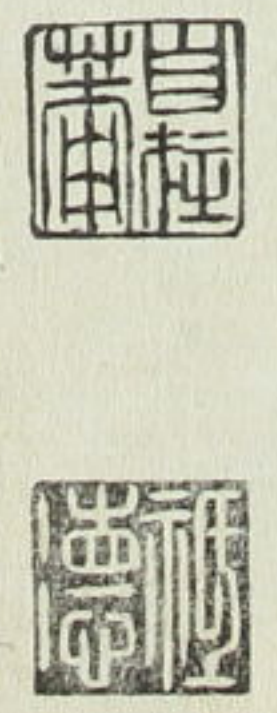
安永甲午季秋

侍賢 臣 荻惟孝謹序



月見の如き神に
 諸少ハ西に降る
 如る如く皆五
 乃實佐の神乃
 一書ハ何れ
 是れ

是くも人たる。芝山集
 人事もさるる其の如く
 うひく四時乃間たる
 有るもあつてあひく
 要するに加へる
 再あつての



序

俳句通系甲雪月花ほり記
 当棟梁也與路津乃木料或柱
 を志濱乃其破を礎として四時
 折り不流津材捨るふと或
 是を利何る是結して句法家と我
 未建甲也我

君此家より春秋乃材をとりて抄ひ
ききふ事一幸者一日秋香亭
小松ありて己の刻をせしむるの題
哉此一路りて時をわひてさふ
駒はあまに飛ぶあまに射る
如久り執筆の法を免いしは久

申の刻ふ家ん机上よりわたりて
洗物百有二十余以て
おとふを其趣く所画尔勺を
就摸——勺尔画さる代合を
幽玄に境より入り書を分
るは探りてす櫻木乃指尔

高
出
部

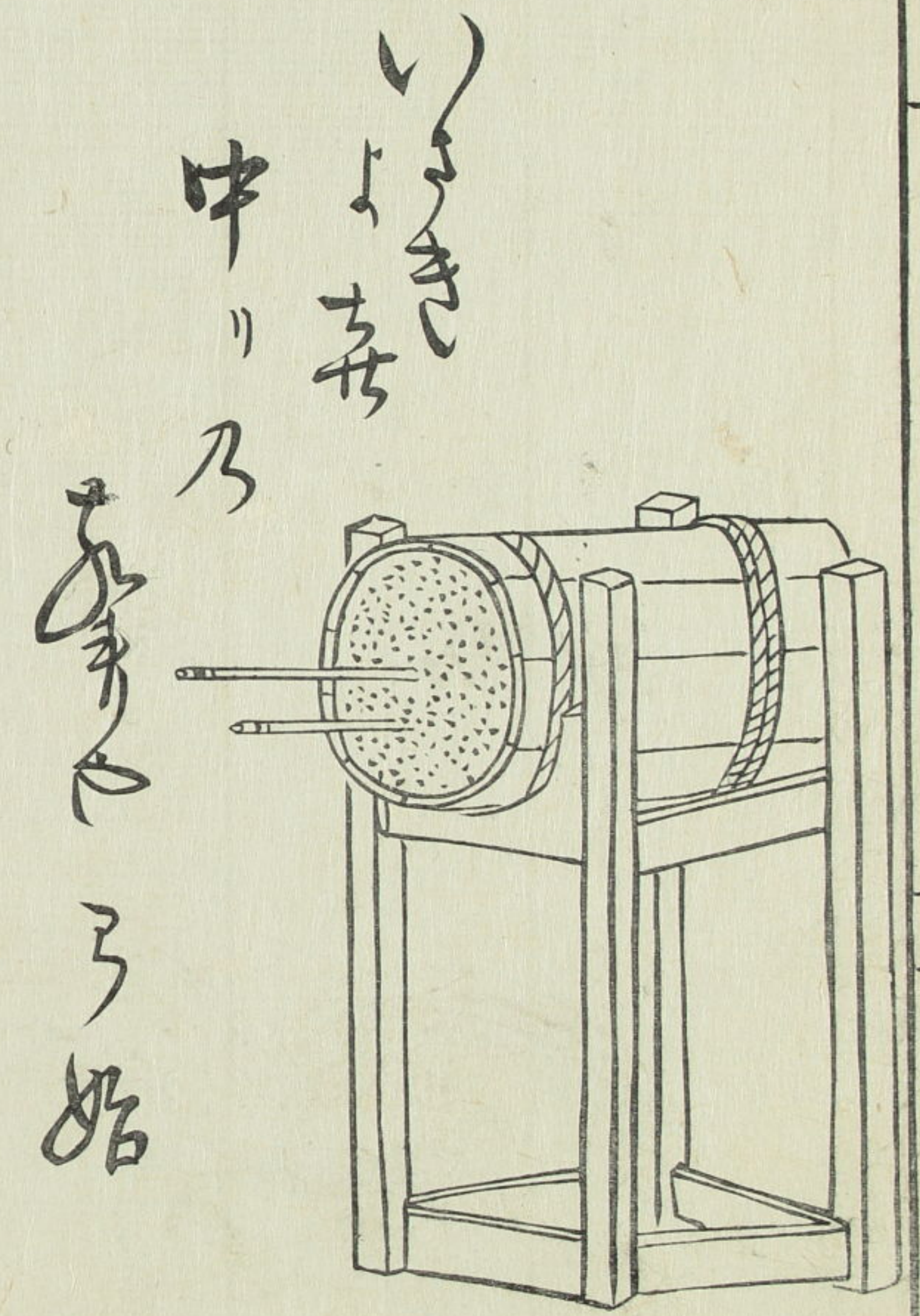
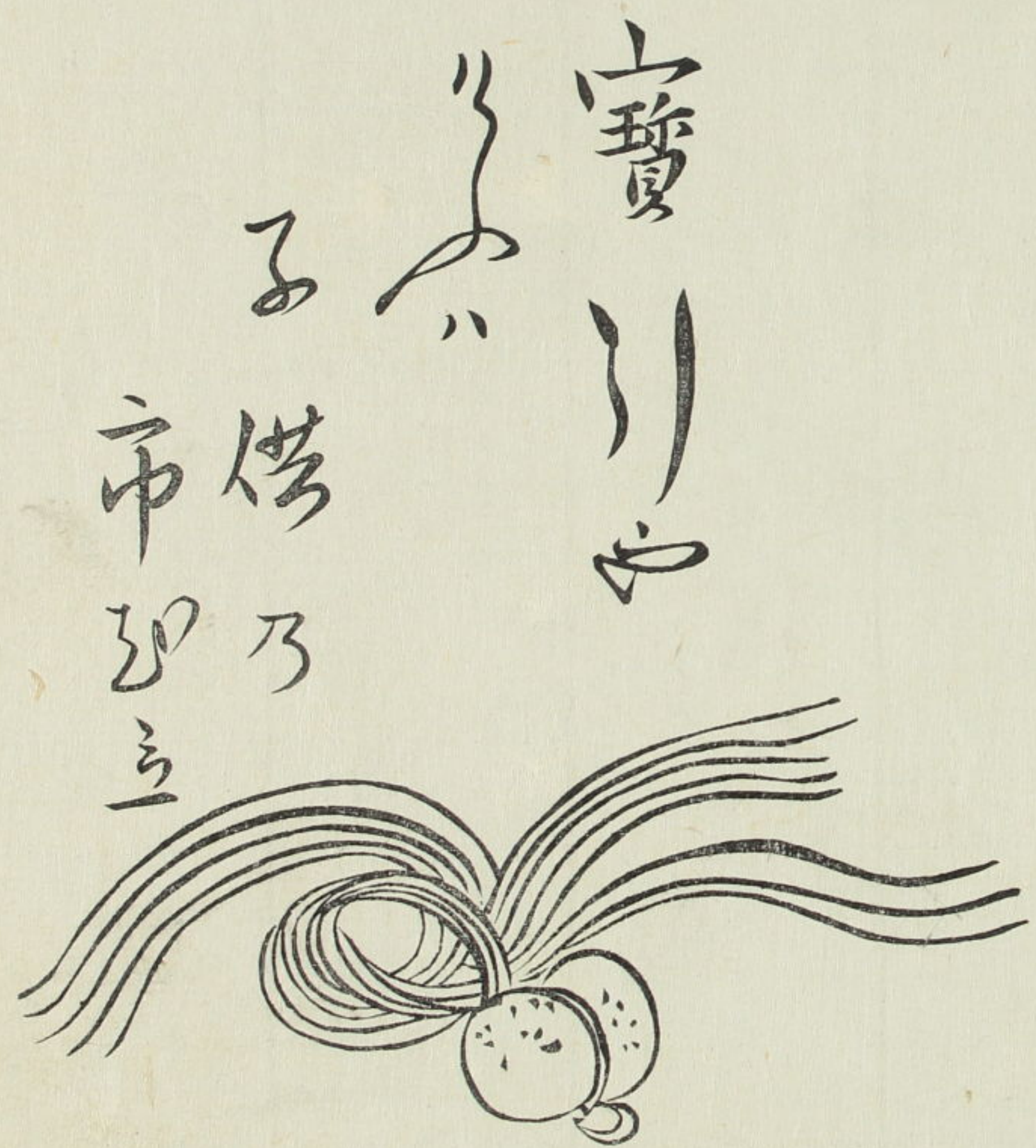
乃
何
君
命
有
之
謹
而
序
安

葛卷藤閣

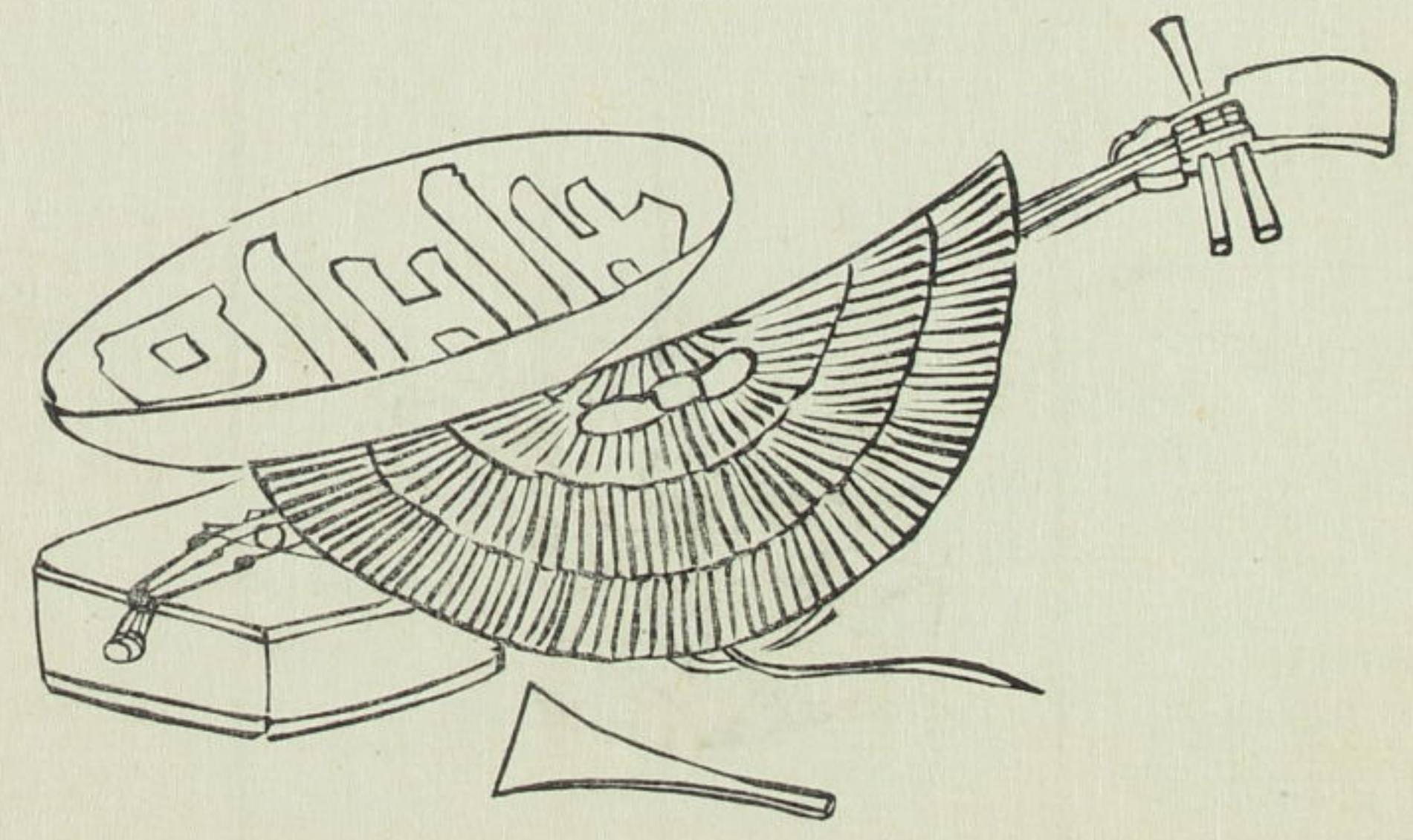


今朝哉
霍茂聞耳
明出鐘



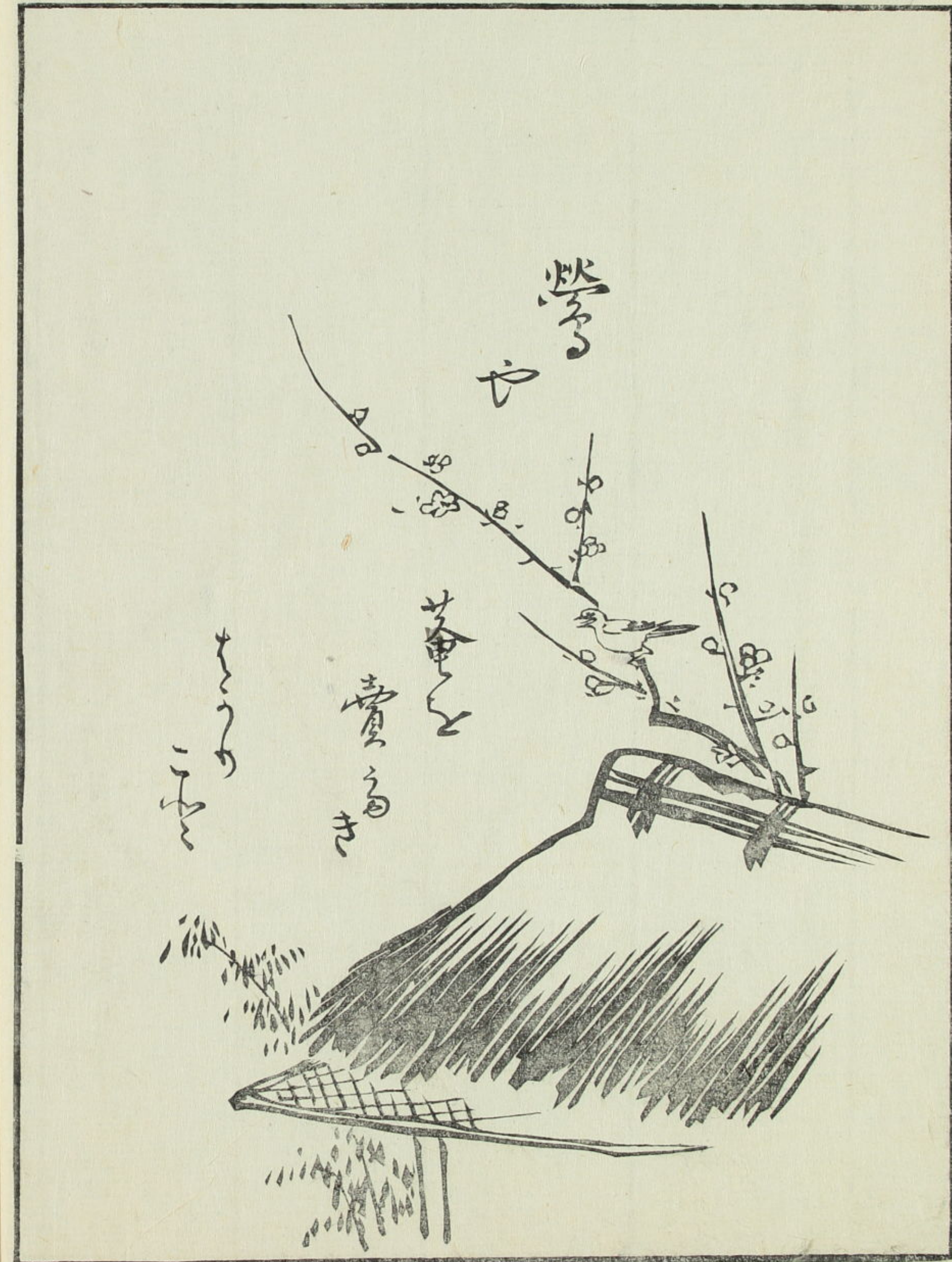
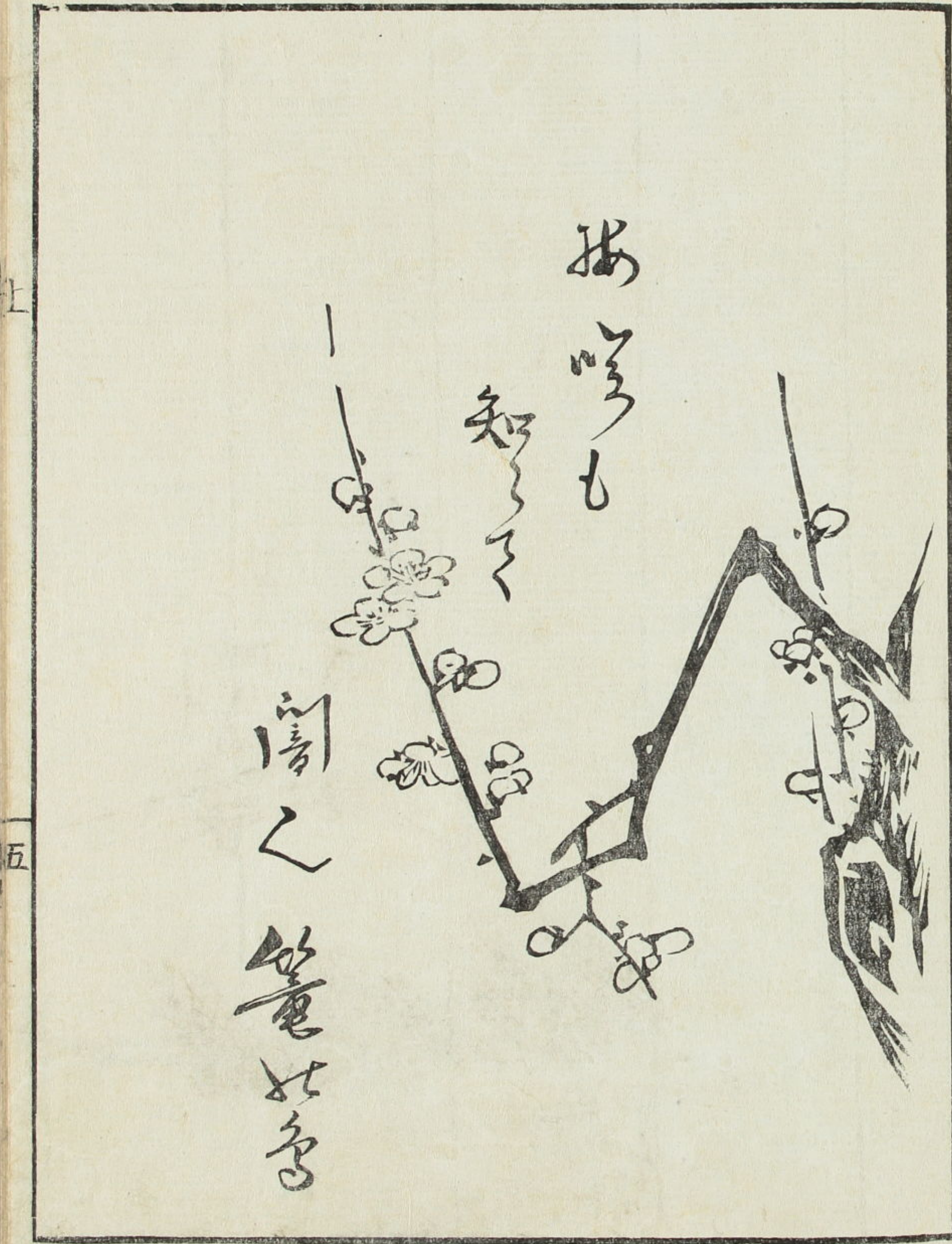


追乃
 種乃
 ちん
 心乃



瓜ハ
 まい
 ちん
 心乃

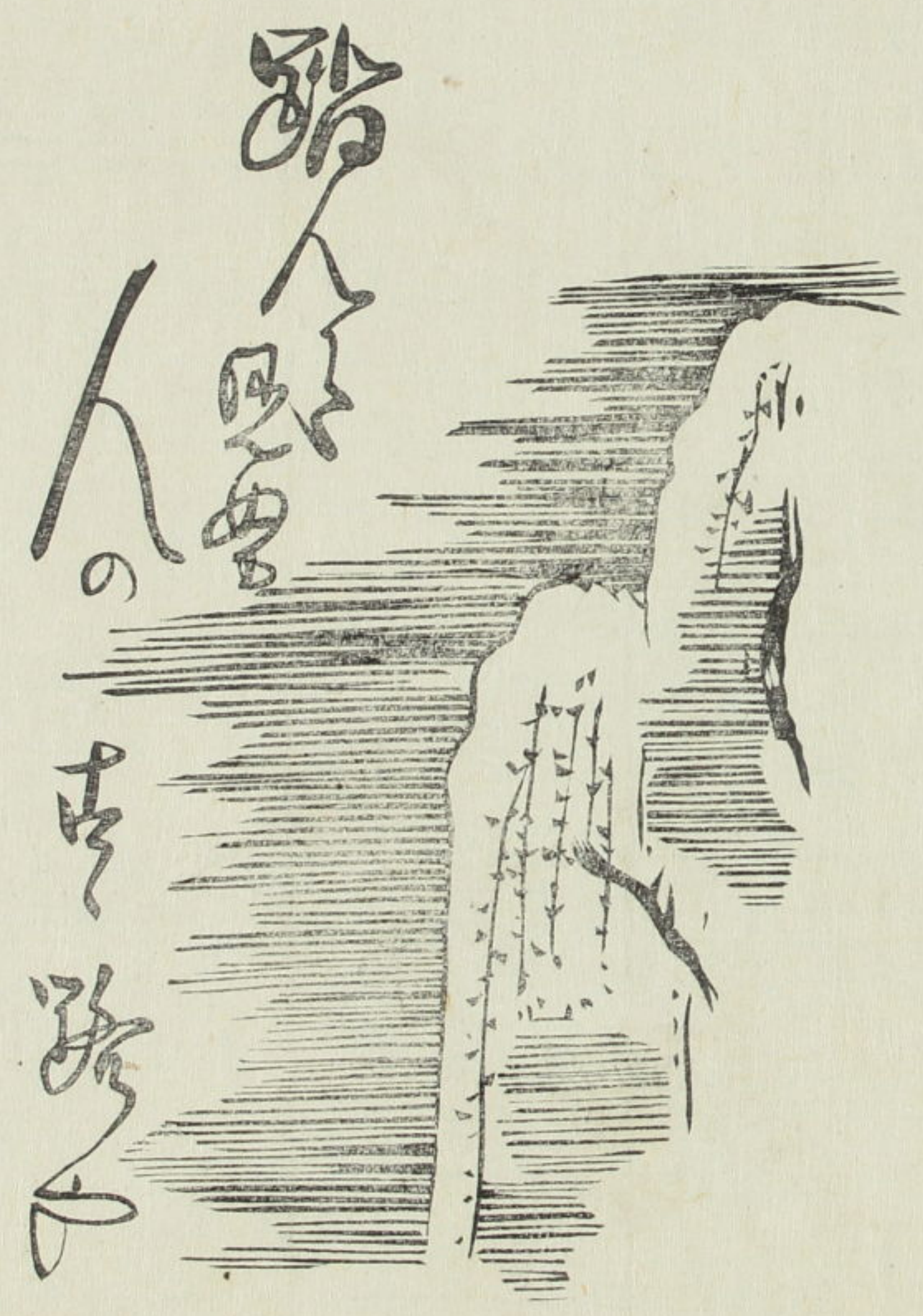




春風尔狂婦

柳哉

大磯砂

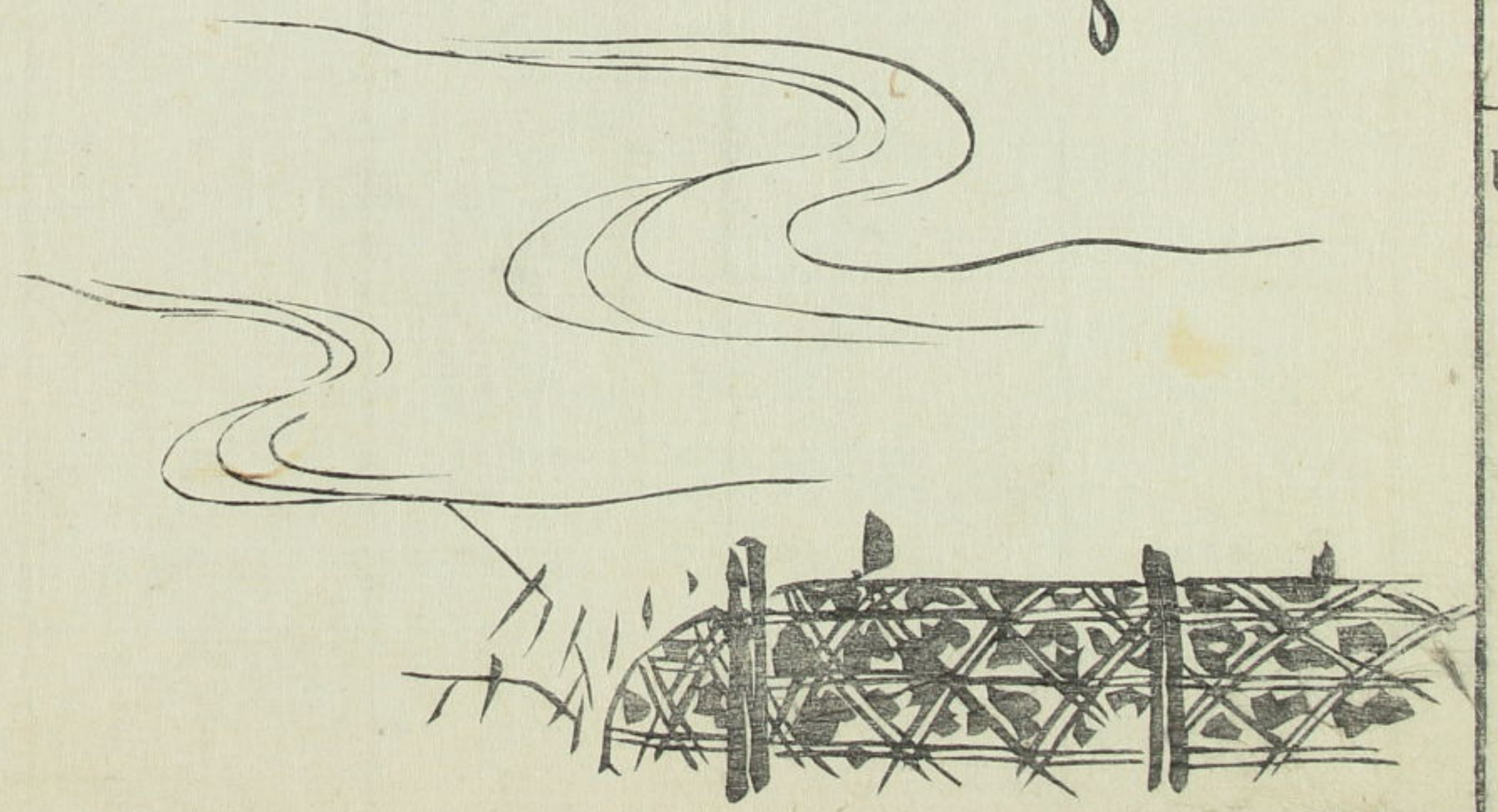


踏人
の
去路
の
世

上
下
中
下

雪解

則寒く
身
さへ

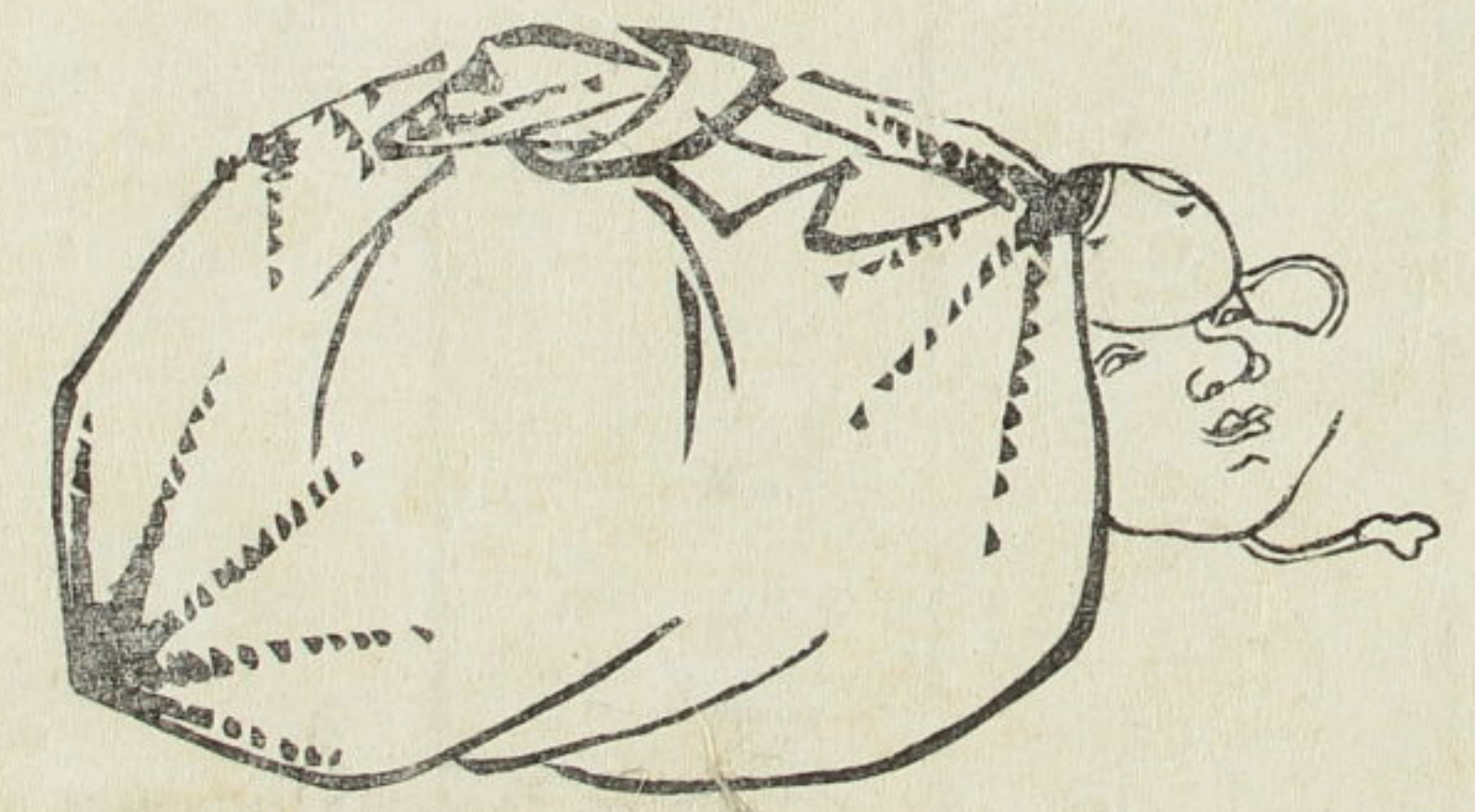


雪解

人

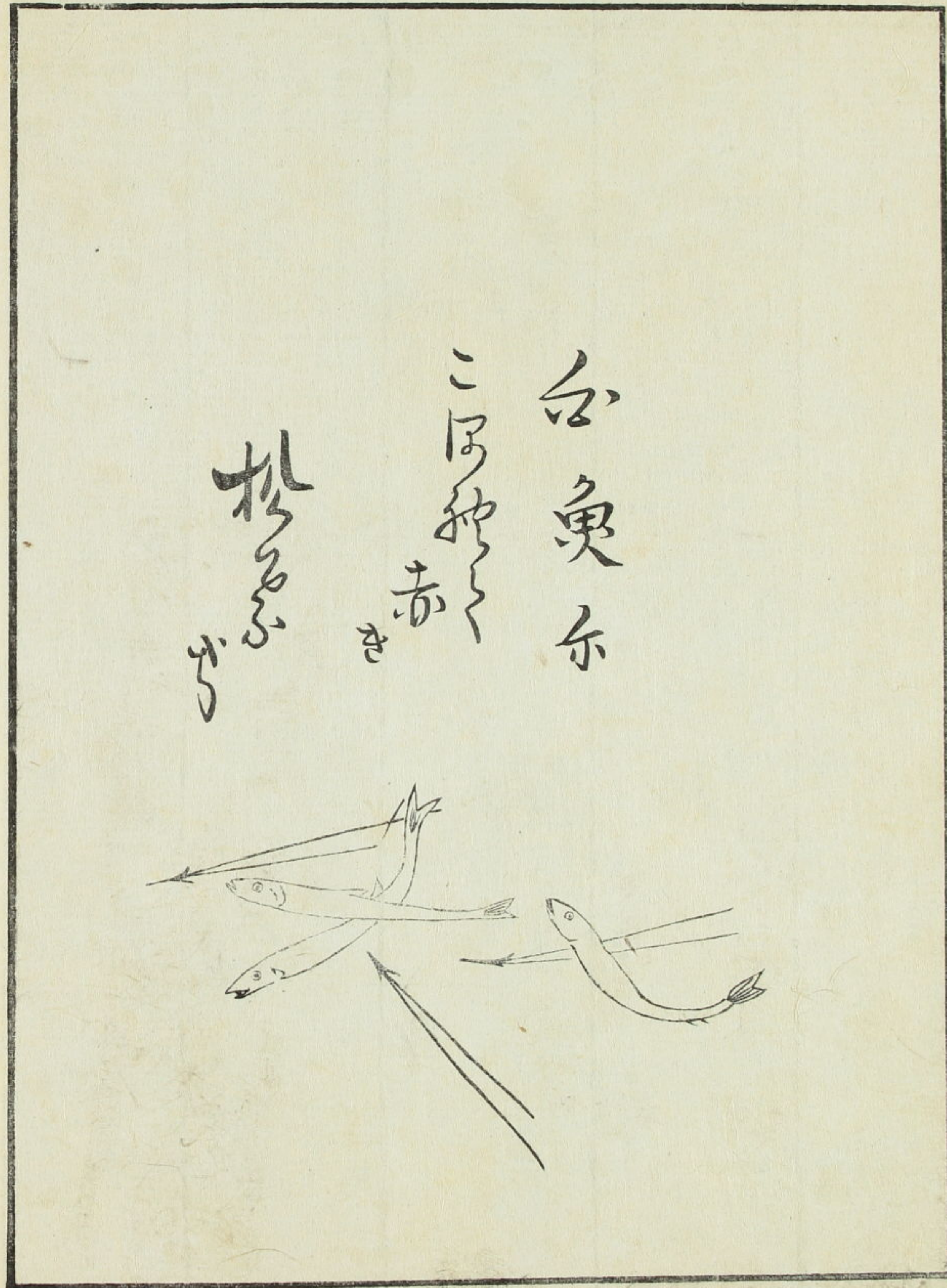
入

車





歌宵將
 妙
 子
 子

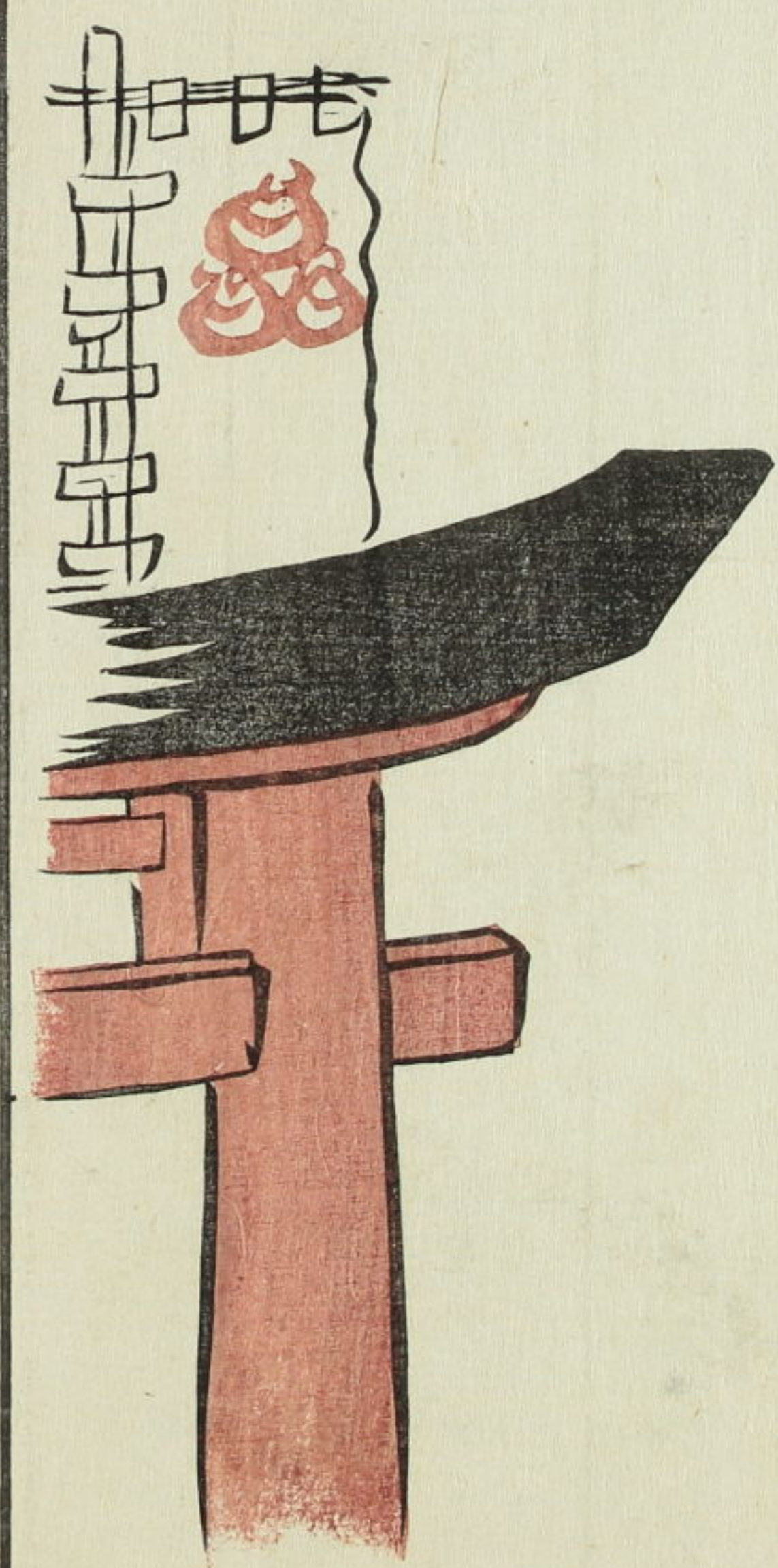


公魚尔
 二何種々
 赤
 松
 子

お
ち
る

あのき
も
い

い
は
な
さ
き

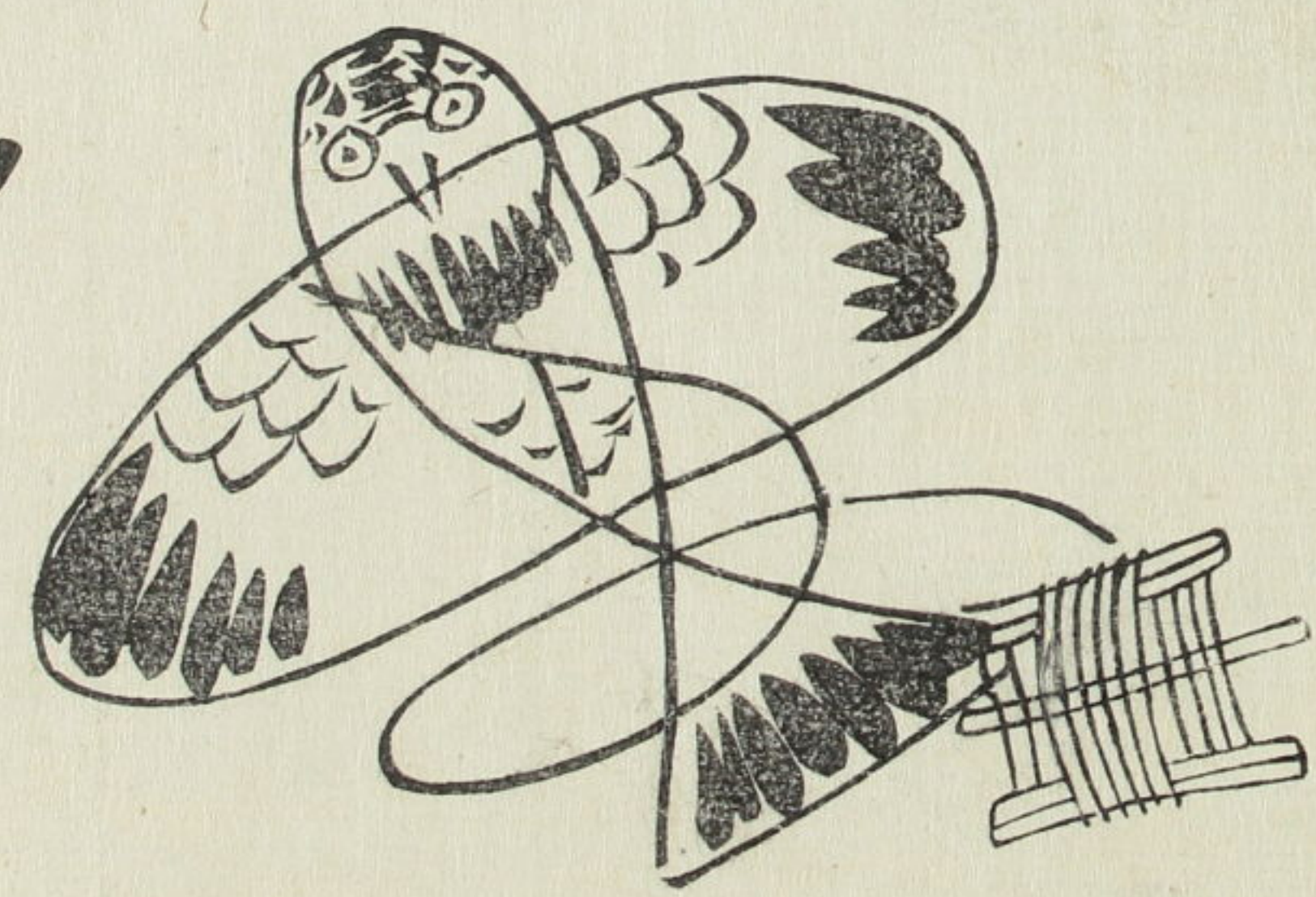


青
く
よ

さ
く

あ
ら
か
そ

あ
か



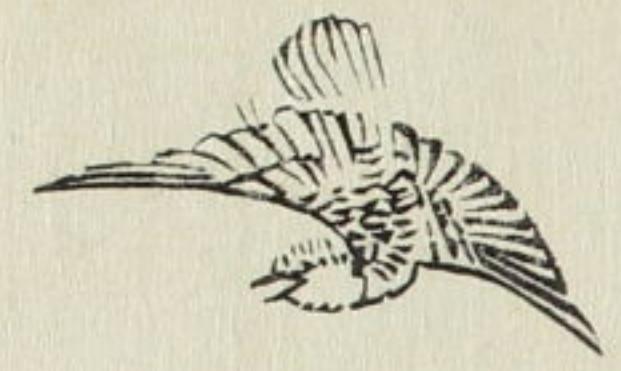
鳥の
か

焚
火
の
波



は
な
み

喰



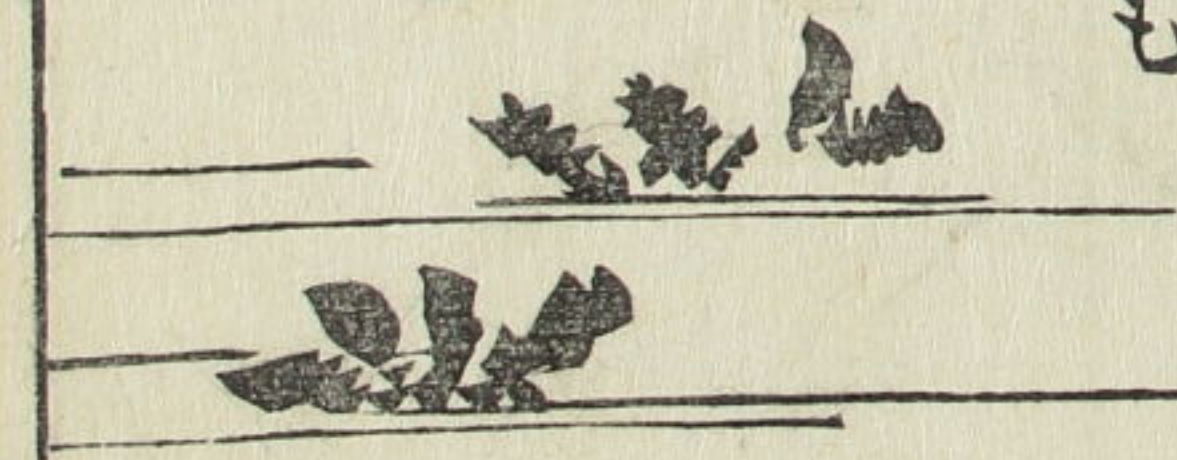
あ
さ
り

の
う
さ
な

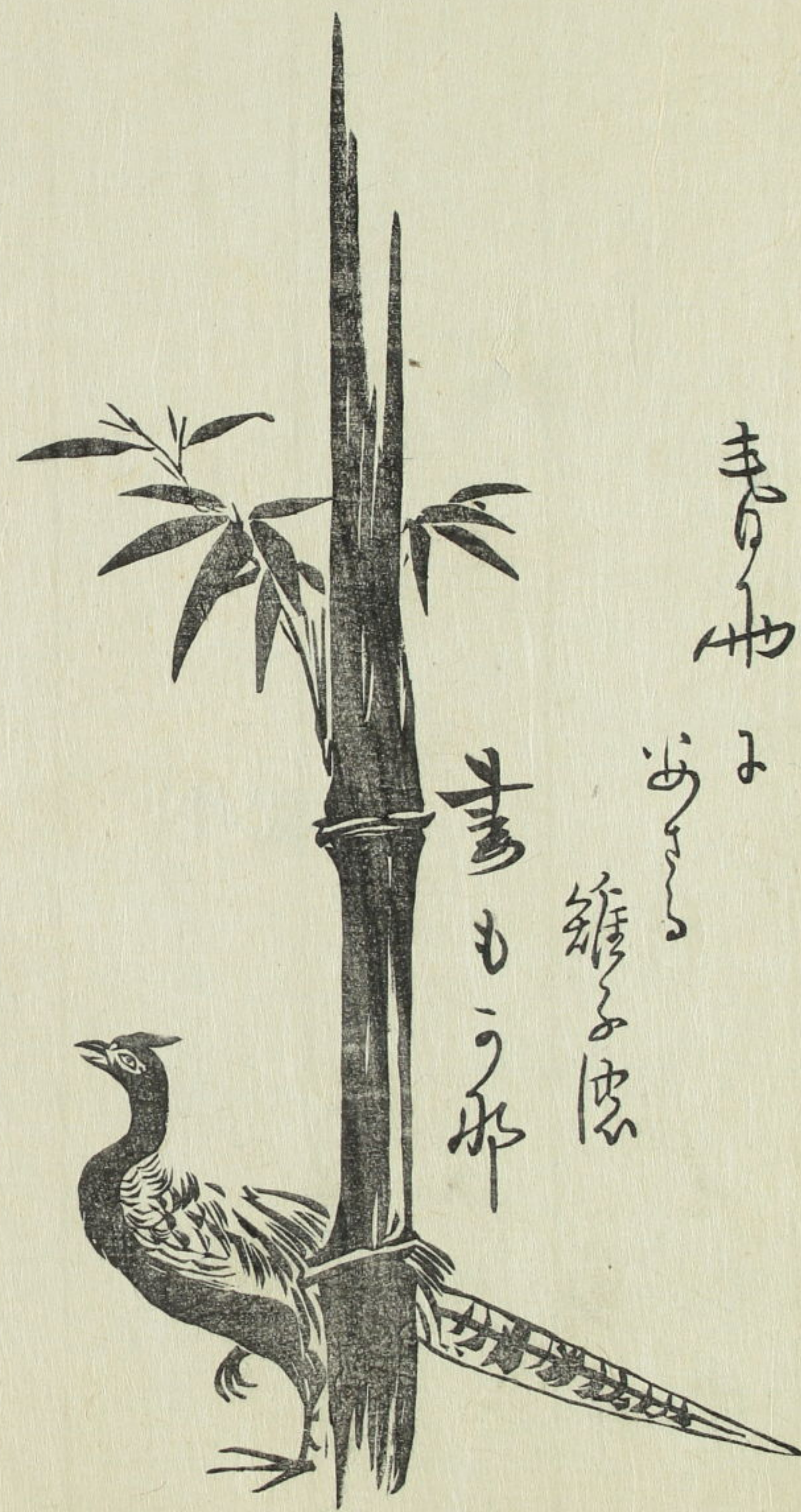
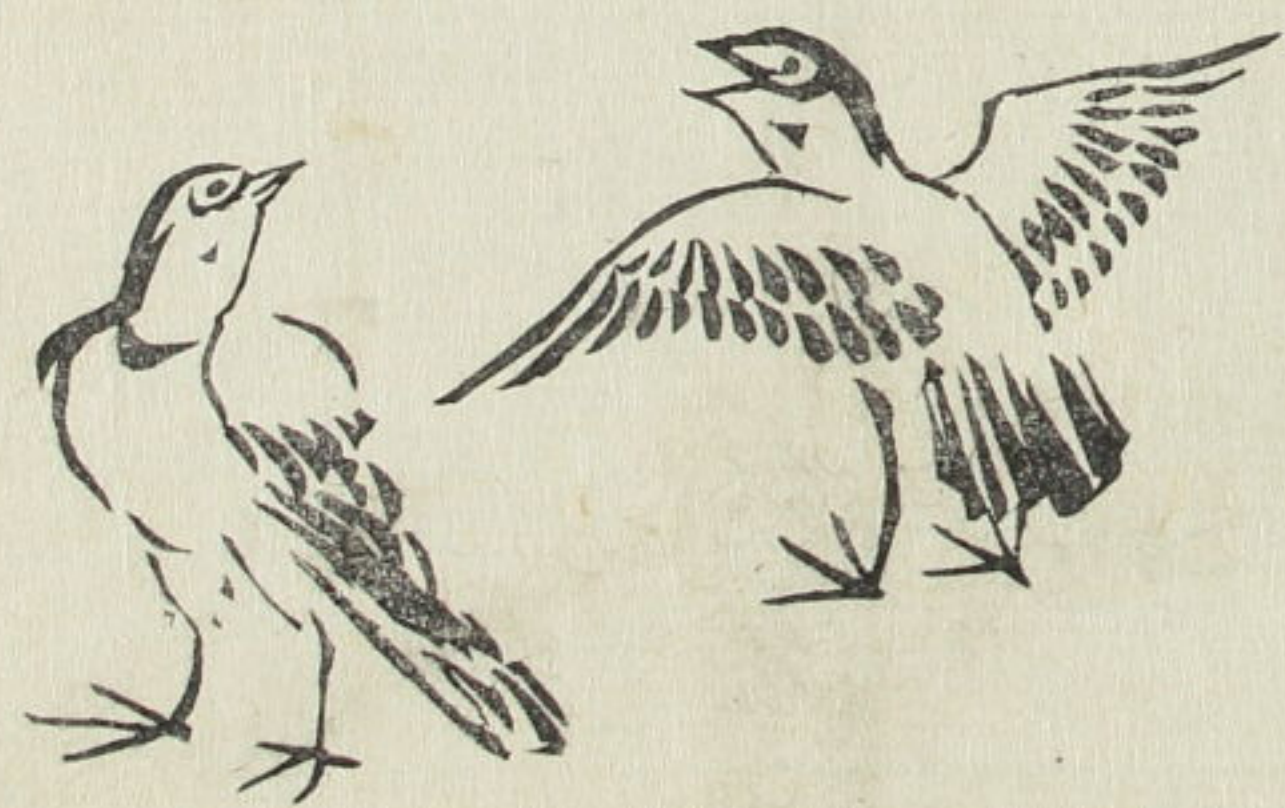
上
河

子

も
あ
ら



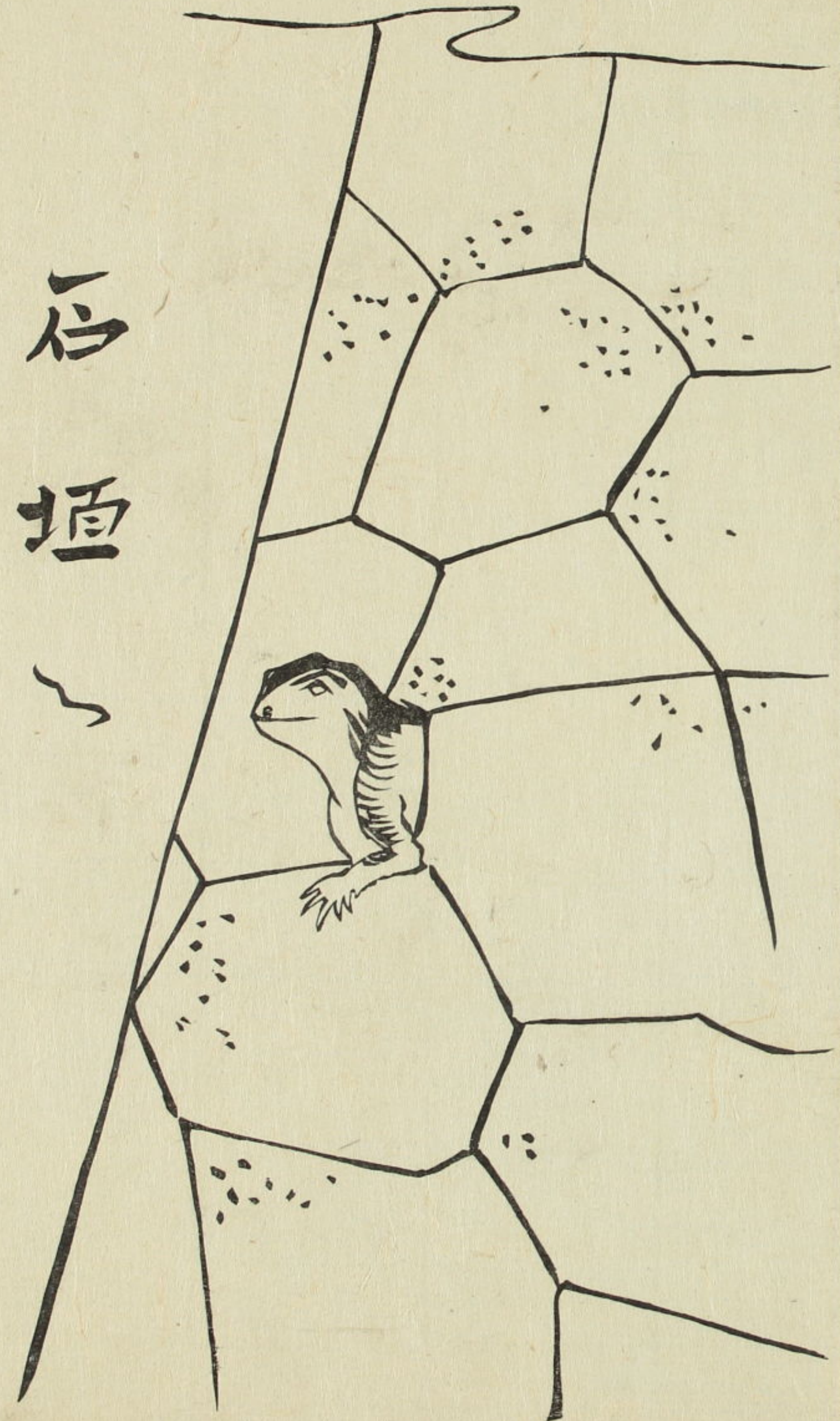
子
 子
 子
 子



子
 子
 子
 子



雨二日
 本
 如
 胡
 胡



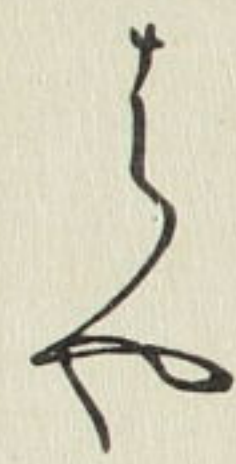
石垣

出
 鳴く
 蛙

石
 月
 吹
 う
 ぬ
 も
 流
 き
 橋
 小



霄
 乃
 雨



借
 船
 小

岸
 小



蘿藦能
荏者藤

二母似多留可南



田舎

生

も

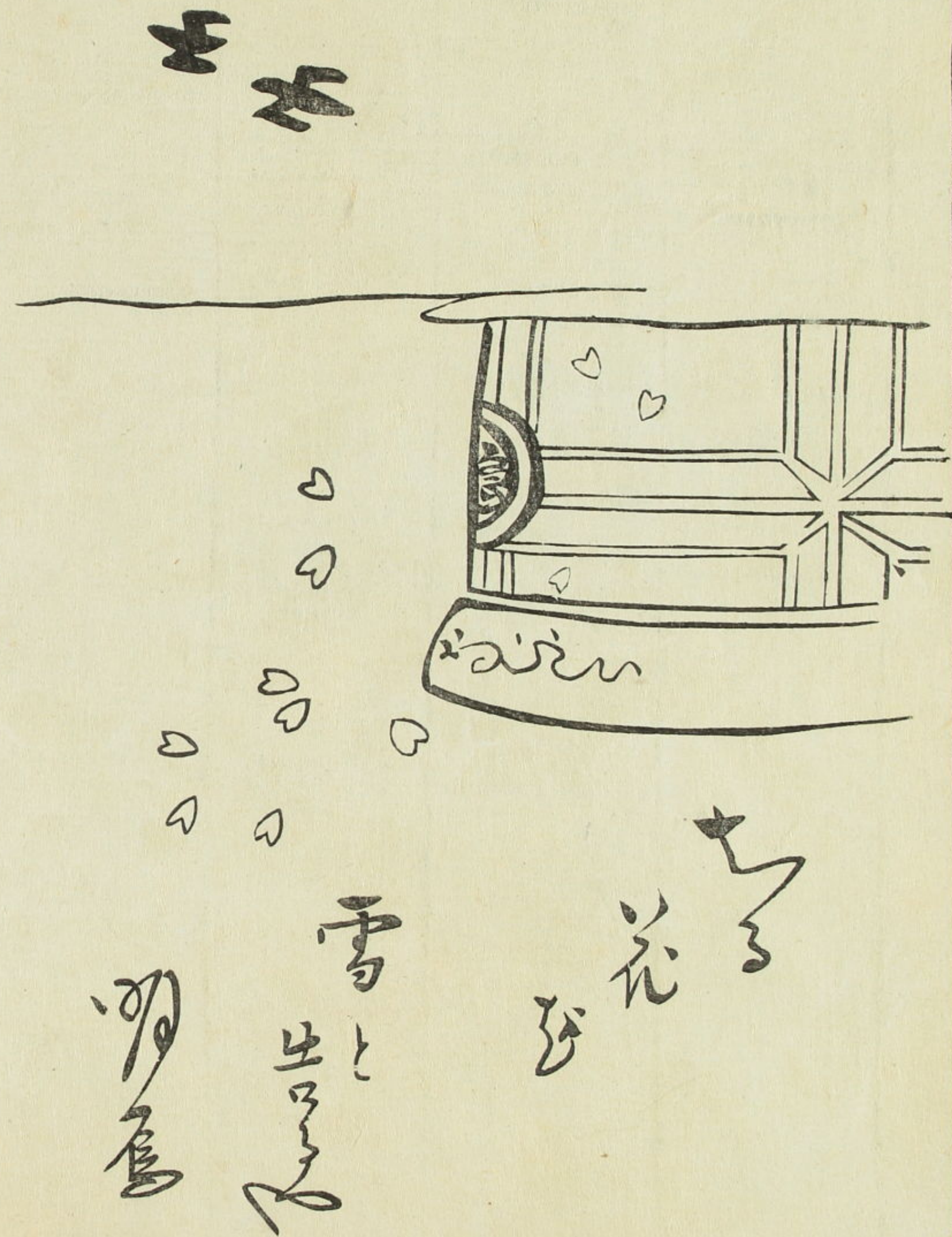
ハ

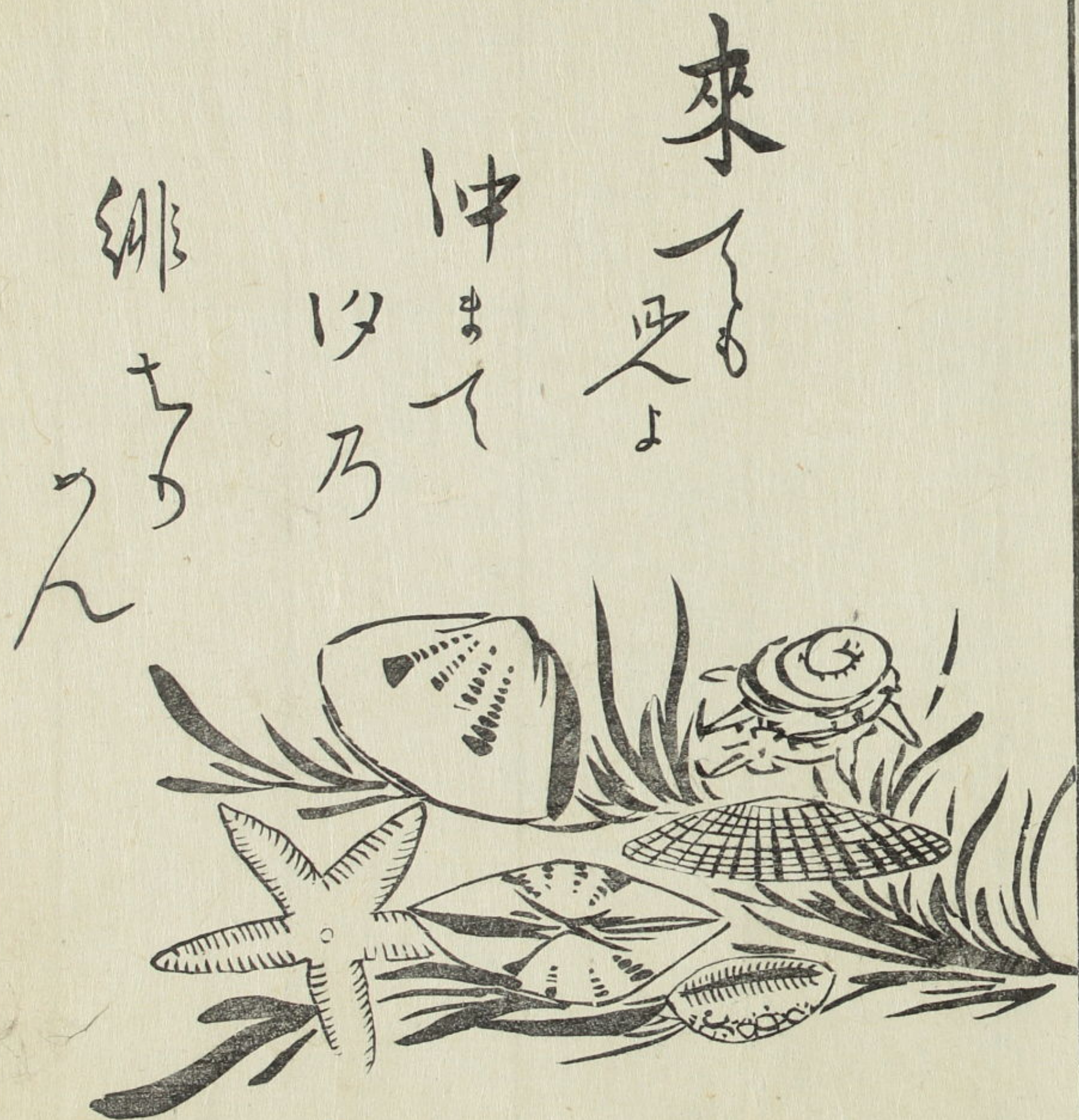


松

如

卷





木のふし
 傳ふる
 つらね





山之根者
夕部之雪
哉白津々
志

坐吹が

好

瓦



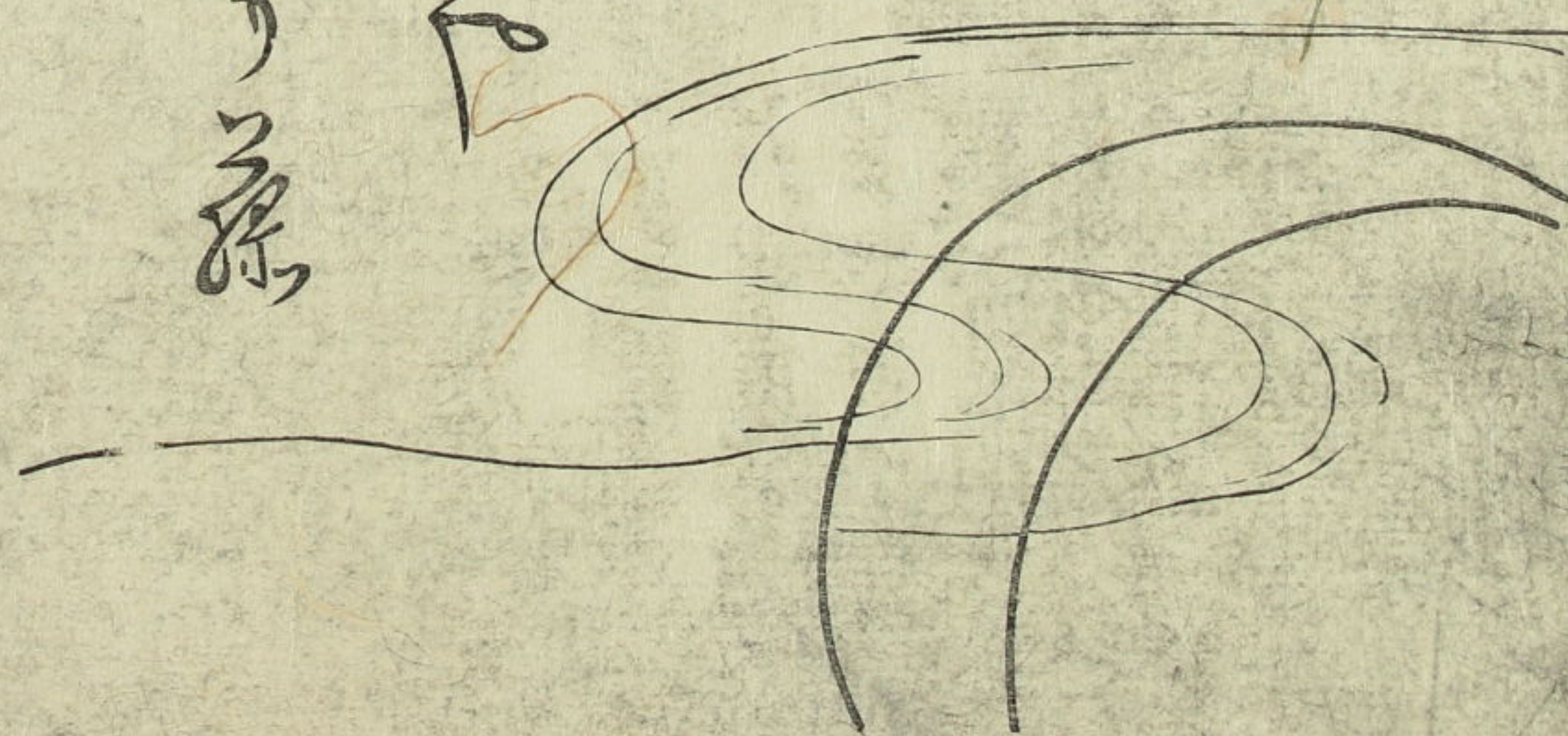
ちりり

遊女
うか

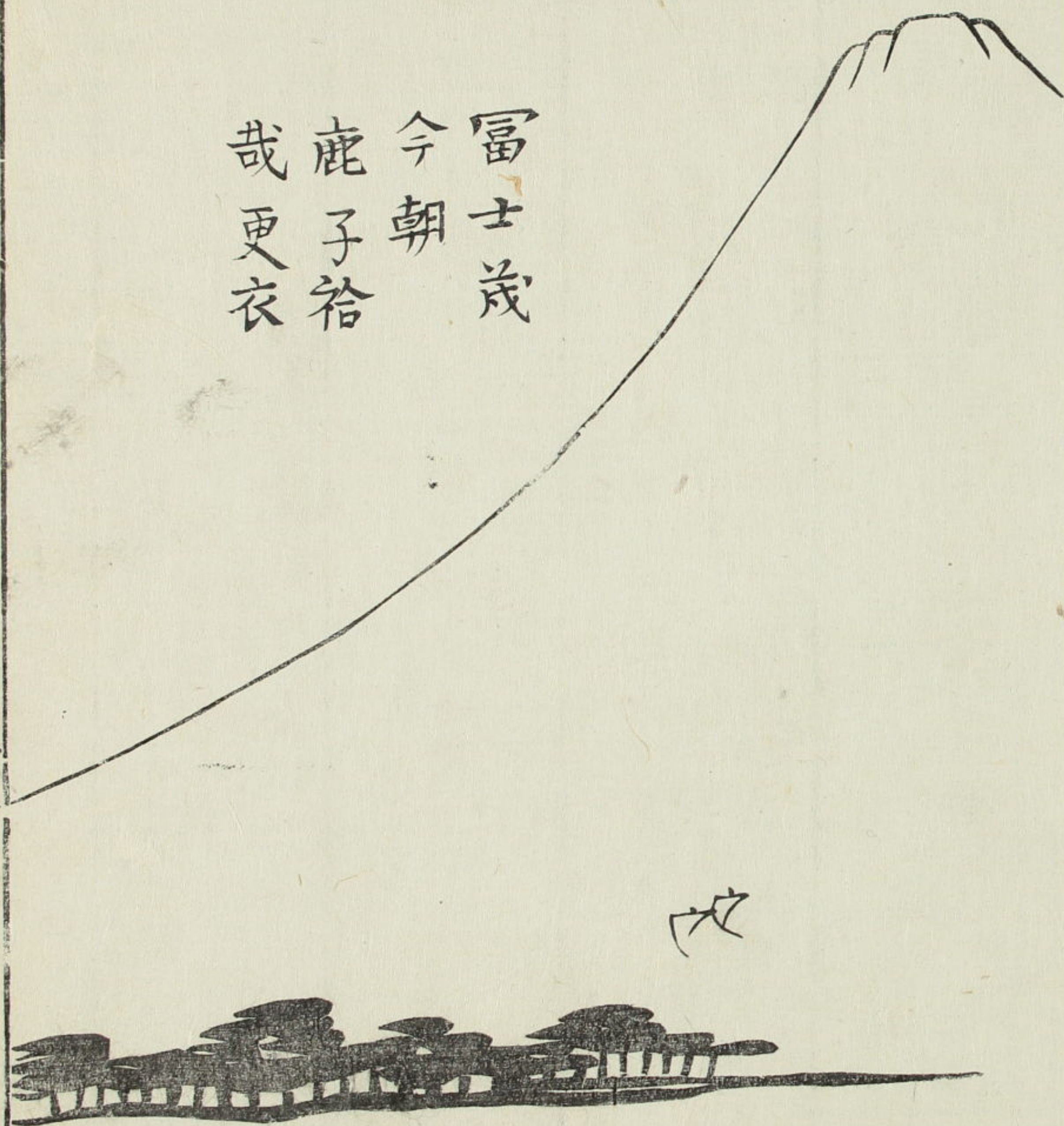
其之部

小の月と砂

澤辺のさうり草



富士茂
今朝
鹿子裕
哉更衣



止
冊

和花

雪うも

山根乃



おも
ろ
き
ろ



ろ
ろ
ろ
ろ
ろ



まきし
雪乃



ろ
ま

かきん
かきん



遠くへ

一斗

松原

清き川

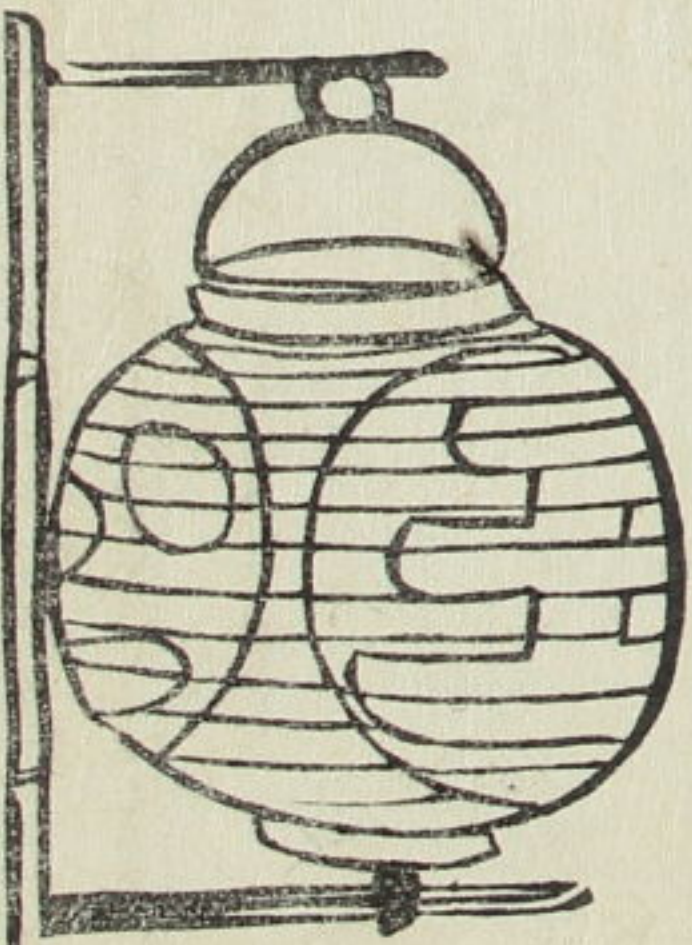
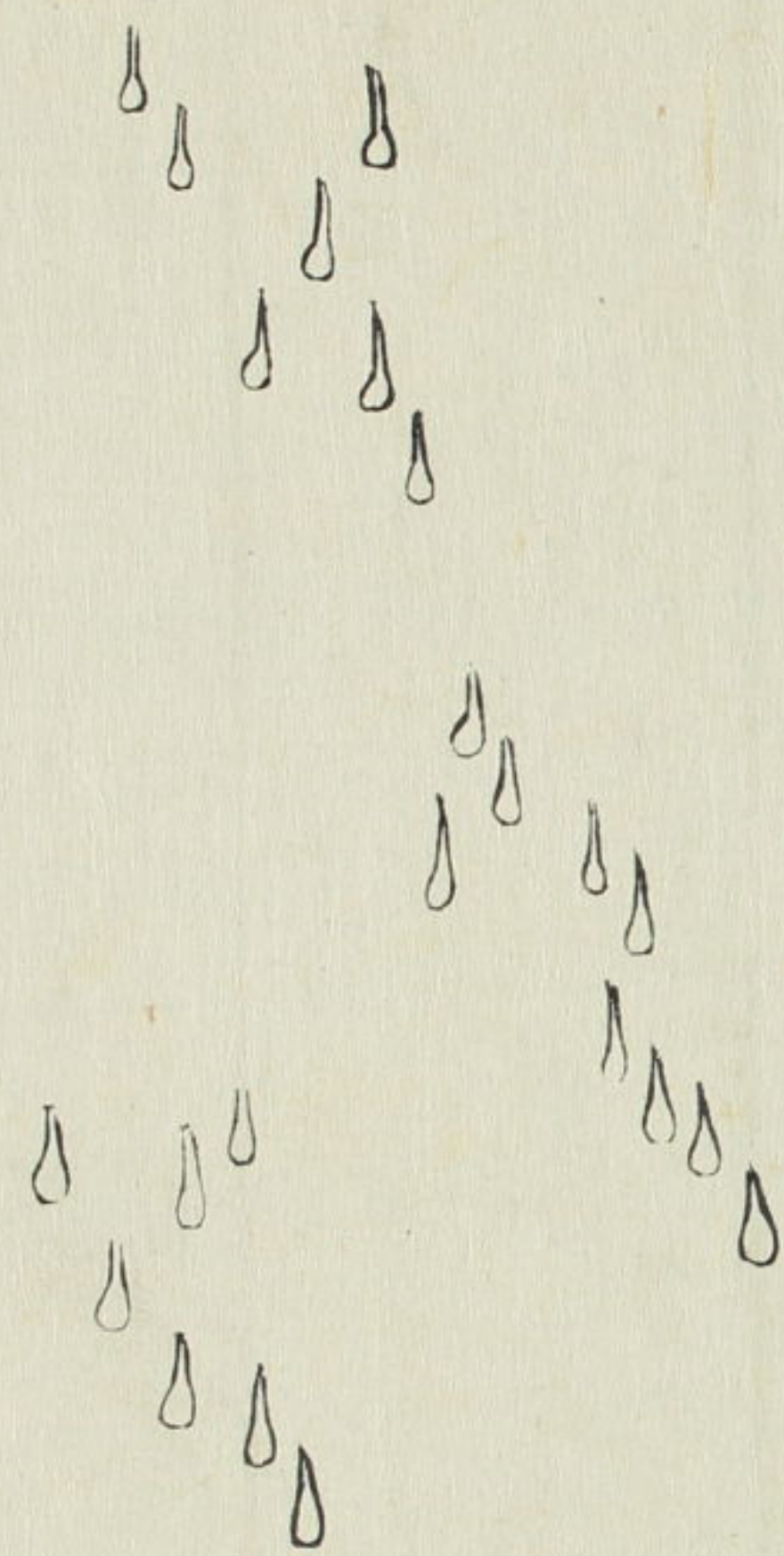


朝日

も

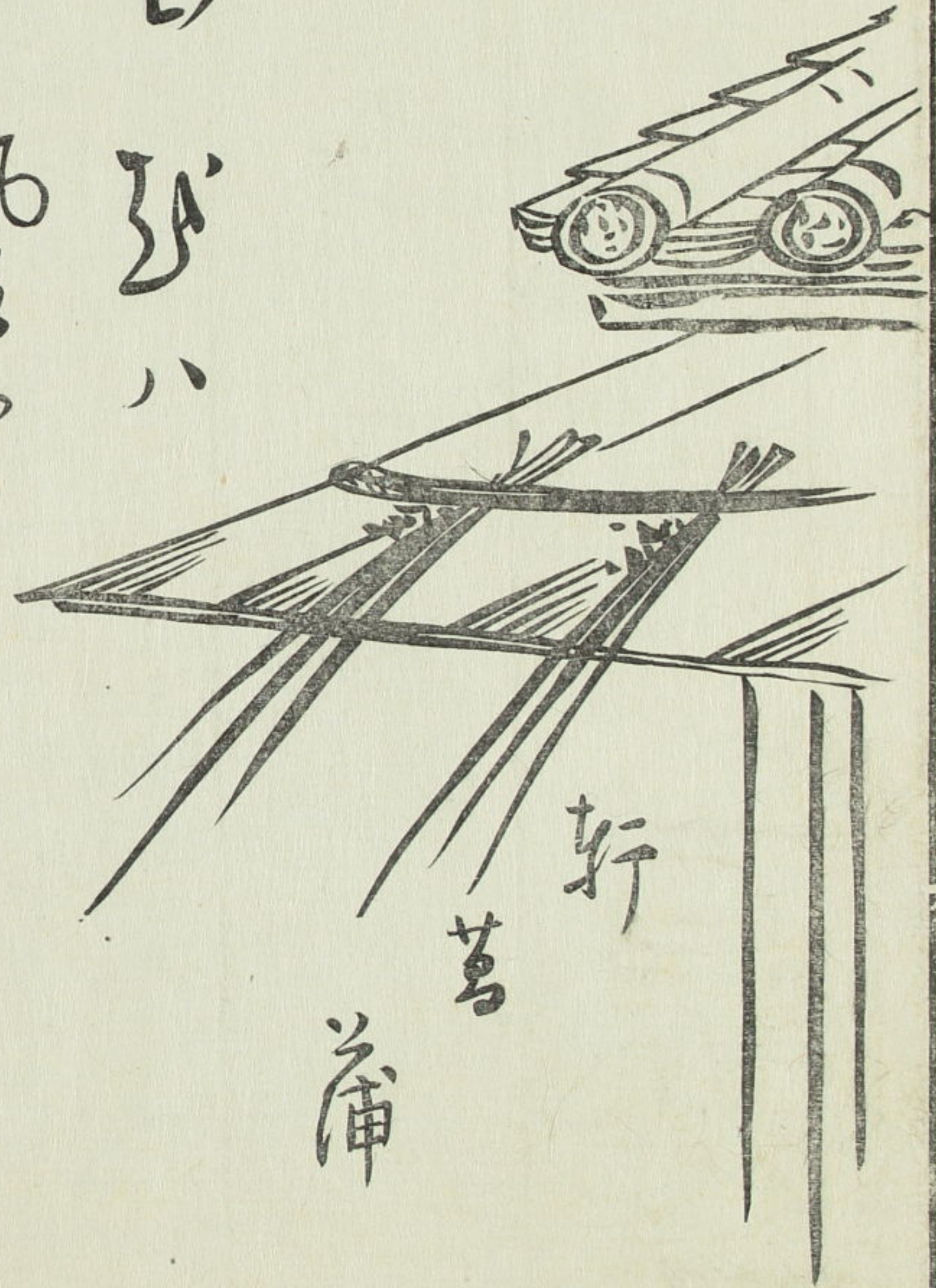
光る

大川に星と
こぼれや花火
賣



白
虹
ハ

月
光
に
照
ら
れ
て



軒

苔

蒲

五月雨亡

りふ

望
ま

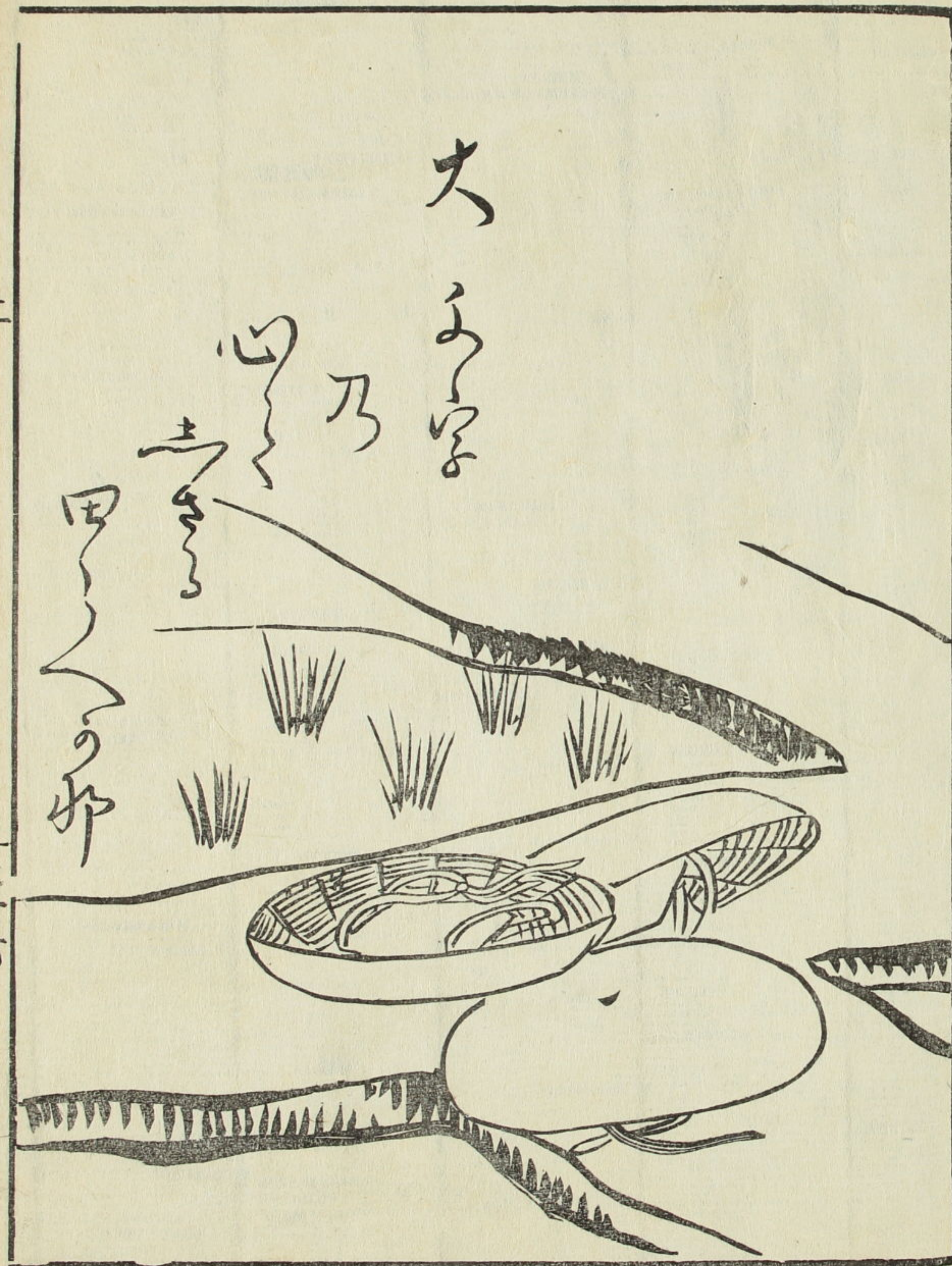
毎の
足



人
海

庭乃

葵も日影の那



大

ふ

乃

心

上

甲



水

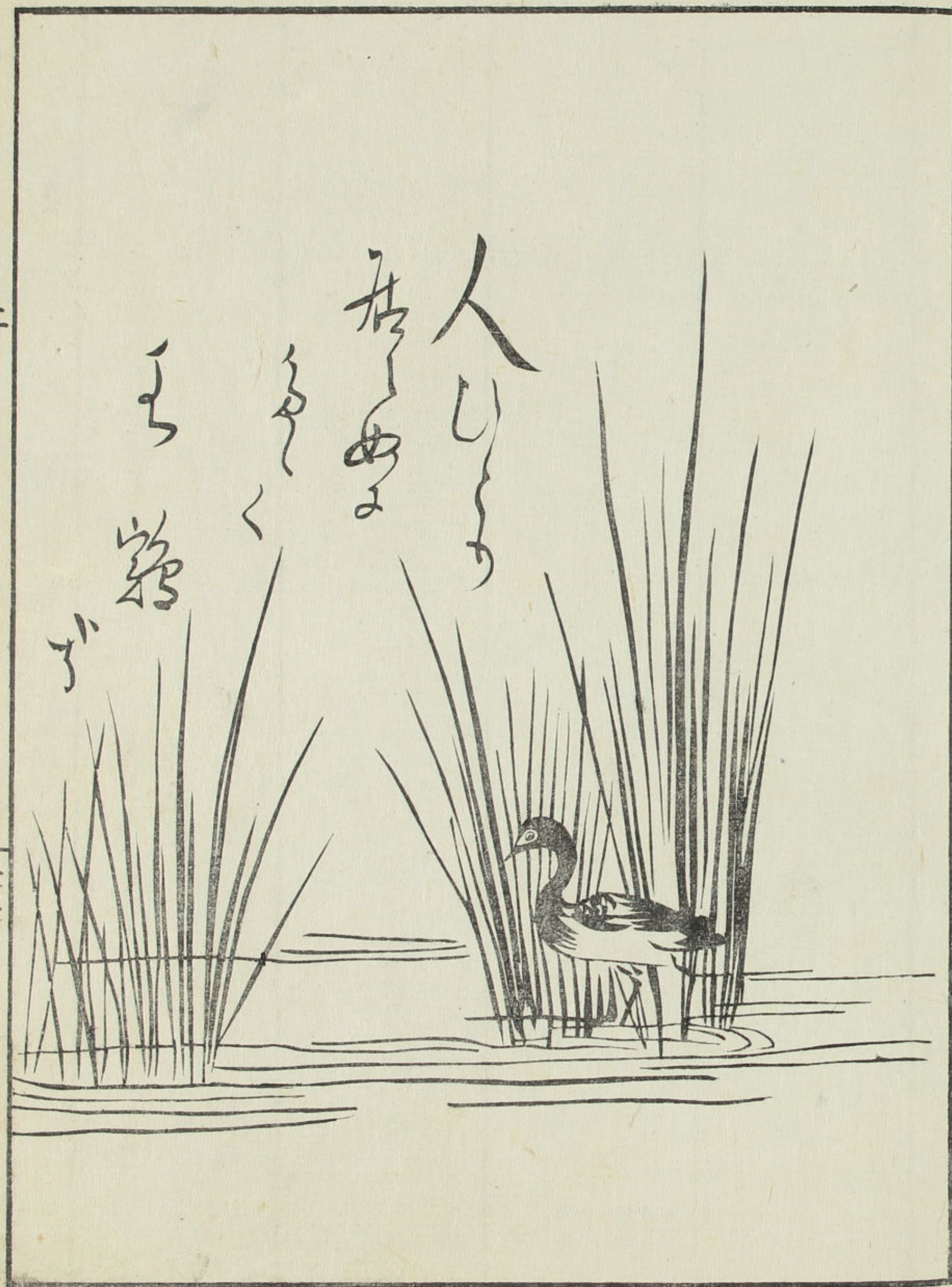
高

人

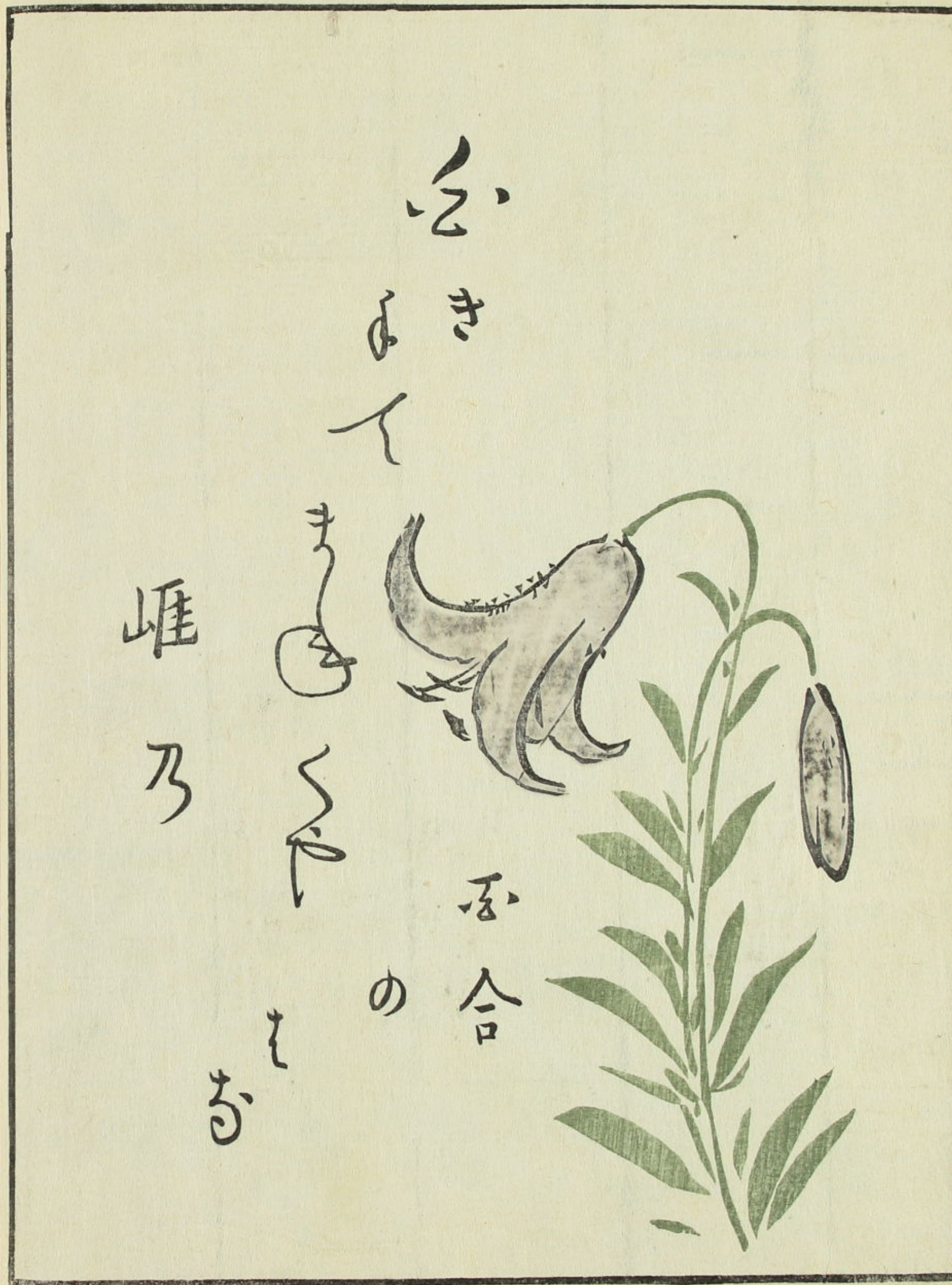
雪乃

はる

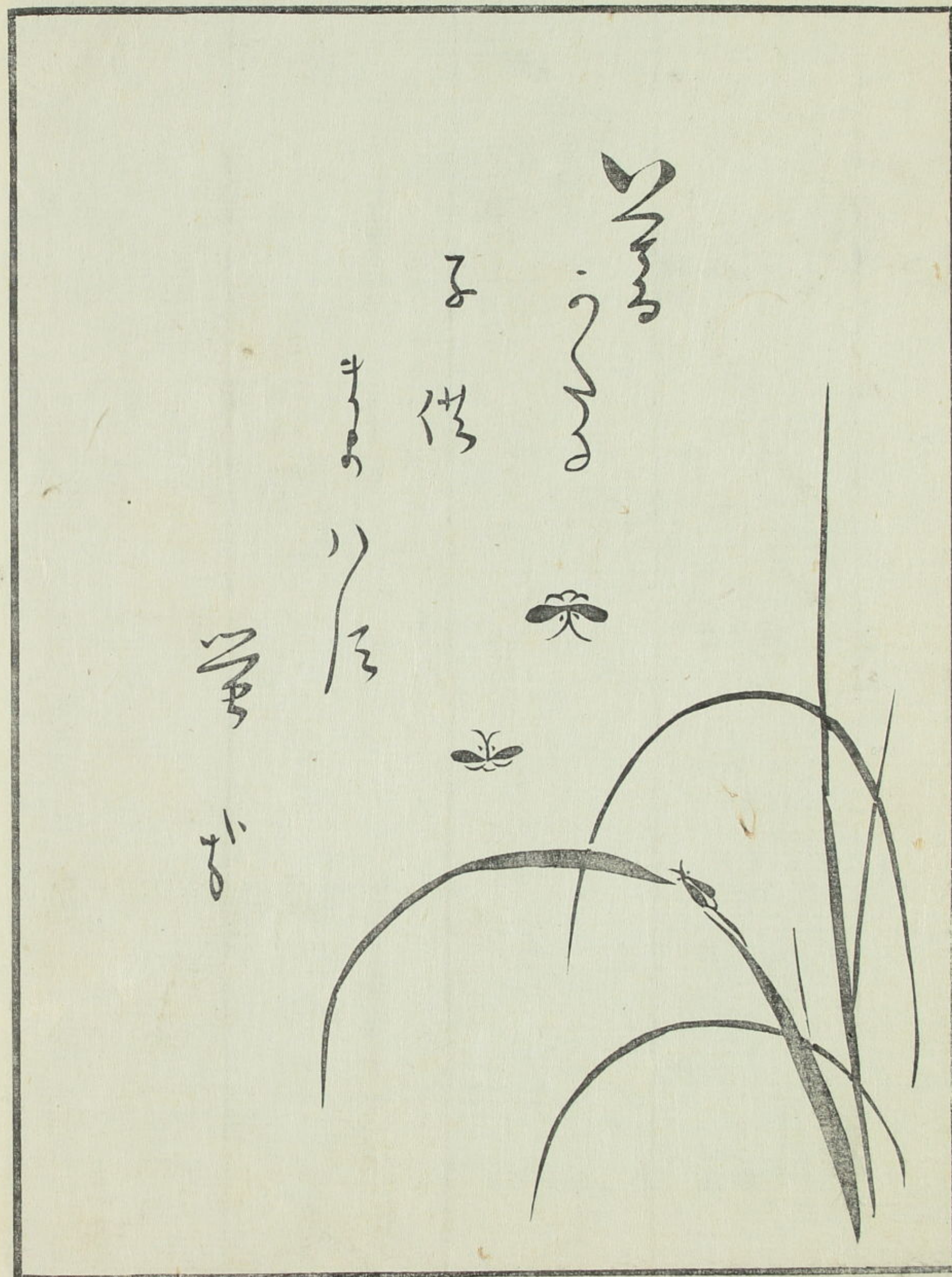
竹



人し
み
く
ろ
が



ふ
き
イ
ま
の
ふ
合
の
も
る
雌
乃

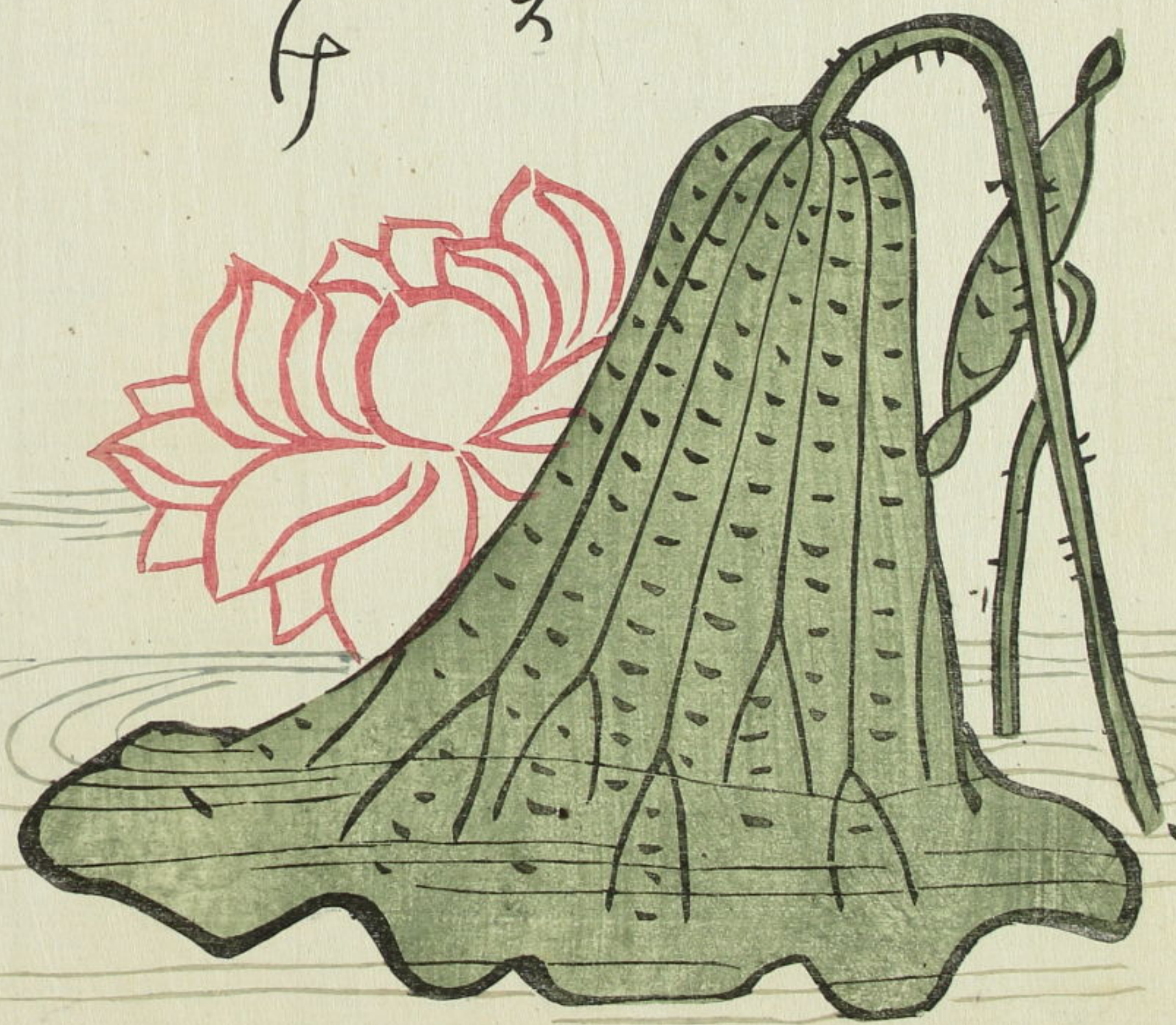


公 露 乃

眠

さあ

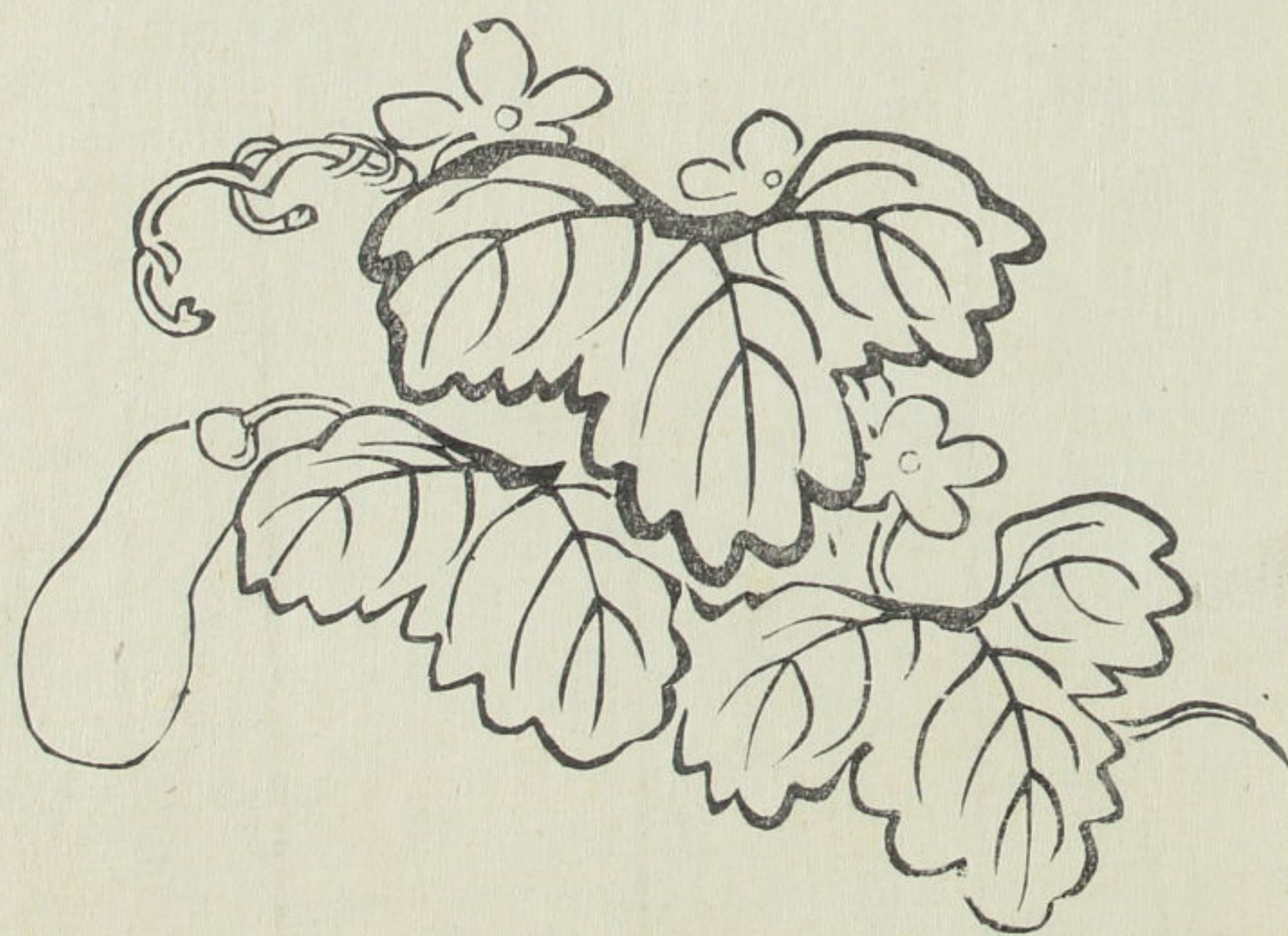
蓬 花

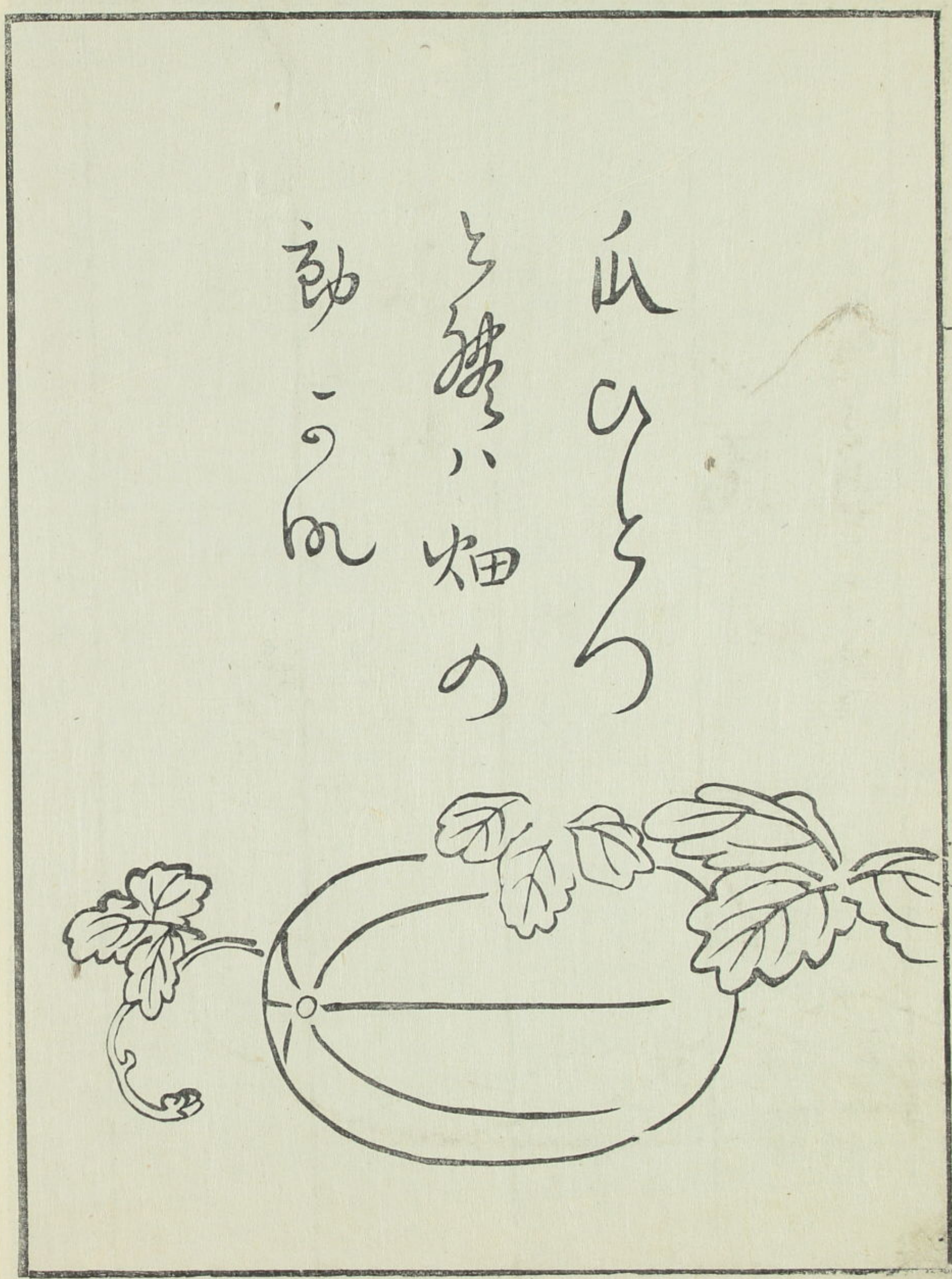


人 初

り

障の 坪の





川納涼

人矢多

と

子

カ
ミ

う
れ



う
れ

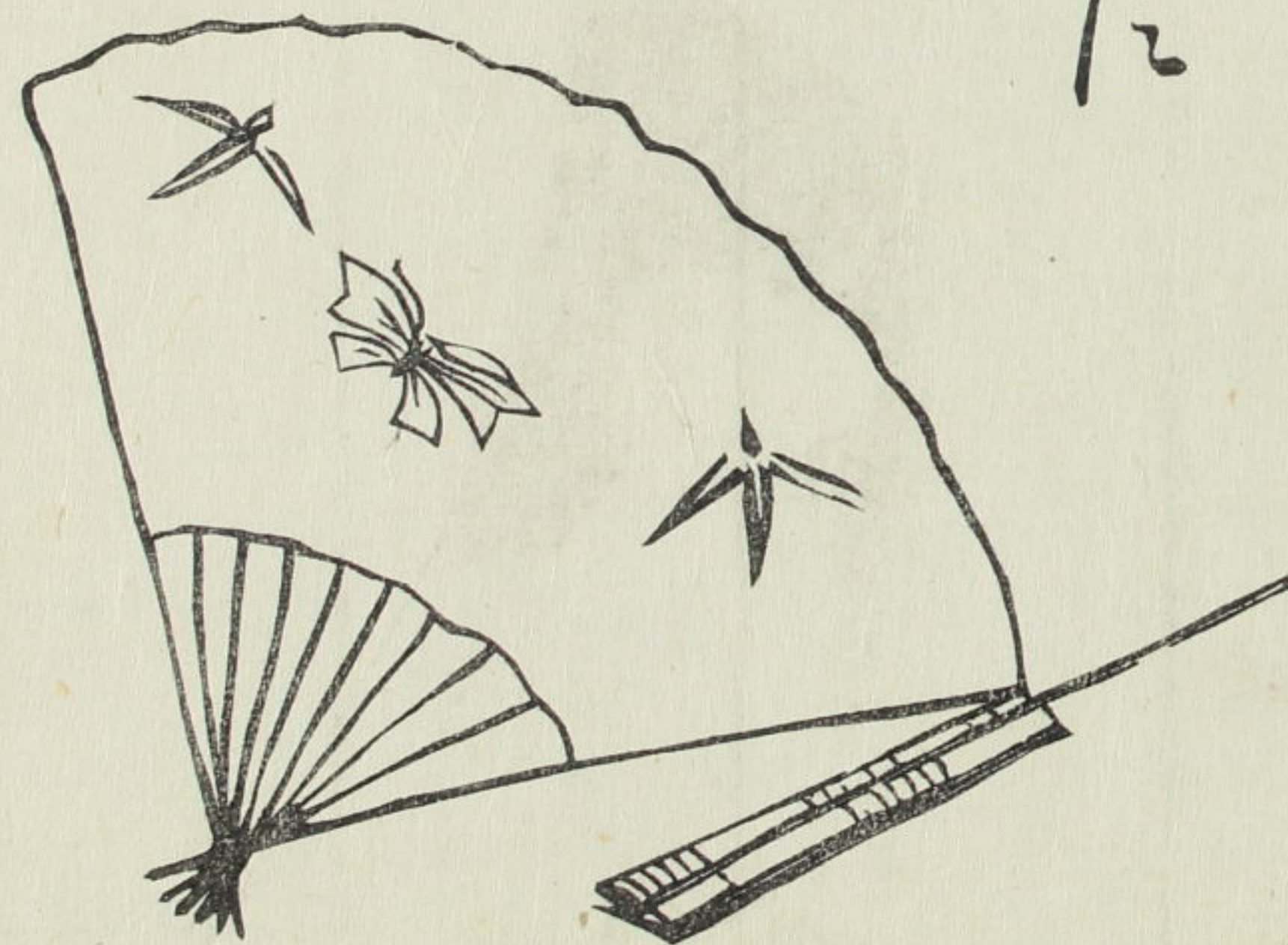
う
れ

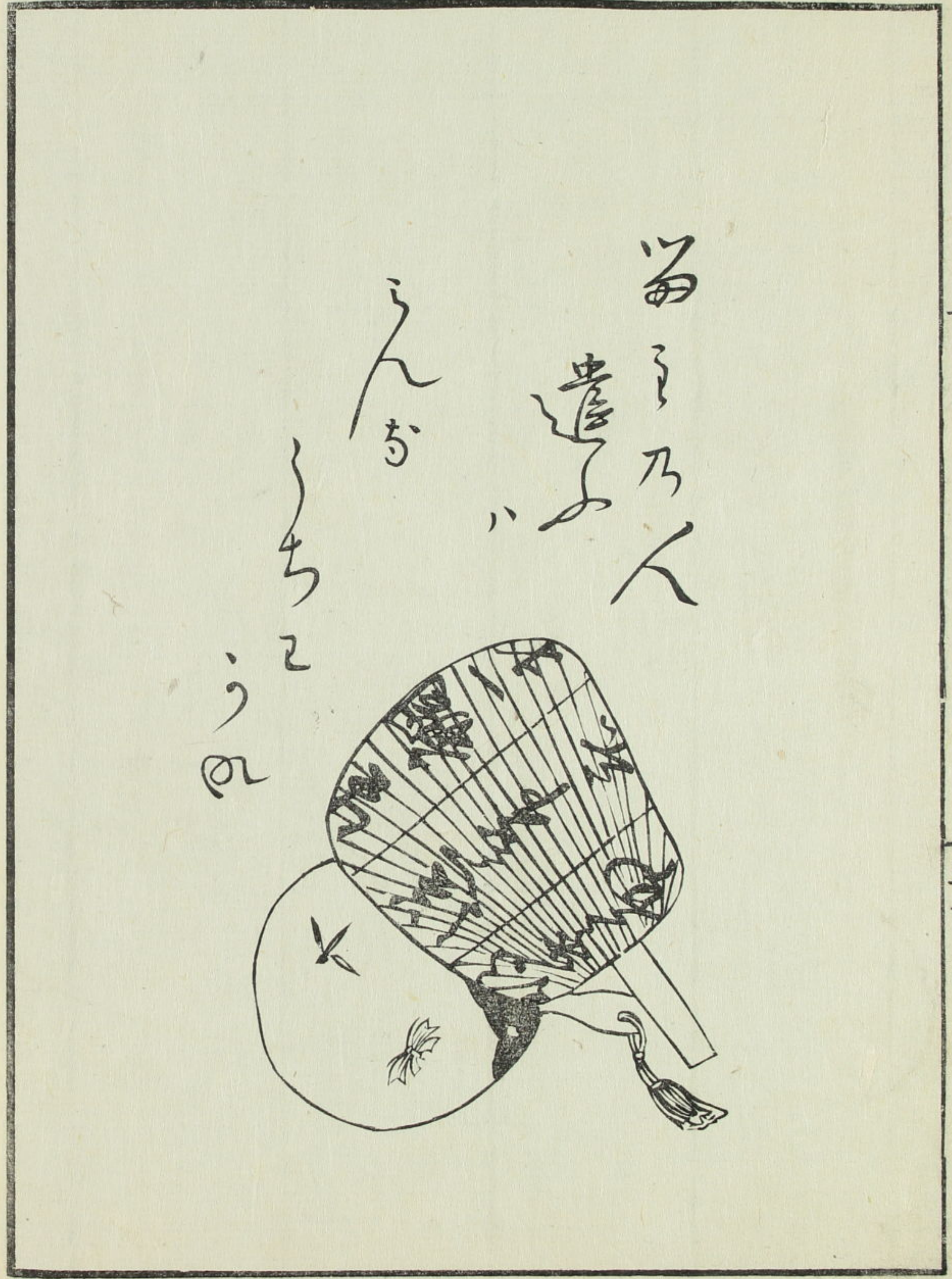
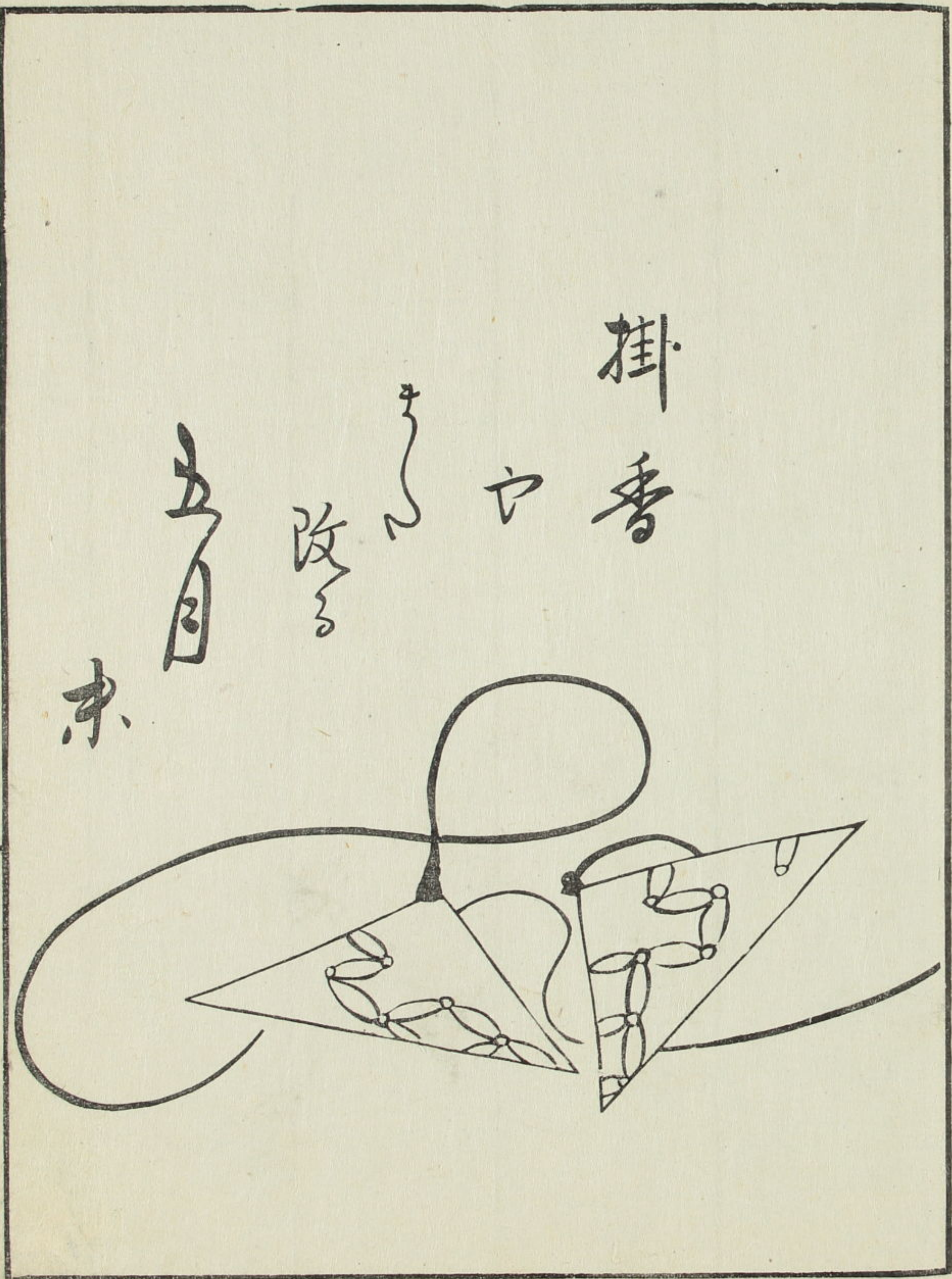
う
れ

う
れ

う
れ

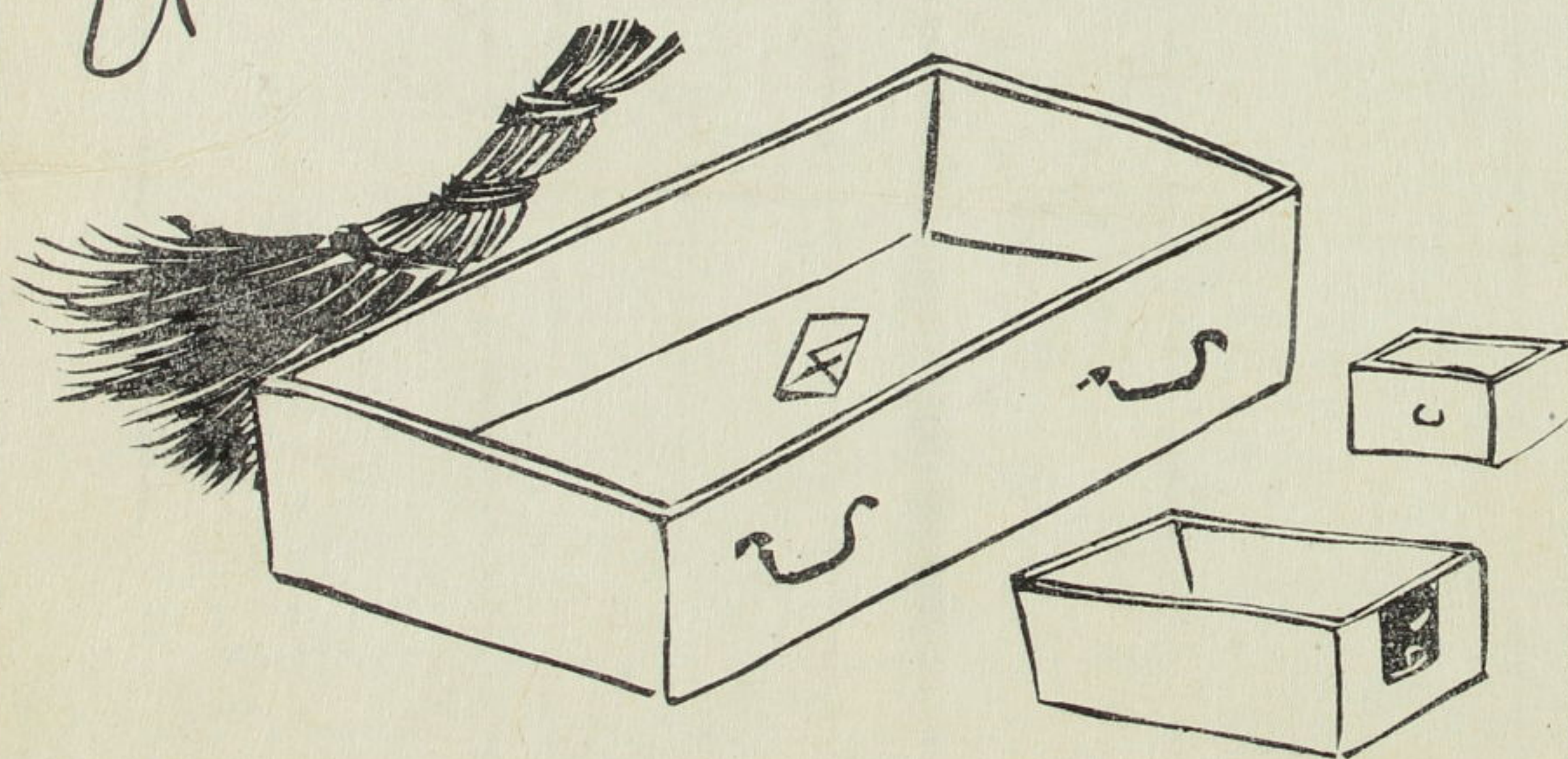
う
れ





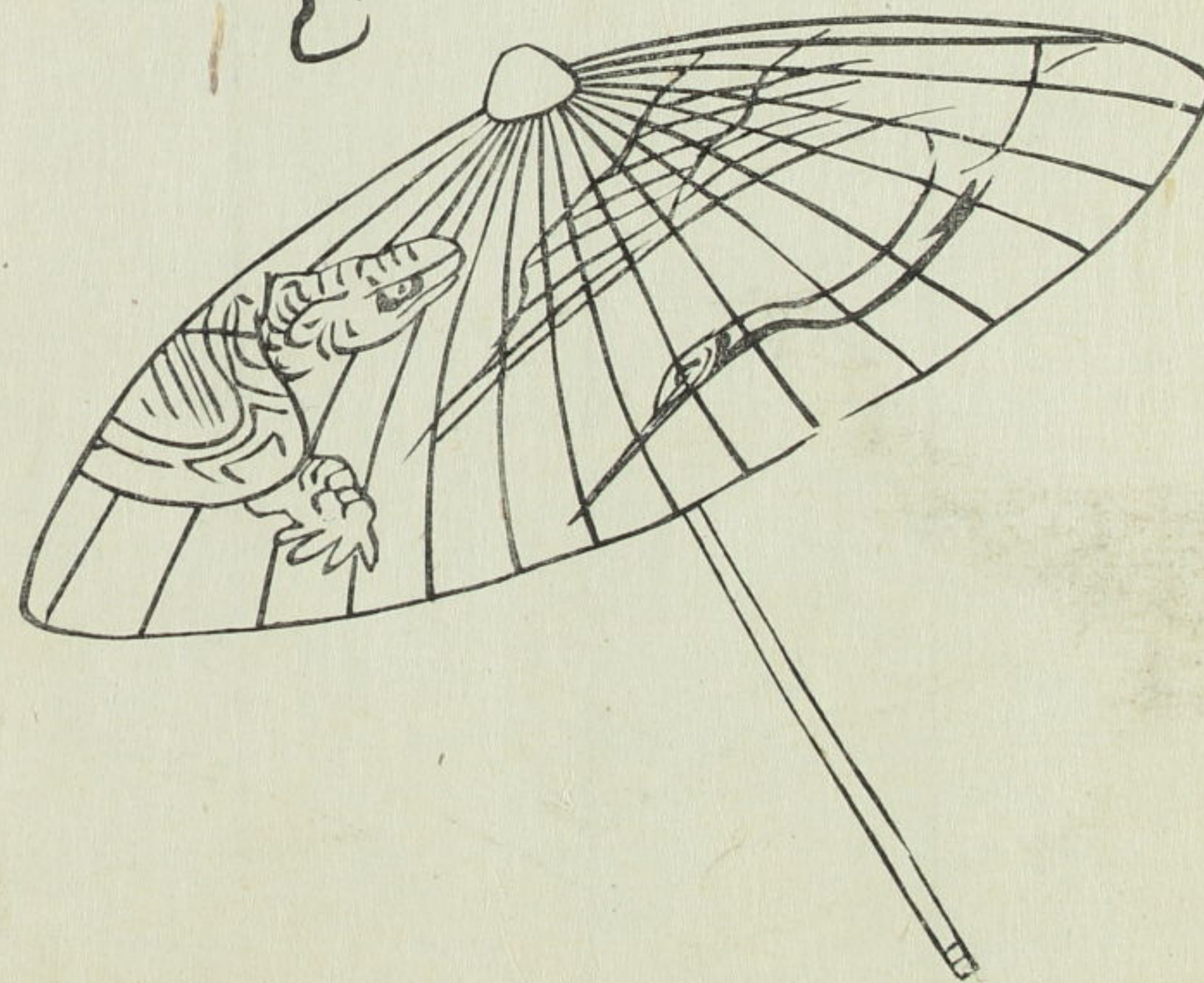
上

む
干
土
中
乃
の
甘
さ
い



上

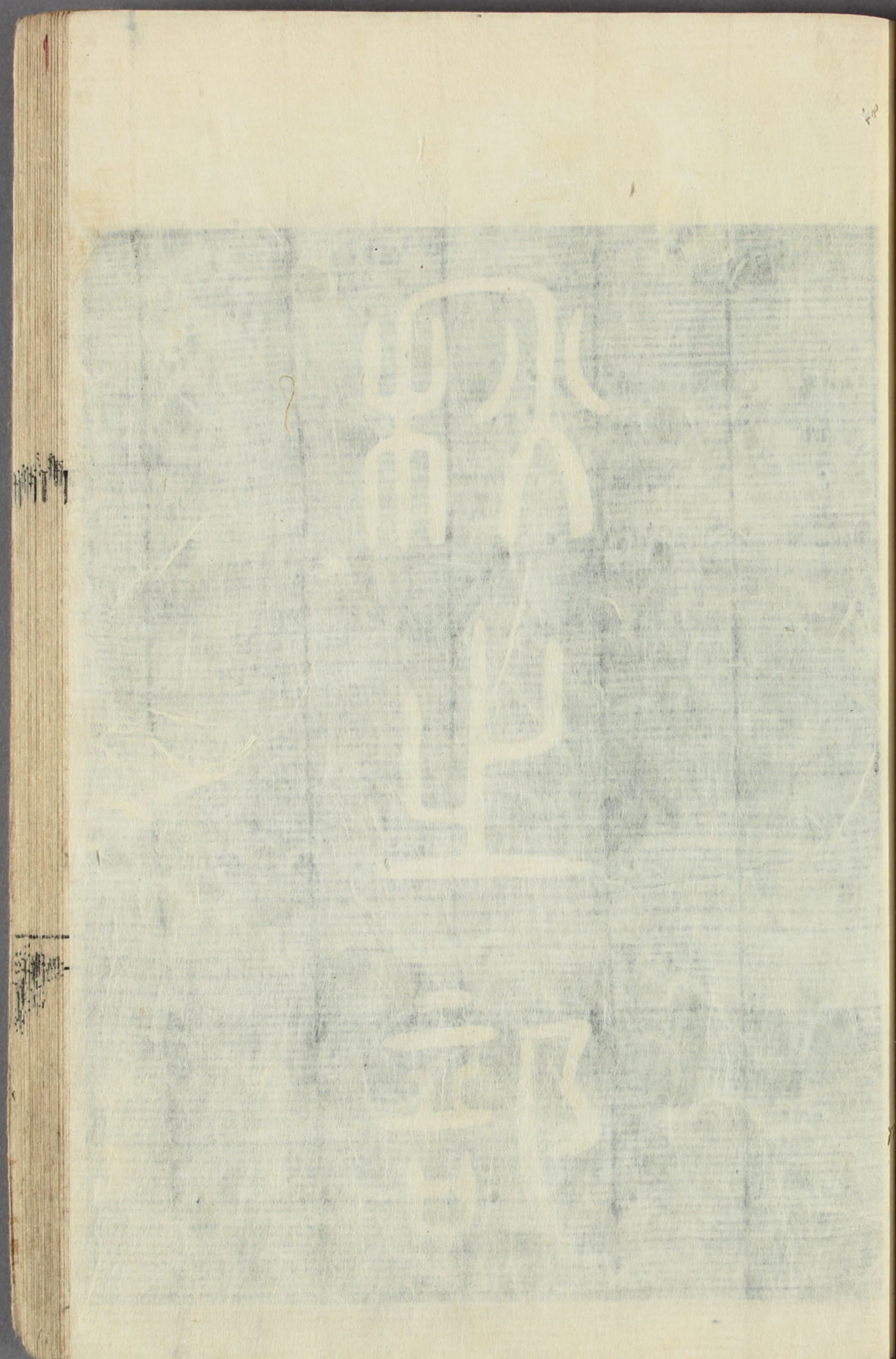
日
傘
さ
下
急
沈
む





白雨

降の庭
際



糸止部

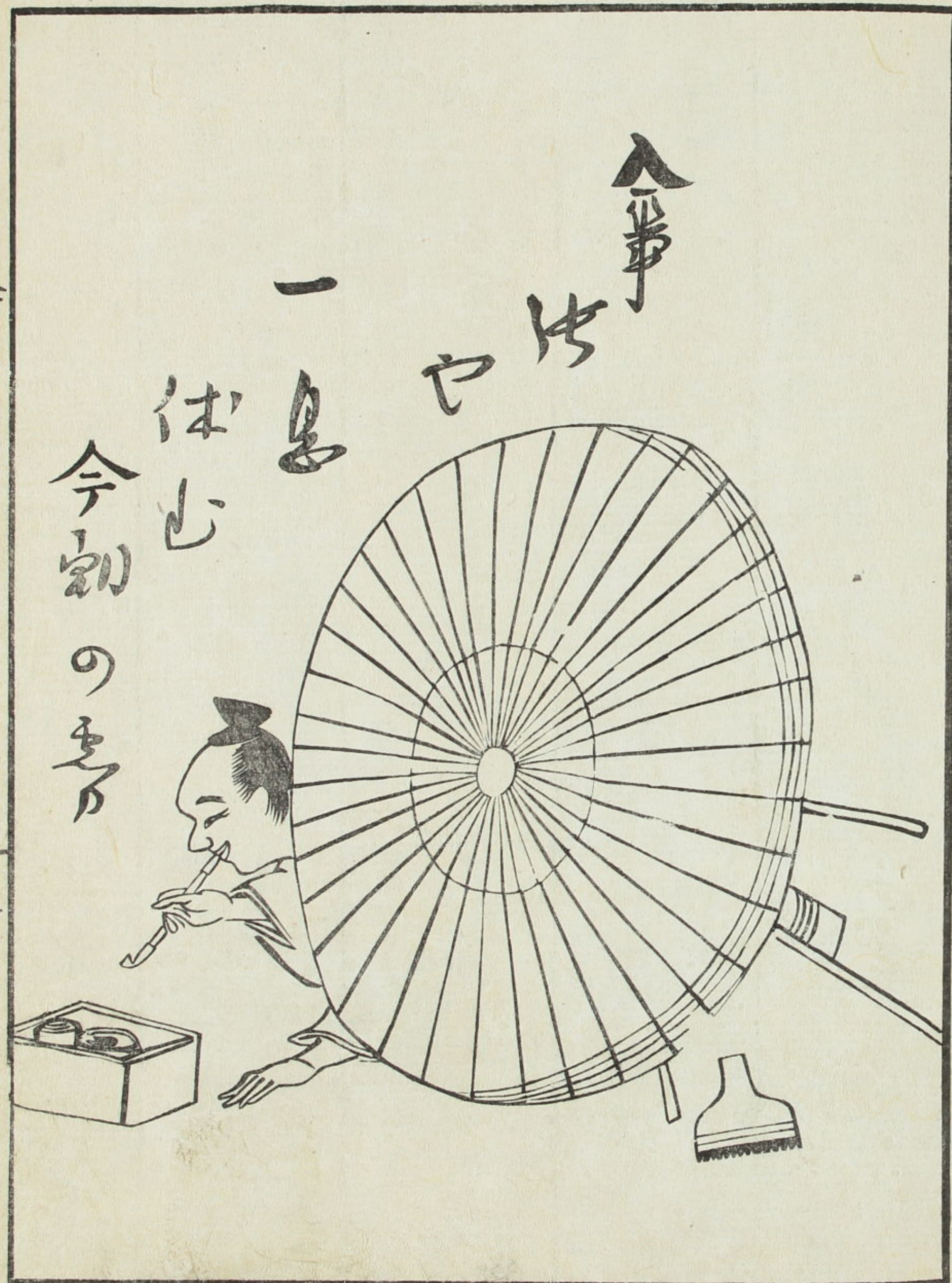


落

乃臨

并如也

銀漢

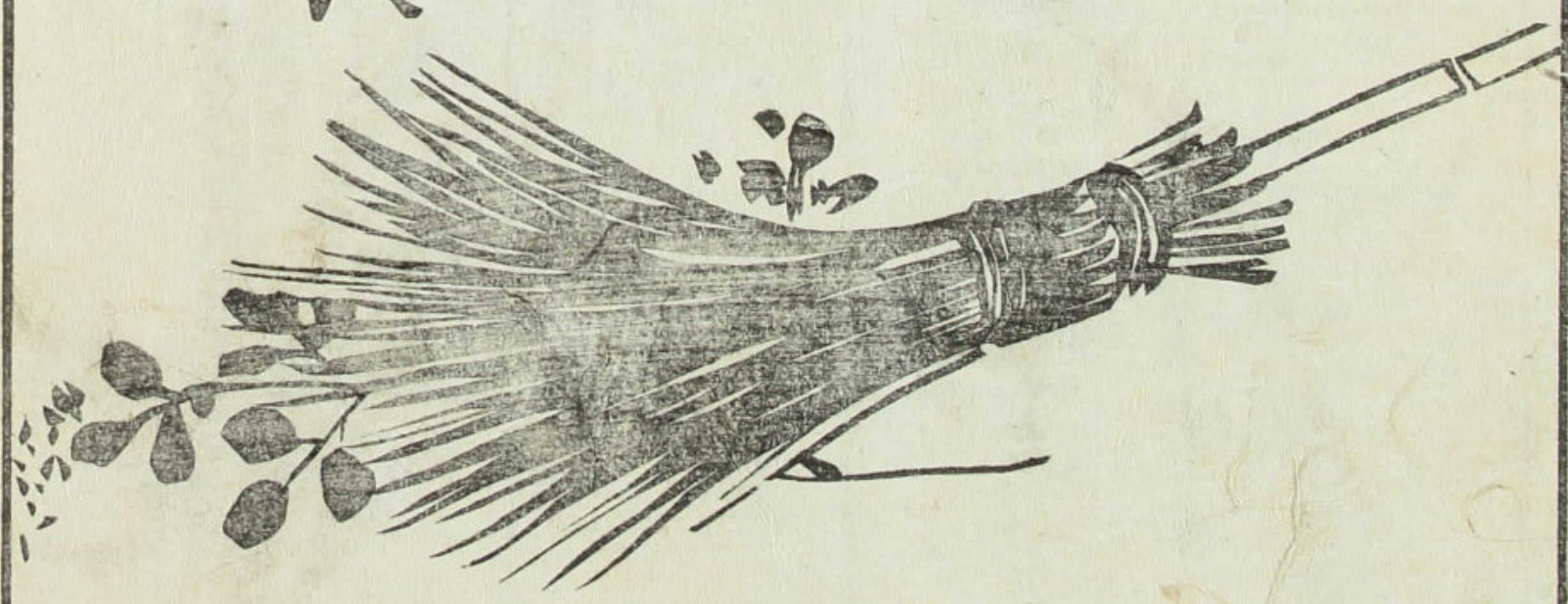


箒目や

戸に

掃こむ

こぼれ秋

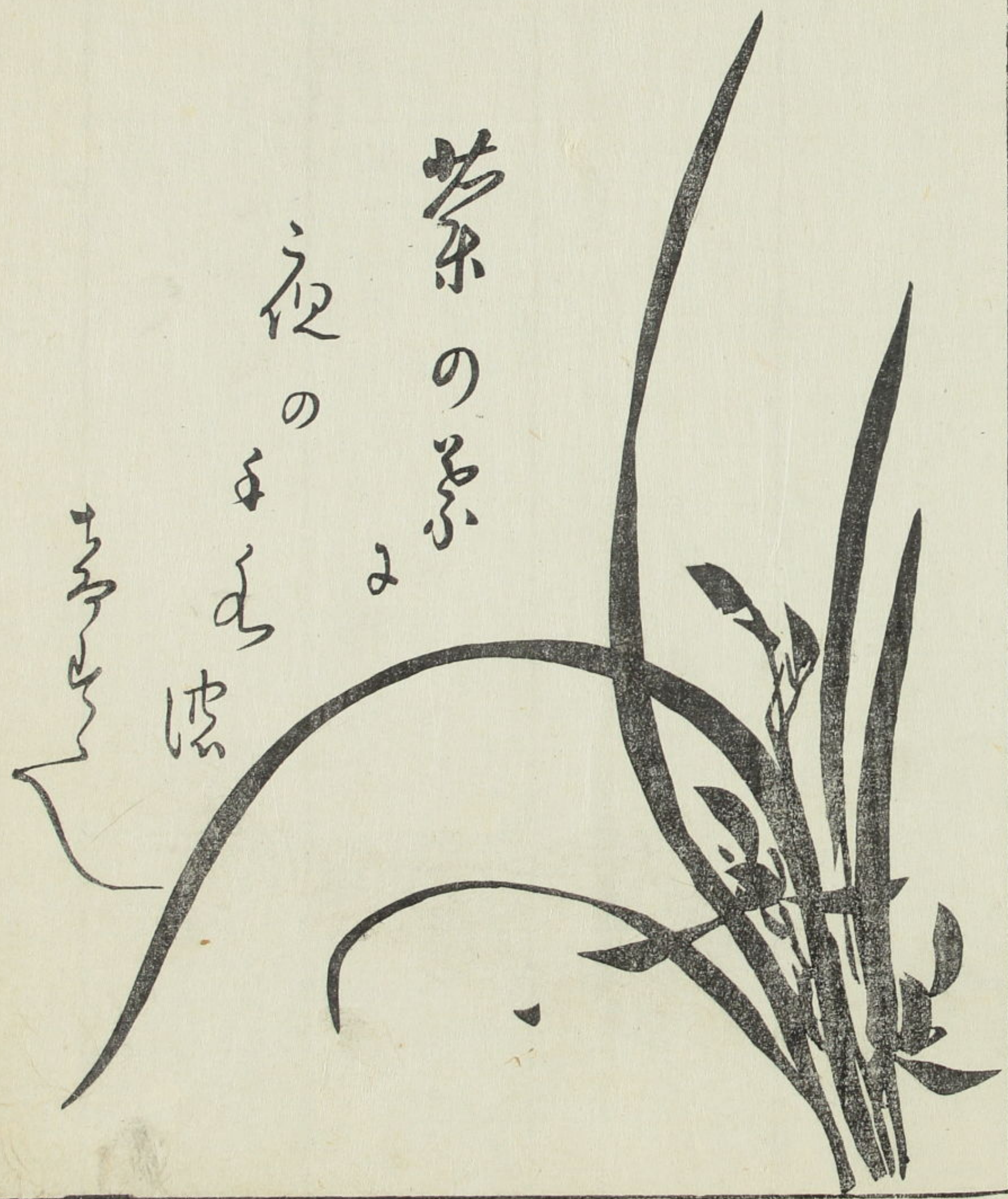


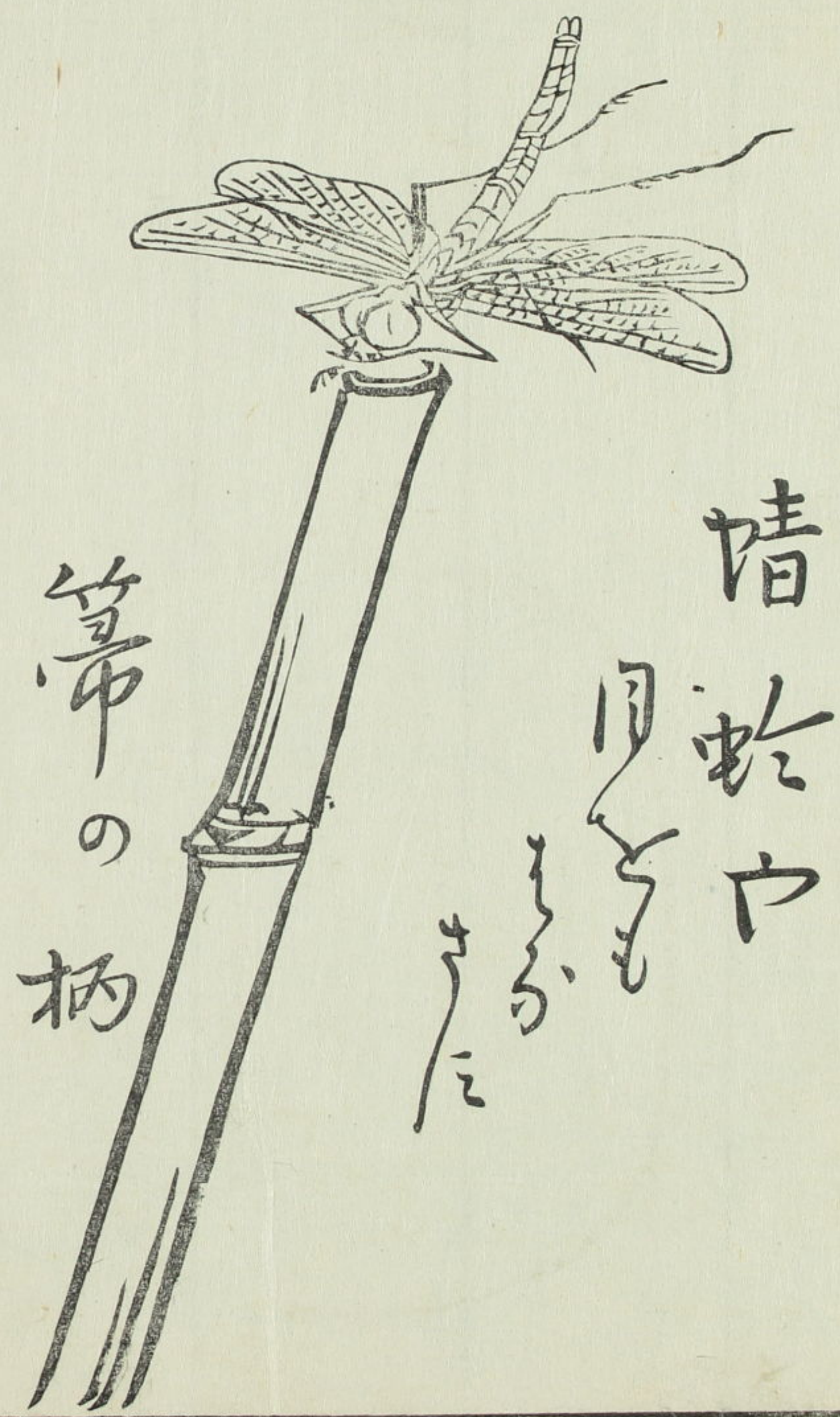
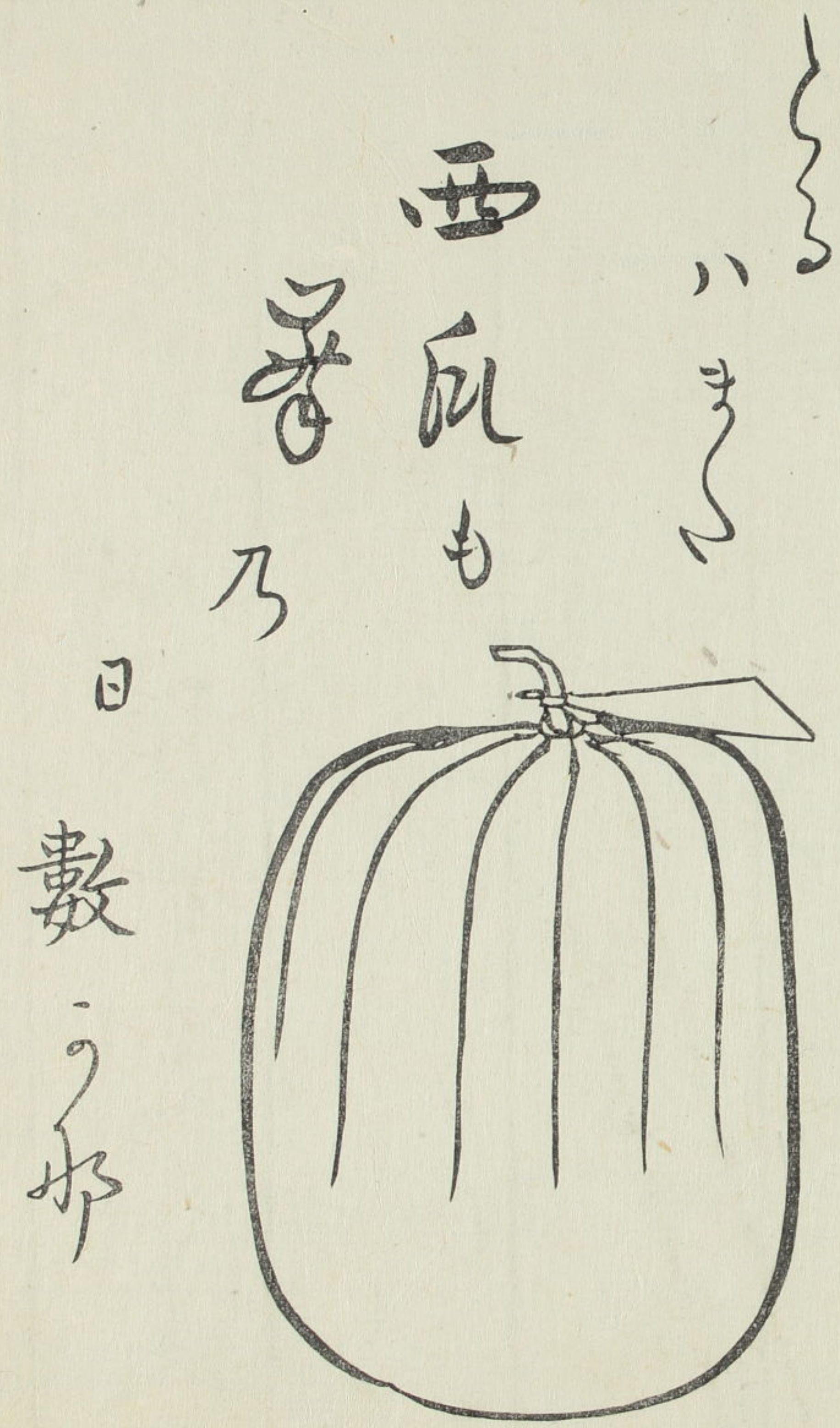
紫の糸

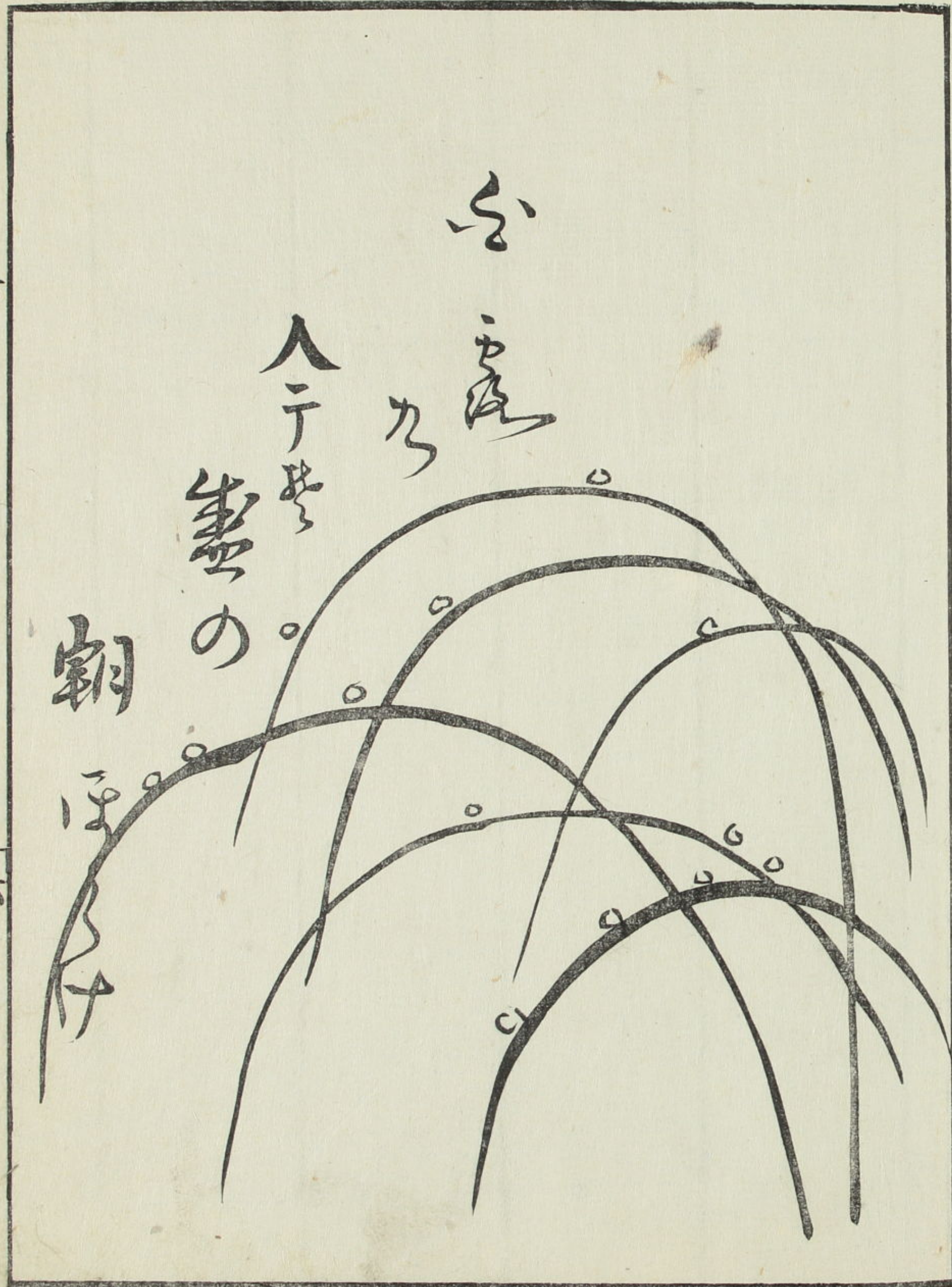
夜の

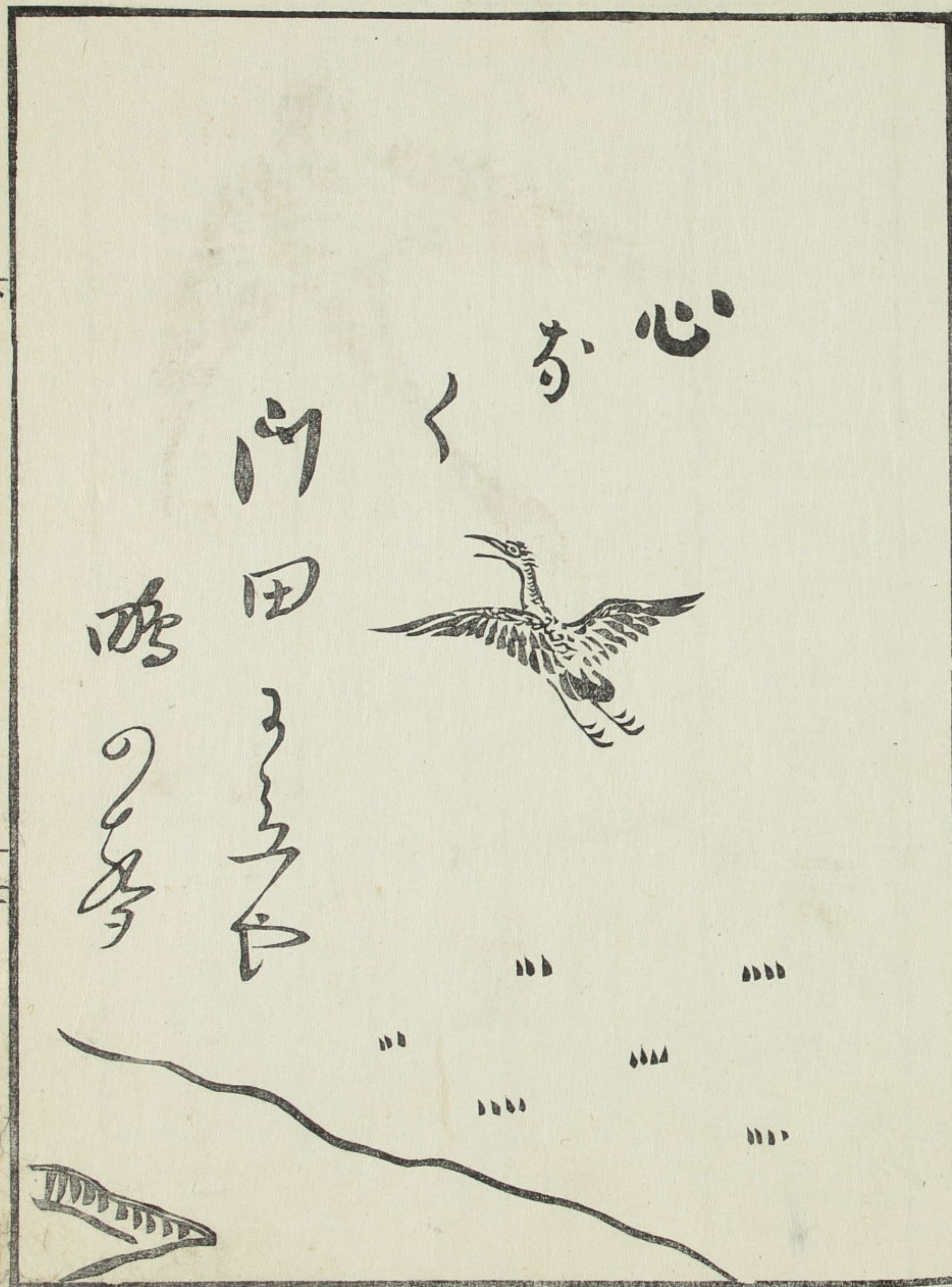
まよ

まよ

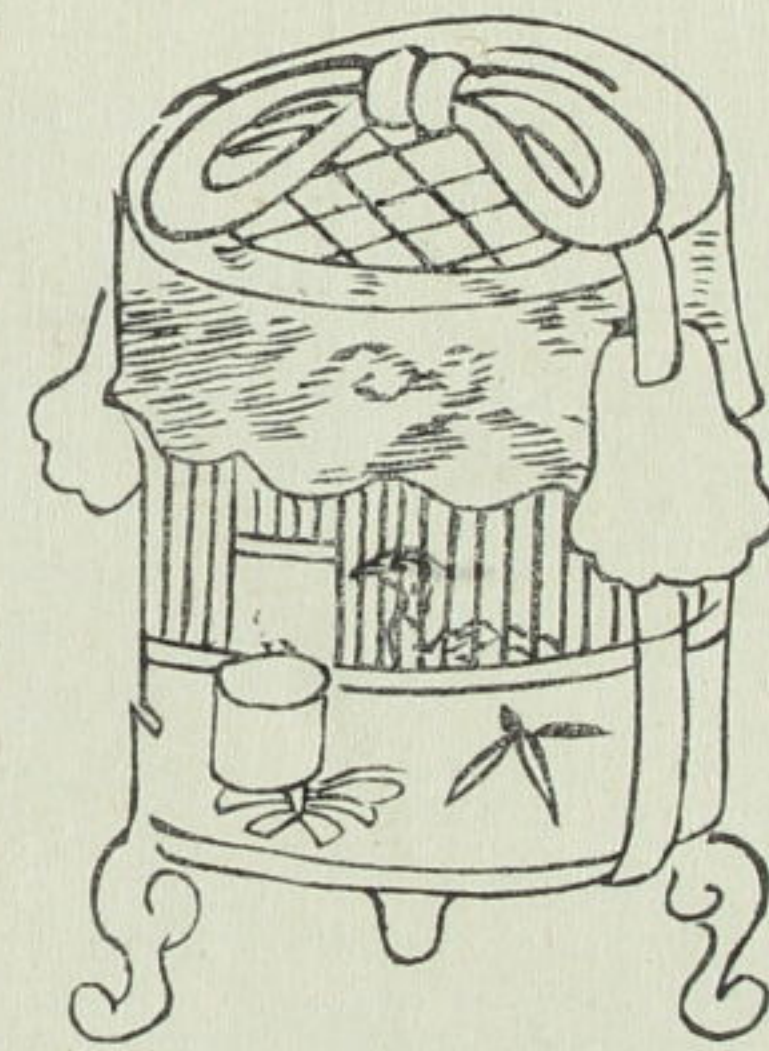








花の

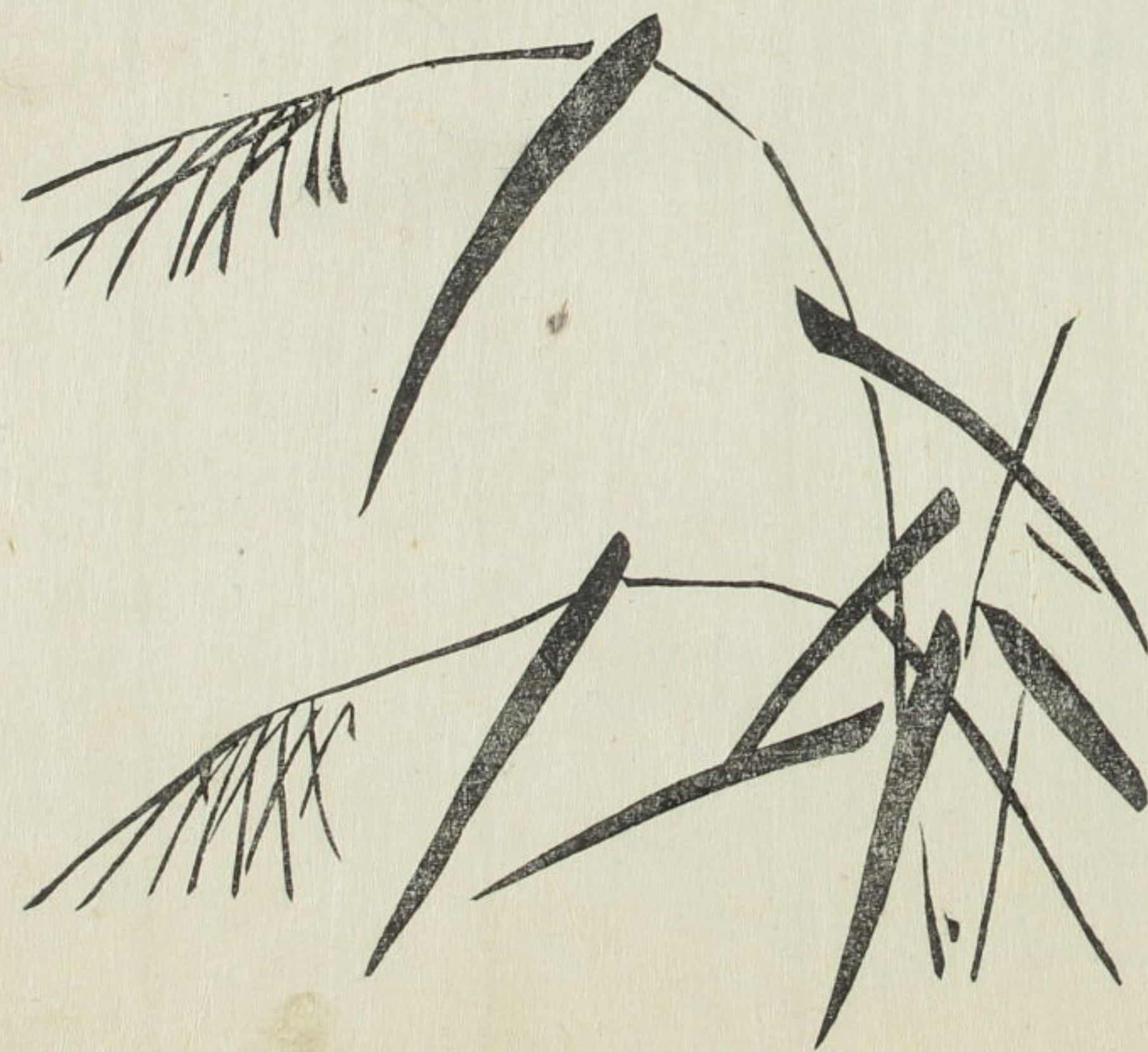


あそびの
花の

秋の

あそびの

秋の



旅

人

い

く

夏花



日

ハ

乃

花

花



愁

も

い
し
は

も
よ

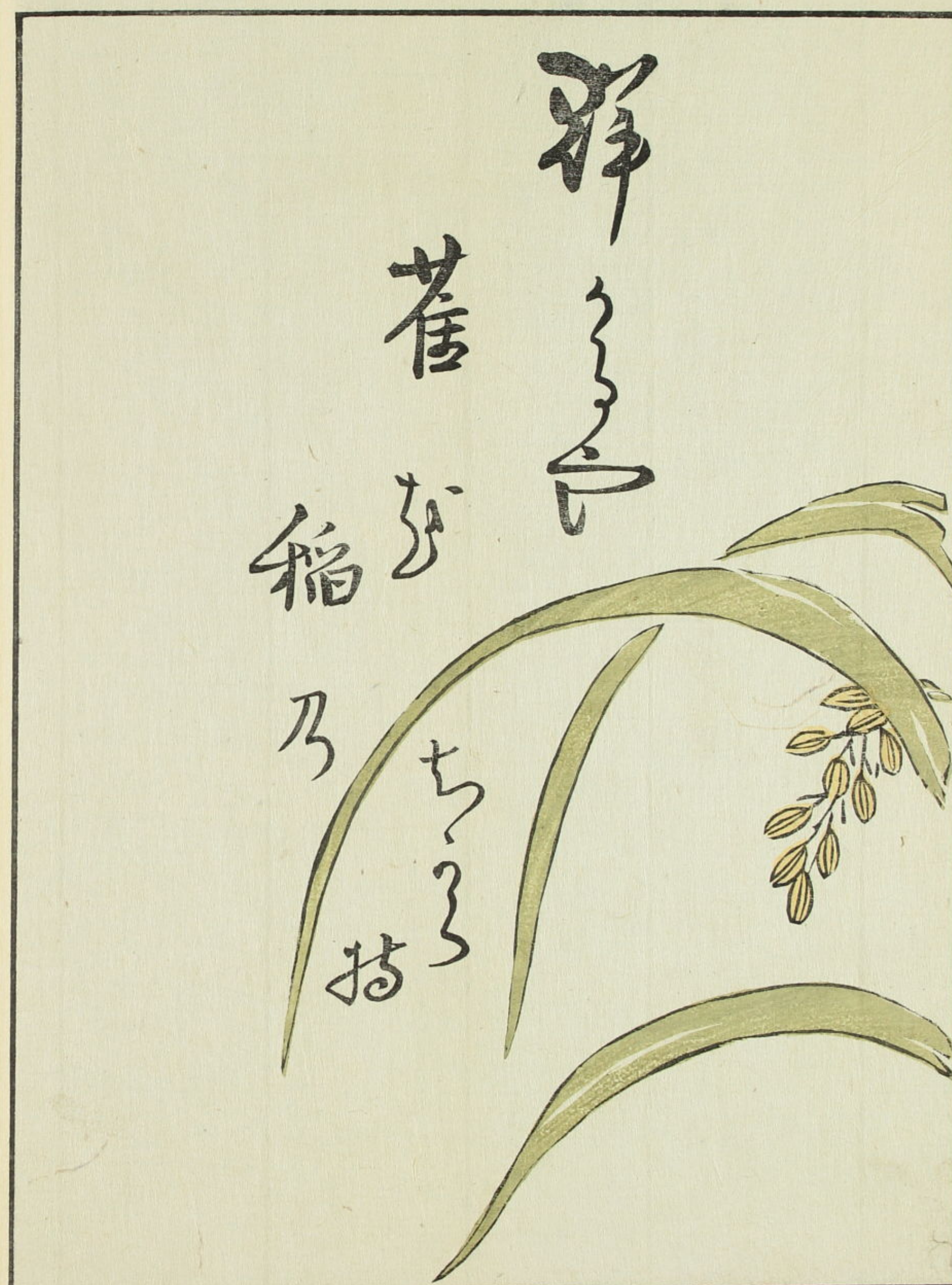
糸
雛
江



夢
灰

枯
木
再

字
如





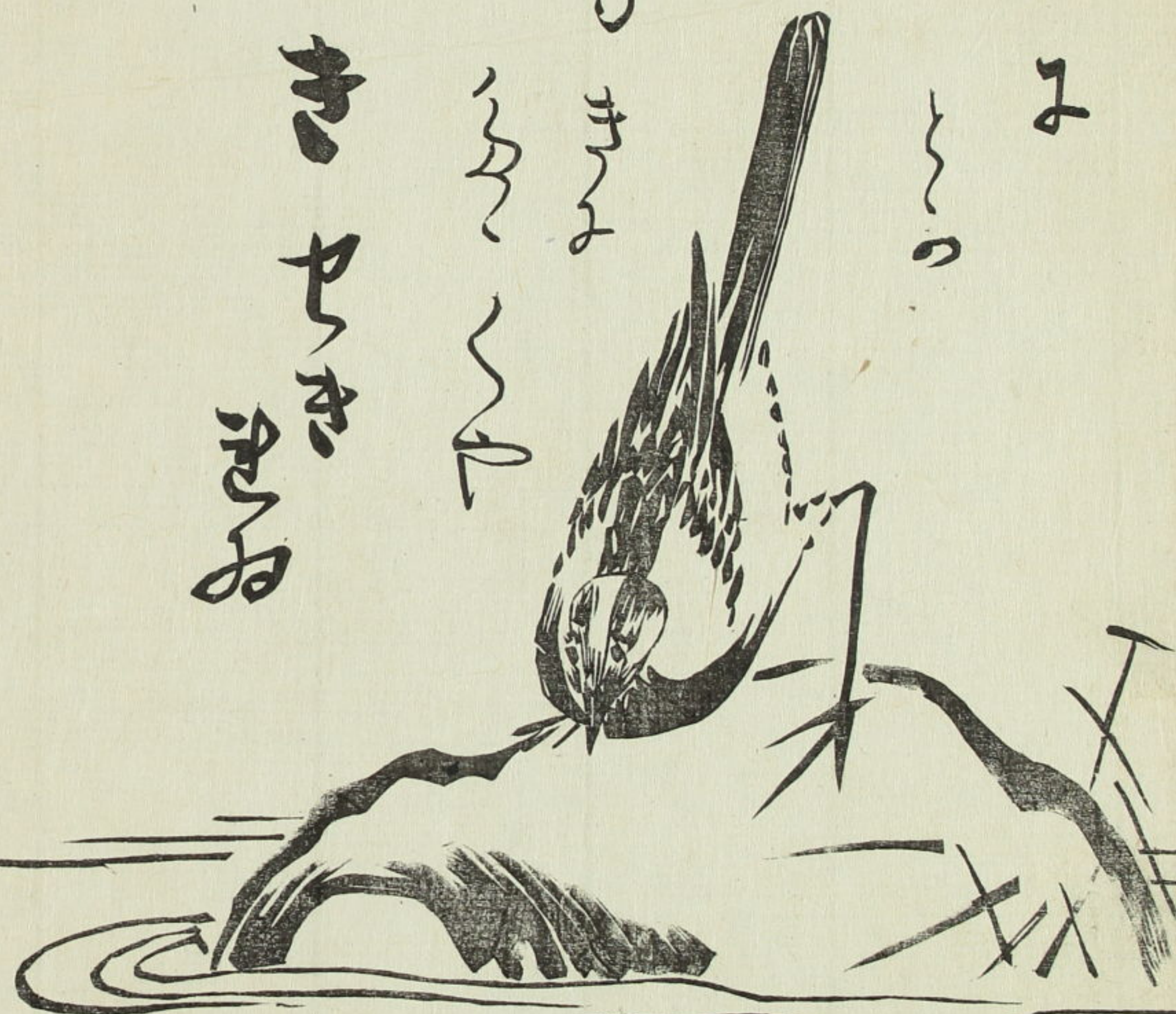
ねもふ
 這行
 葡萄
 捨種子



花々
 實と
 乃
 山
 乃
 乃

岩子

おきよ
くさくさ
きやき
お



えき

くさくさ

きやき
お

おきよ





山之端於
重登流紅
葉哉今朝
能霜



庭中
花
香
如
畫

寺
々
乃
花

冬
上
部



氏子

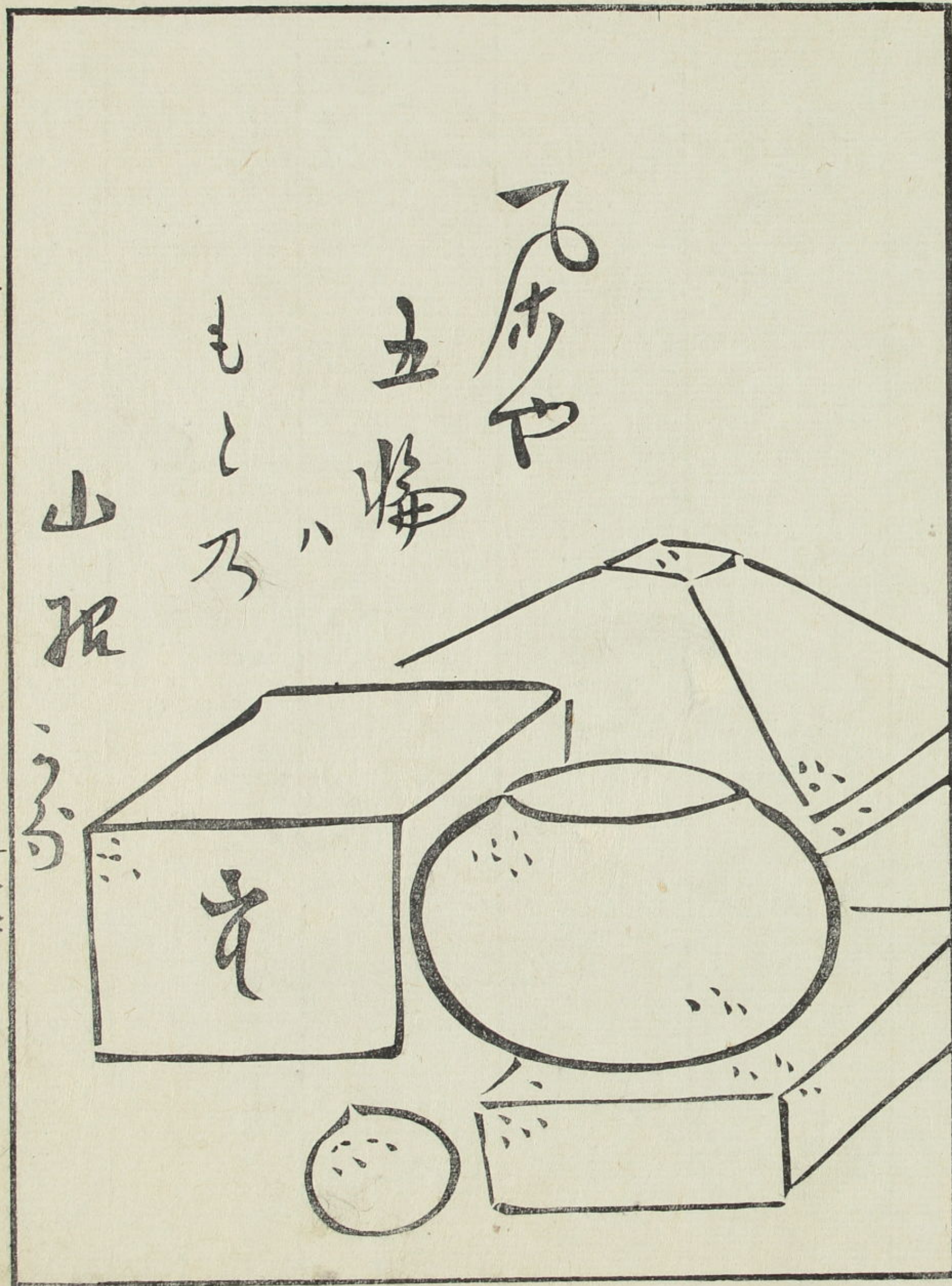
とら

お山

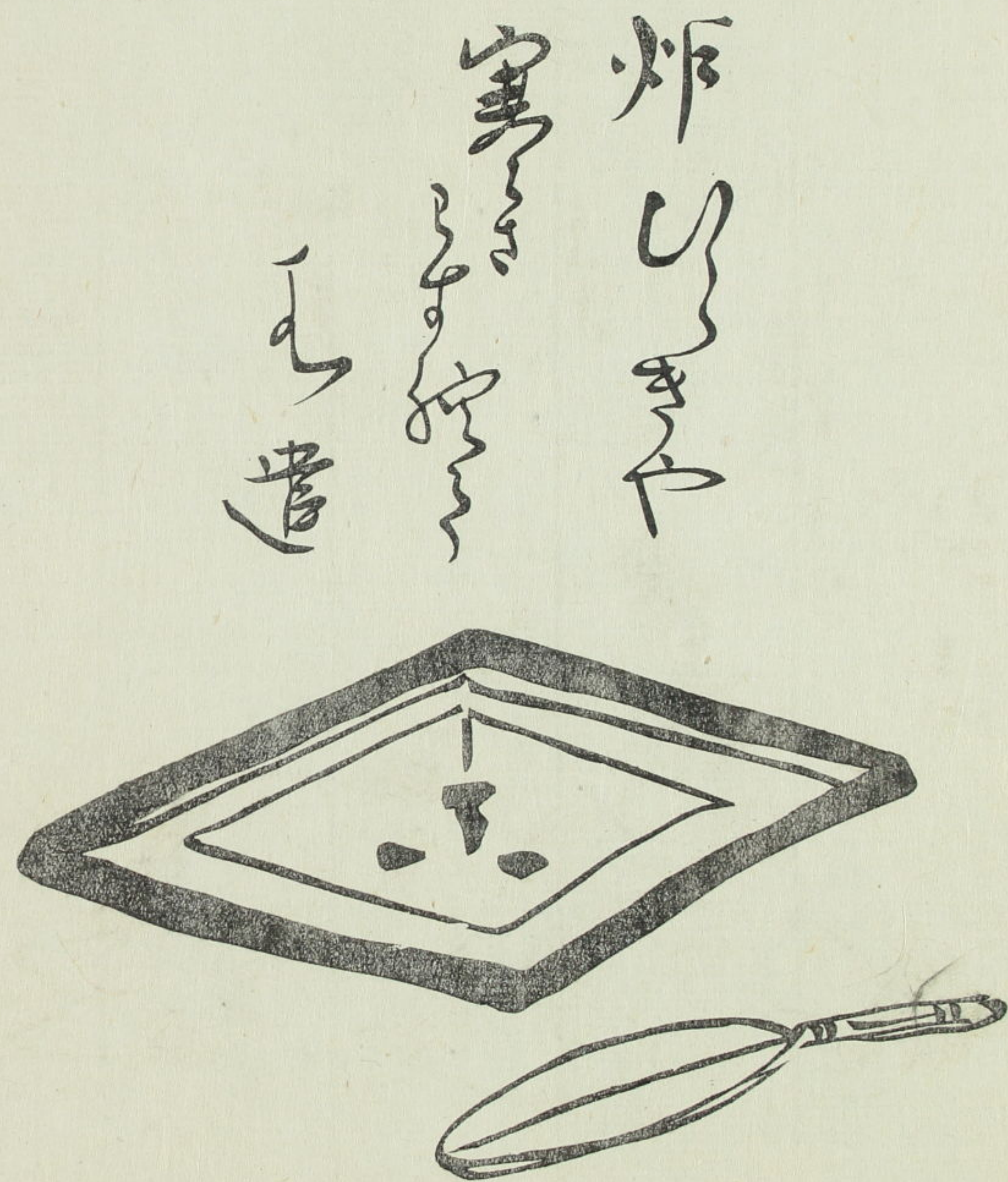
あそび

古川





子成也
 字子雀
 乃
 斗



漠谷ハ残人の
雪亡陽花



之葉ハ

老乃姿ガ
華モ



山茶花戸

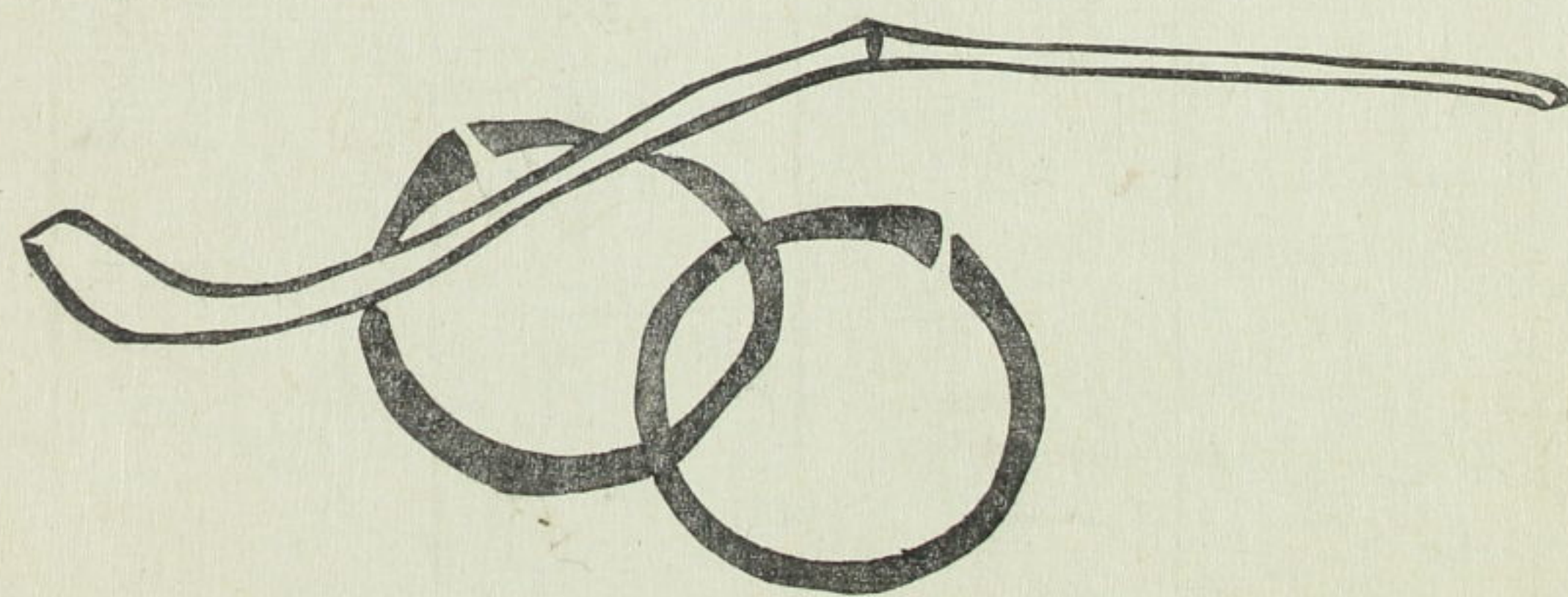


花より
出づる
うみ

糸の花

ちりちり

時の
の
跡



音乃

鈴乃

仕の

批
池の
ん
ん



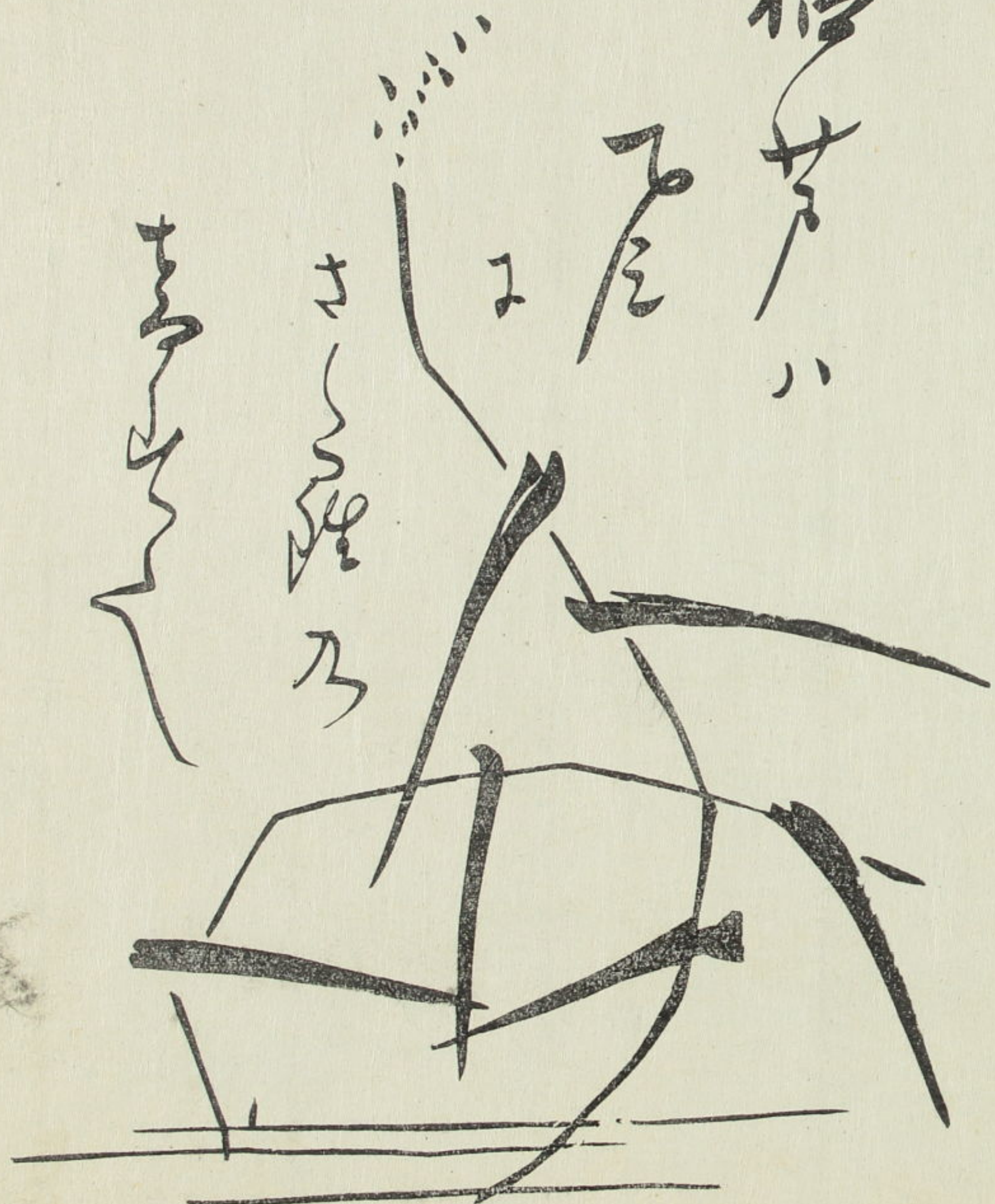
結
草
ハ

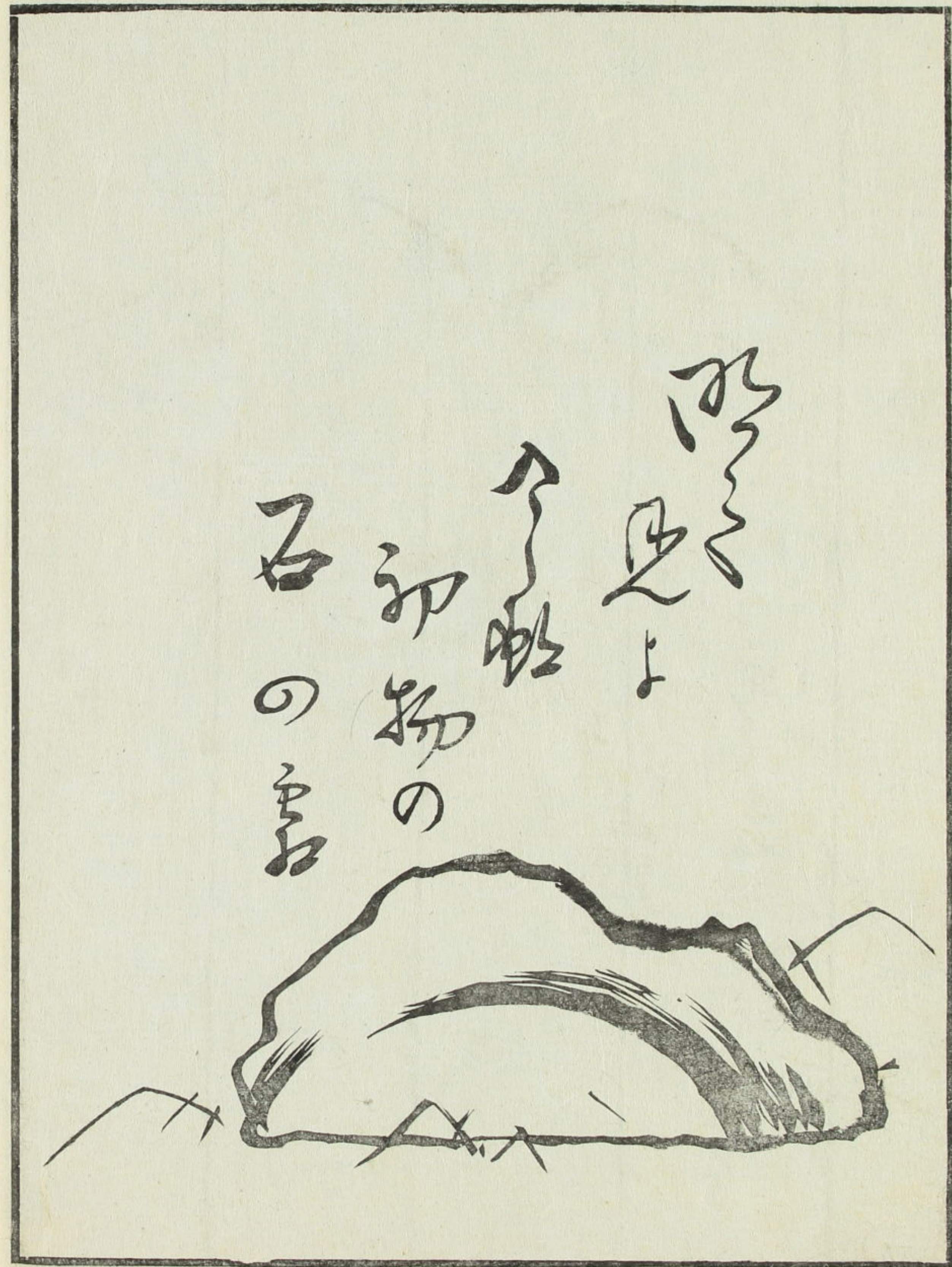
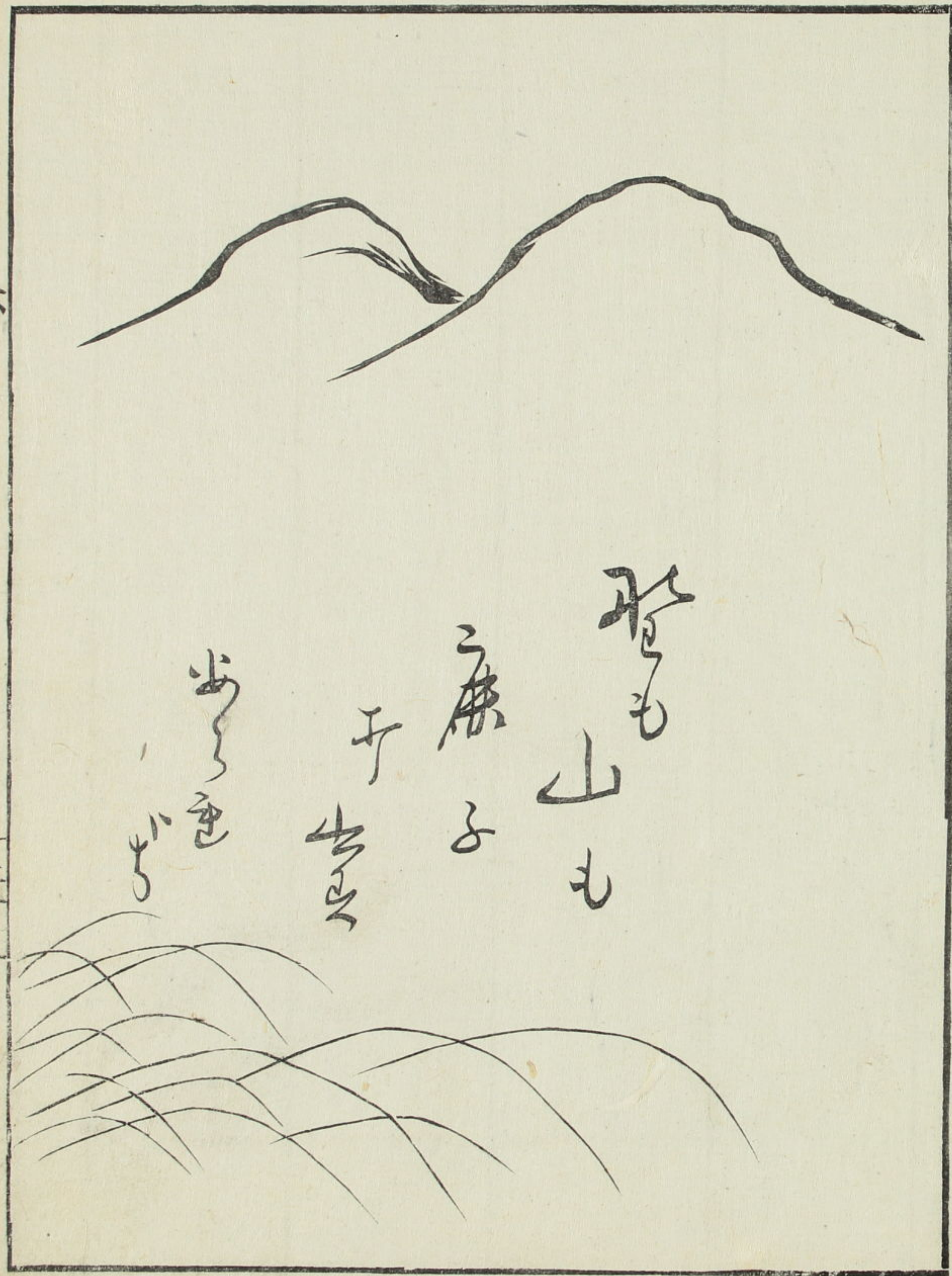
子
屋

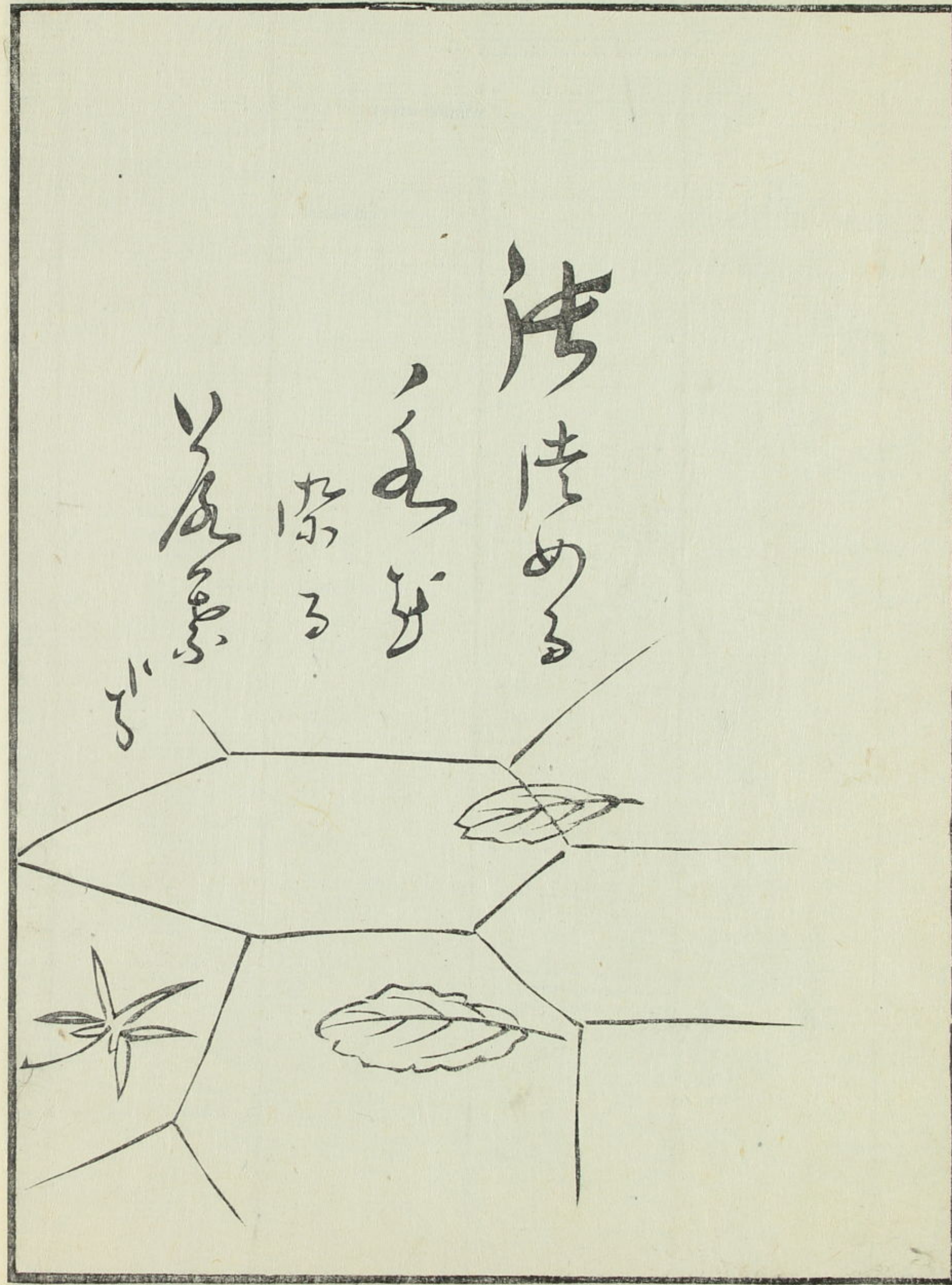
ハ

さ
さ
乃

さ
さ
乃

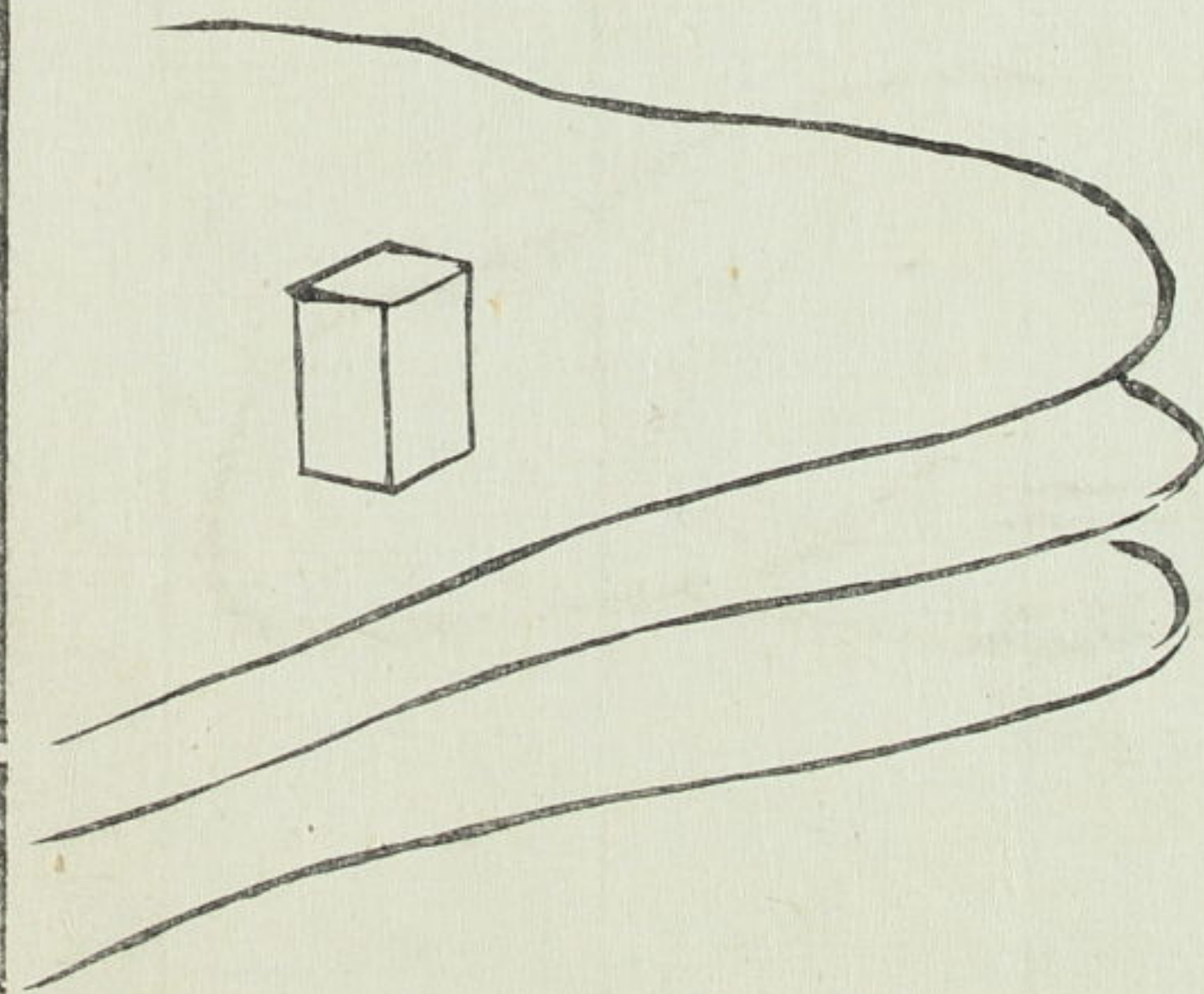








安
 恩ハ
 子神女
 三布堂



宝

吹
也

又



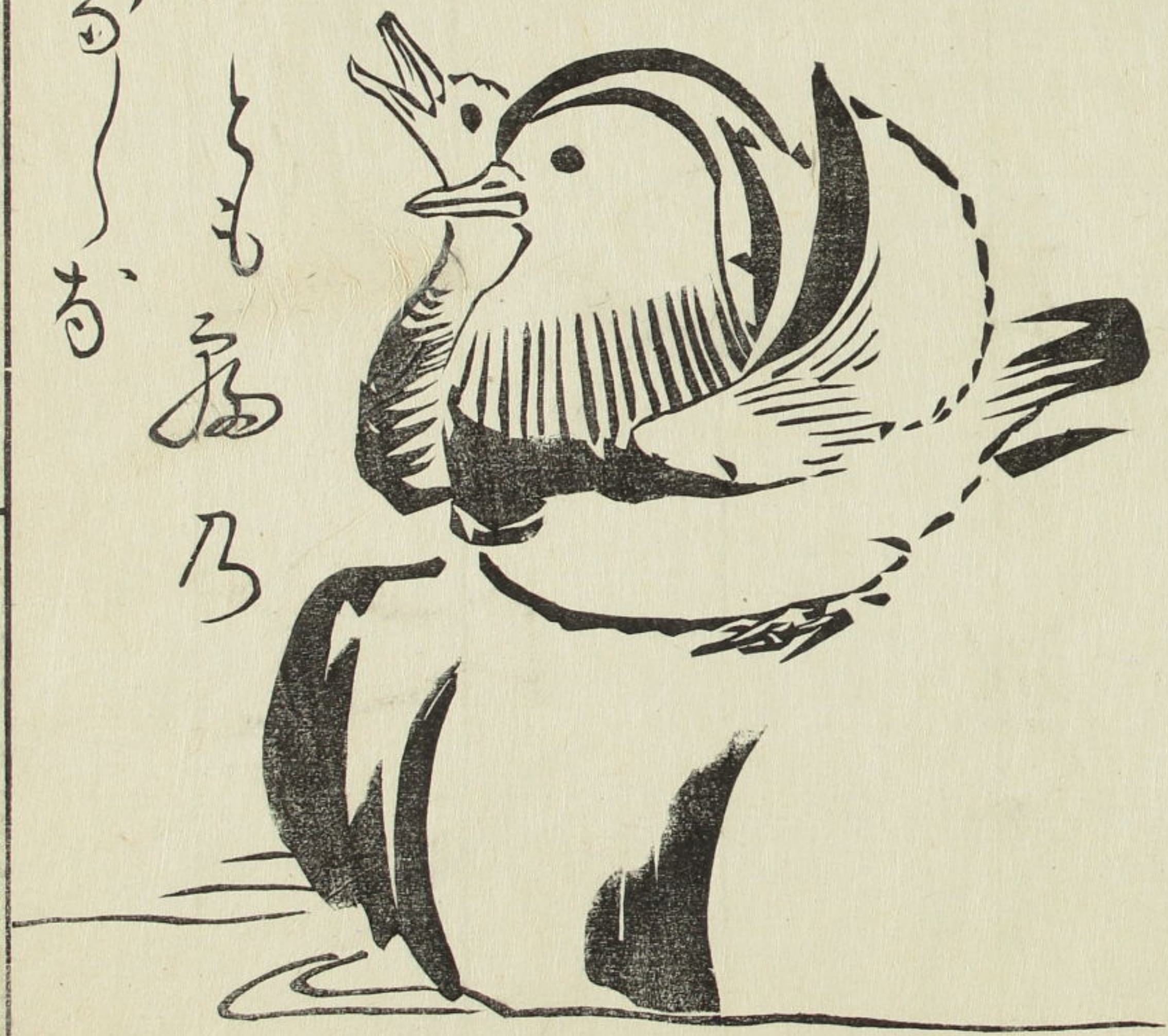
玉

印

四月

2

此乃
月
乃

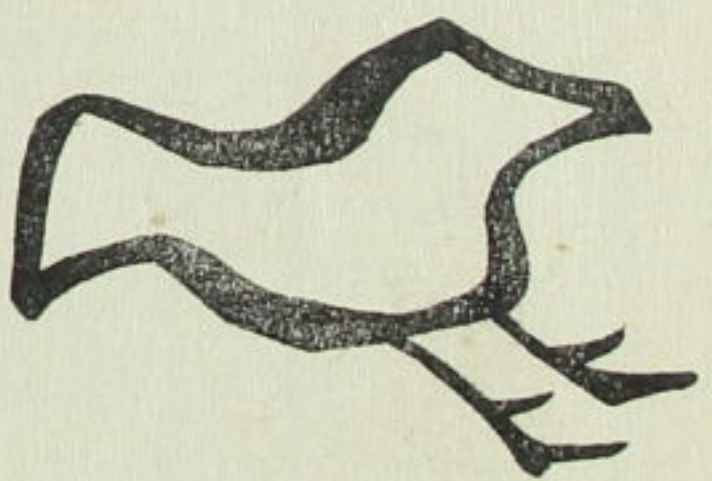


し
う
わ

見

ふ
き

ハ



乃
海
乃

室
乃
親ハ
此
室



ふ
あ
の
ふ
き
が

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

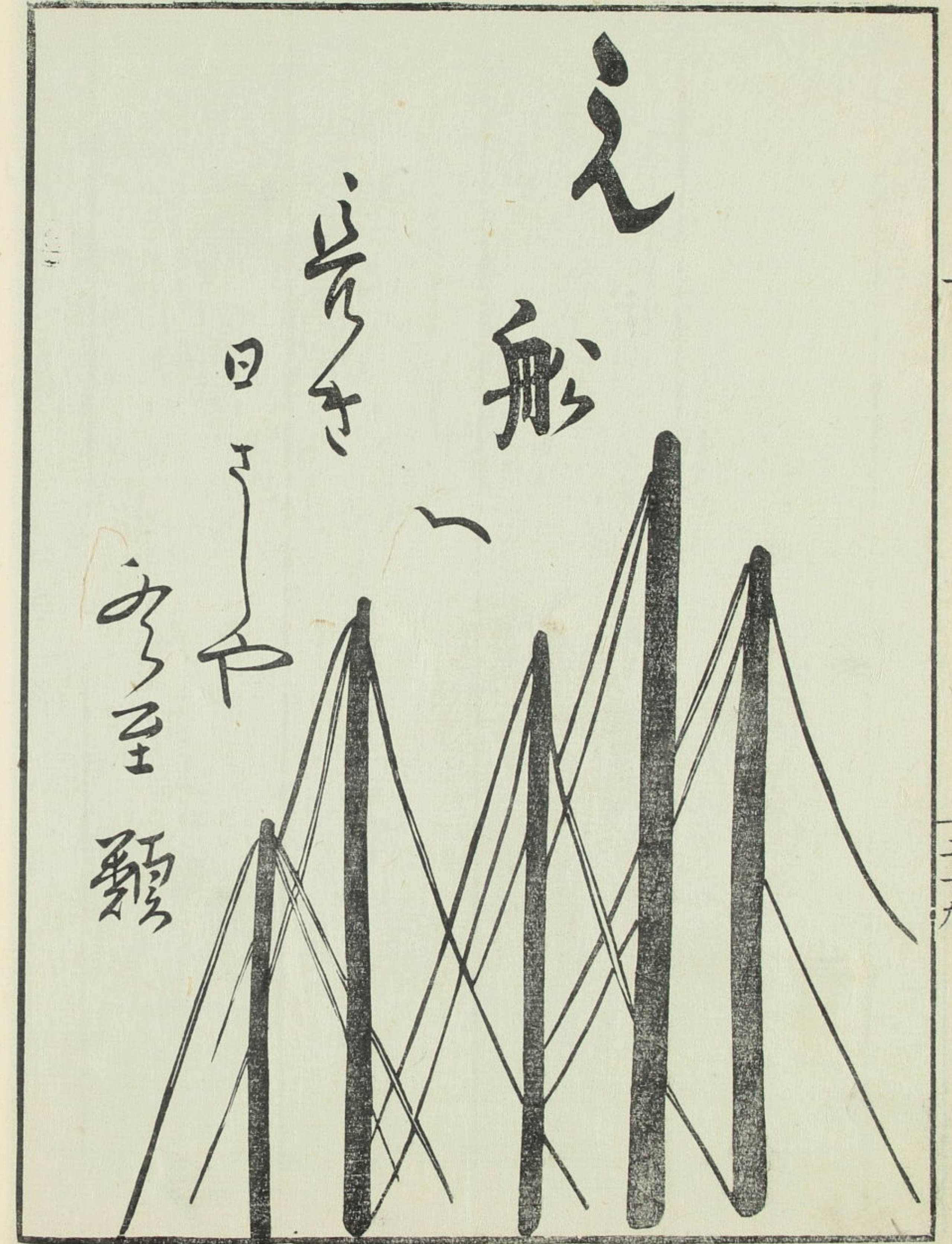
多
他
花



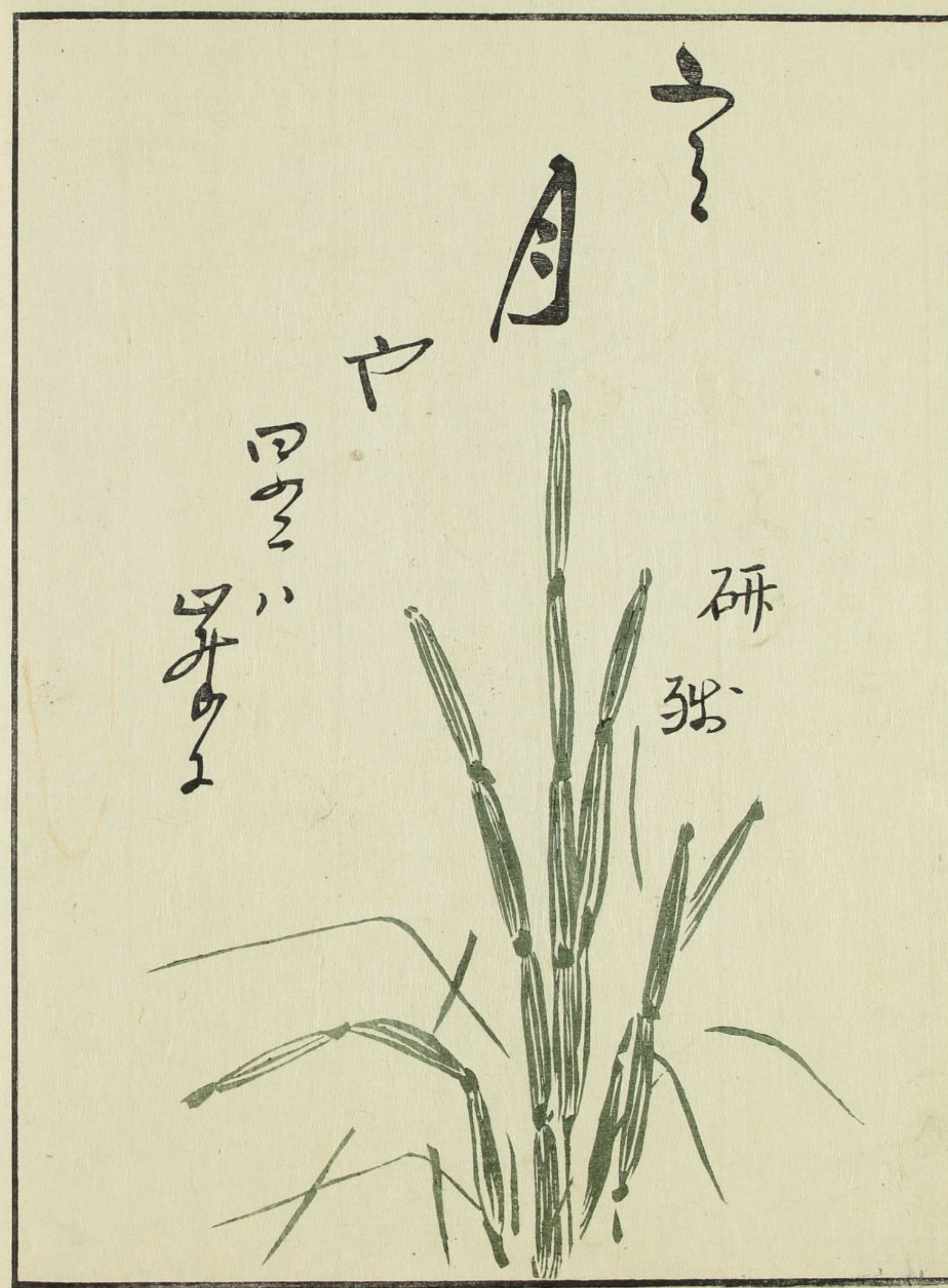
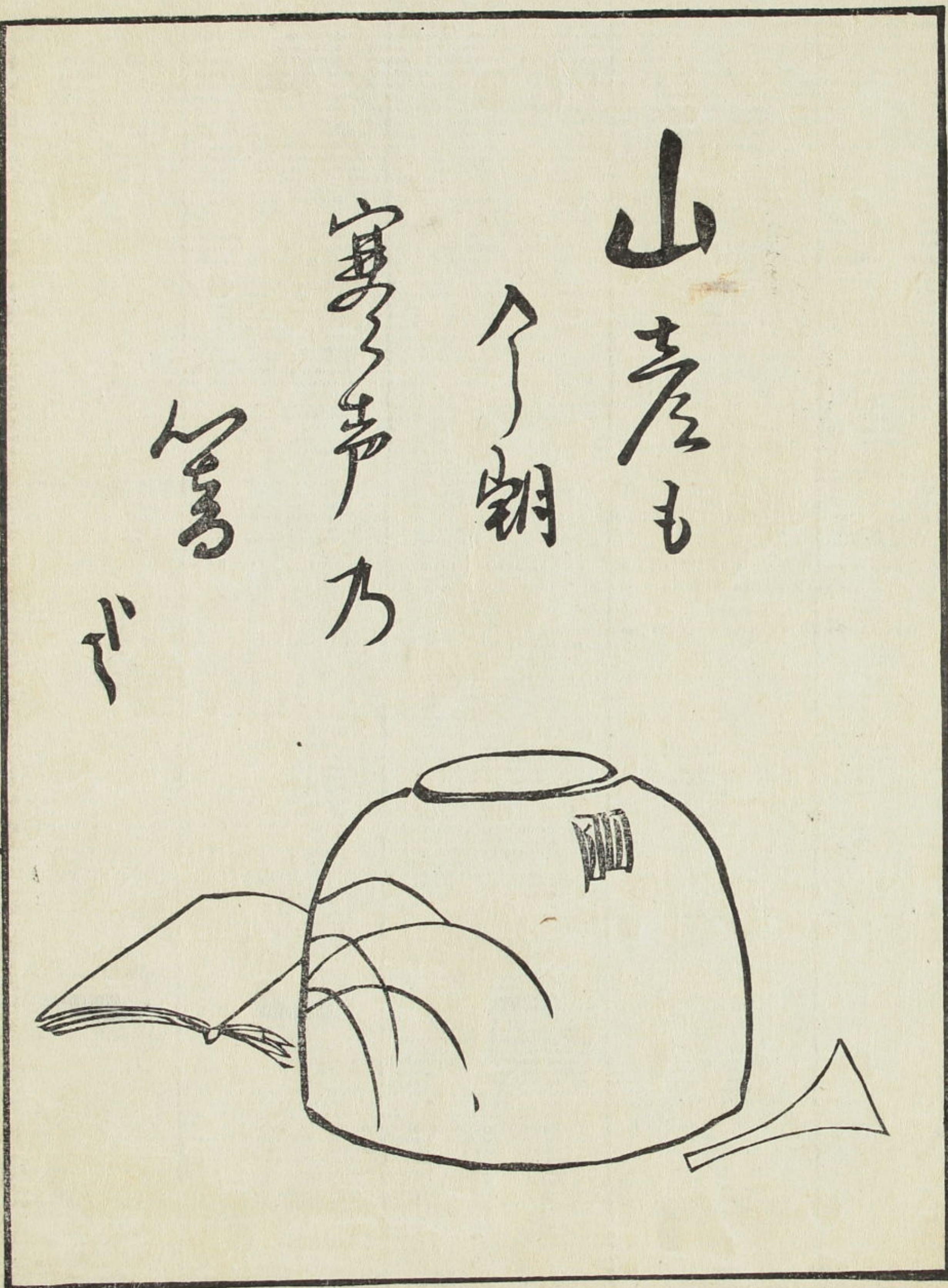




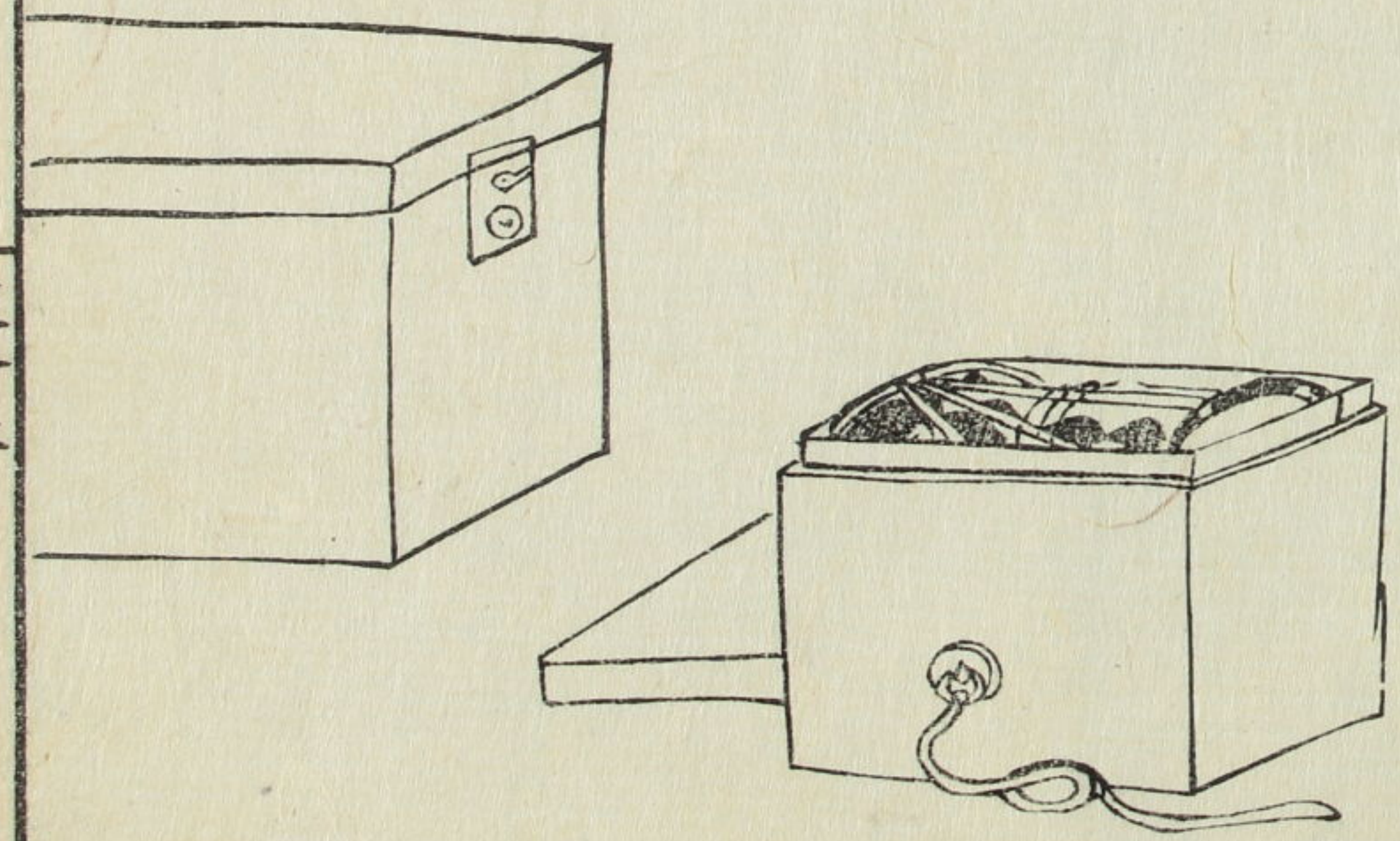
空
今
乃
空
乃



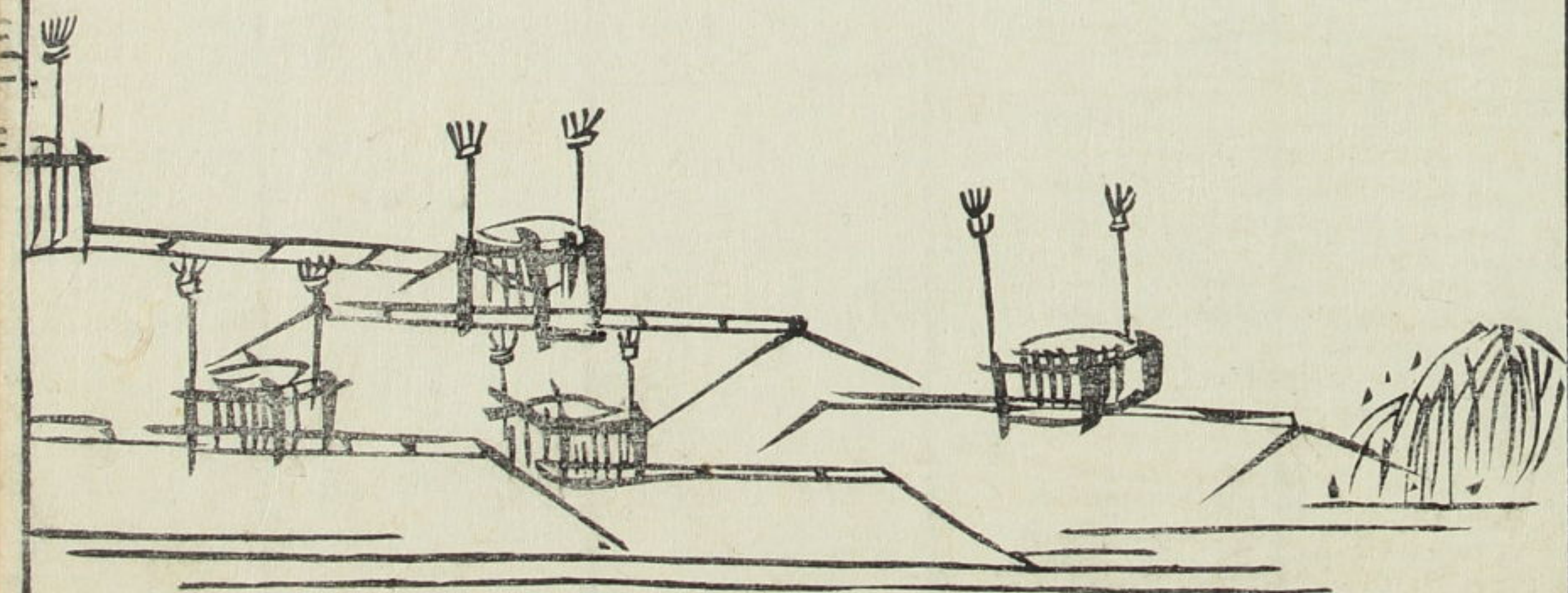
船
日
空
至
空



川
 之
 折
 活
 之
 志



師走
 土曜
 市
 中



燦
 王

改中
 七
 元色

乃白敷而省之予之吟を
己の刻より吟て申刻に端
尾より而後より友人のりあ
いふみうく櫻をゆいぬ
まゝもあつち秋に思ふ人
中へあつち秋香をゆ
人筆を述



安永三年甲午十一月

壬生村住

雕工

永島六右衛門



皇都

高辻通室町西江入

書林

井上新右衛門梓

